

令和4年度
障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

障害者芸術文化活動普及支援事業報告書

障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

令和4年度

2023年3月

令和4年度

障害者芸術文化活動

普及支援事業報告書

はじめに

「障害者芸術文化活動普及支援事業」は、2017（平成29）年度からスタートして、今年度で6年目の実施となりました。

今年度、本事業を実施する「障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）」は40ヶ所、それら支援センターをブロック単位でサポートする「障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）」は7ヶ所で展開しました。

令和4年度もコロナ禍という困難な状況ではありましたが、徐々に対面での事業も再開されるようになりました。各センターがそれぞれの地域の感染状況を考慮しながら、事業を進めました。

本書が、本事業の取り組みを知っていただくきっかけになるとともに、全国各地での障害のある人の芸術文化活動支援の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の発行にご協力を頂いたすべての皆さまへお礼を申し上げます。

障害者芸術文化活動普及支援事業
連携事務局

（特定非営利活動法人アートNPOリンク、株式会社precog）

目次

02	はじめに	
03	目次	
04	障害者芸術文化活動普及支援事業とは	
06	支援センター・広域センター一覧	
09	支援センター・広域センターの取り組み	
10	北海道・北東北ブロック	68 近畿ブロック
12	広域センター アールブリュット推進センター Gently（ジェントリー）	70 広域センター 障害とアートの相談室
14	青森県 青森アール・ブリュットサポートセンター（AASC）	72 滋賀県 アール・ブリュットインフォメーション & サポートセンター
16	岩手県 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると	74 京都府 art space co-jin
18	南東北・北関東ブロック	76 大阪府 国際障害者交流センター ビッグ・アイ
20	広域センター 南東北・北関東ブロック広域センター	78 兵庫県 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター
22	宮城県 障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）	80 和歌山県 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課
24	山形県 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら	82 中国・四国ブロック
26	福島県 はじまりの美術館	84 広域センター 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle
28	栃木県 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]	86 鳥取県 あいサポート・アートセンター
30	南関東・甲信ブロック	88 島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ
32	広域センター 南関東・甲信障害者アートサポートセンター	90 広島県 広島県アートサポートセンター
34	埼玉県 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集（基幹型）	92 徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
36	埼玉県 ART (s) さいほく（特色型）	94 香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES
38	千葉県 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり	96 愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター
40	東京都 東京アートサポートセンター Rights（ライツ）	98 高知県 薬工ミュージアム 分室
42	神奈川県 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター	100 九州ブロック
44	山梨県 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター	102 広域センター 九州障害者アートサポートセンター
46	長野県 ザワメキサポートセンター （長野県障がい者芸術文化活動支援センター）	104 福岡県 FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）
48	東海・北陸ブロック	106 佐賀県 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC
50	広域センター 東海・北陸ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター	108 長崎県 長崎県障害者芸術文化活動支援センター
52	新潟県 新潟県障害者芸術文化活動支援センター	110 熊本県 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館
54	富山県 富山県障害者芸術活動支援センター ぱーと◎とやま	112 大分県 おおいた障がい者芸術文化支援センター
56	石川県 文化・芸術活動支援センターかける	114 宮崎県 宮崎県障がい者芸術文化支援センター
58	福井県 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと	116 鹿児島県 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター （かごしまアールブリュットセンター）
60	岐阜県 岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASC ぎふ]	
62	静岡県 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと	
64	愛知県 愛知県障害者芸術文化活動支援センター	
66	三重県 三重県障がい者芸術文化活動支援センター	
119	連携事務局の取り組み	
128	数値で見る実績	

障害者芸術文化活動普及支援事業とは

障害のある人が芸術文化を享受し、多様な芸術文化活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとした中間支援事業です。

2014（平成26）年度から3年間を通じて全国12ヶ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに、2017（平成29）年度から支援の対象を「絵画や陶芸などの美術分野」に加えて、「演劇や音楽、舞踊などの舞台芸術分野」にも広げ、2020（令和2）年度からは「美術、音楽、演劇、舞踊などの多様な芸術文化活動」を対象として実施しています。

活動地域に応じて、都道府県「障害者芸術文化活動

支援センター（支援センター）」、ブロック「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」、全国「連携事務局」といった支援拠点を設置しています。

同時に、これらの支援センター、広域センター、連携事務局のネットワークを構築し、県境を越えて広域でも連携しつつ、地域での振興を図りながら全国規模で本事業を推進しています。

また、毎年都道府県が持ち回りで開催する「全国障害者芸術・文化祭」や、同芸術・文化祭と連携する各自治体の「障害者芸術・文化祭のサテライト開催事業」、障害者総合福祉推進事業といった厚生労働省の他事業との連携で、障害のある人の芸術文化活動の振興を相乗的に図っています。

障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）は、全国を7つのブロックに分け、ブロック内の支援センターや支援センターが設置されていない都道府県のサポートを行っています。

主な事業支援

障害者芸術文化活動普及支援事業では、支援センターが都道府県の支援拠点として相談支援や人材育成、関係者のネットワークづくり、発表の機会の確保、情報収集発信など多様なサポートを展開しています。さらに障



1 都道府県における活動支援

「障害者芸術文化活動支援センター（支援センター）」

- 1-1 都道府県内における相談支援
- 1-2 芸術文化活動を支援する人材の育成等
- 1-3 関係者のネットワークづくり
- 1-4 発表の機会の確保
- 1-5 情報収集・発信
- 1-6 事業評価及び成果報告のとりまとめ

2 ブロックにおける活動支援

「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」

- 2-1 都道府県の支援センターに対する支援
- 2-2 支援センター未設置の都道府県の事業所等に対する支援
- 2-3 芸術文化活動に関するブロック研修の開催
- 2-4 ブロック内の連携の推進
- 2-5 発表の機会の確保
- 2-6 自治体における基本計画策定の推進
- 2-7 事業評価及び成果報告のとりまとめ

3 全国レベルにおける活動支援

「連携事務局」

- 3-1 広域センター等に対する支援
- 3-2 全国連絡会議の実施
- 3-3 全国の情報収集・発信
- 3-4 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等
- 3-5 障害者団体、芸術団体等との連携

支援センター・広域センター一覧

支援センター 40ヶ所には数字、広域センター7ヶ所にはアルファベットを振った。

北海道・北東北ブロック

A 北海道 アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

- 01 青森県 青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)
- 02 岩手県 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

南東北・北関東ブロック

B 宮城県 南東北・北関東ブロック広域センター

- 03 宮城県 障害者芸術活動支援センター@宮城 (愛称: SOUP)
- 04 山形県 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら
- 05 福島県 はじまりの美術館
- 06 栃木県 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

南関東・甲信ブロック

C 埼玉県 南関東・甲信障害者アートサポートセンター

- 07 埼玉県 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター
アートセンター集(基幹型)
- 08 埼玉県 ART (s) さいほく(特色型)
- 09 千葉県 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり
- 10 東京都 東京アートサポートセンター Rights (ライツ)
- 11 神奈川県 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
- 12 山梨県 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター
- 13 長野県 ザワメキサポートセンター
(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

東海・北陸ブロック

D 新潟県 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

- 14 新潟県 新潟県障害者芸術文化活動支援センター
- 15 富山県 富山県障害者芸術活動支援センター ぱーと◎とやま
- 16 石川県 文化・芸術活動支援センターかける
- 17 福井県 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと
- 18 岐阜県 岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASCぎふ]
- 19 静岡県 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと
- 20 愛知県 愛知県障害者芸術文化活動支援センター
- 21 三重県 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

中国・四国ブロック

F 高知県 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

- 27 鳥取県 あいサポート・アートセンター
- 28 島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター
アートベースしまねいろ
- 29 広島県 広島県アートサポートセンター
- 30 徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
- 31 香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES
- 32 愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター
- 33 高知県 藁工ミュージアム 分室

九州ブロック

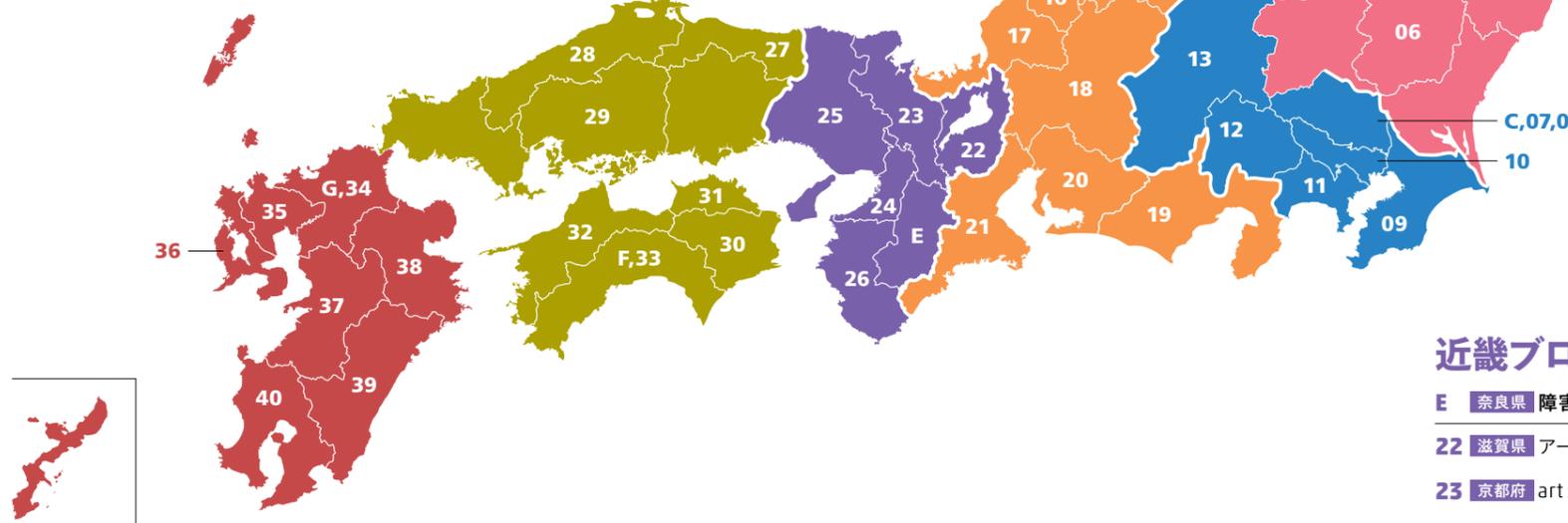
G 福岡県 九州障害者アートサポートセンター

- 34 福岡県 FACT (福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)
- 35 佐賀県 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC
- 36 長崎県 長崎県障害者芸術文化活動支援センター
- 37 熊本県 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館
- 38 大分県 おおいた障がい者芸術文化支援センター
- 39 宮崎県 宮崎県障がい者芸術文化支援センター
- 40 鹿児島県 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター
(かごしまアールブリュットセンター)

近畿ブロック

E 奈良県 障害とアートの相談室

- 22 滋賀県 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター
- 23 京都府 art space co-jin
- 24 大阪府 国際障害者交流センター ビッグ・アイ
- 25 兵庫県 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター
- 26 和歌山県 和歌山県 福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課



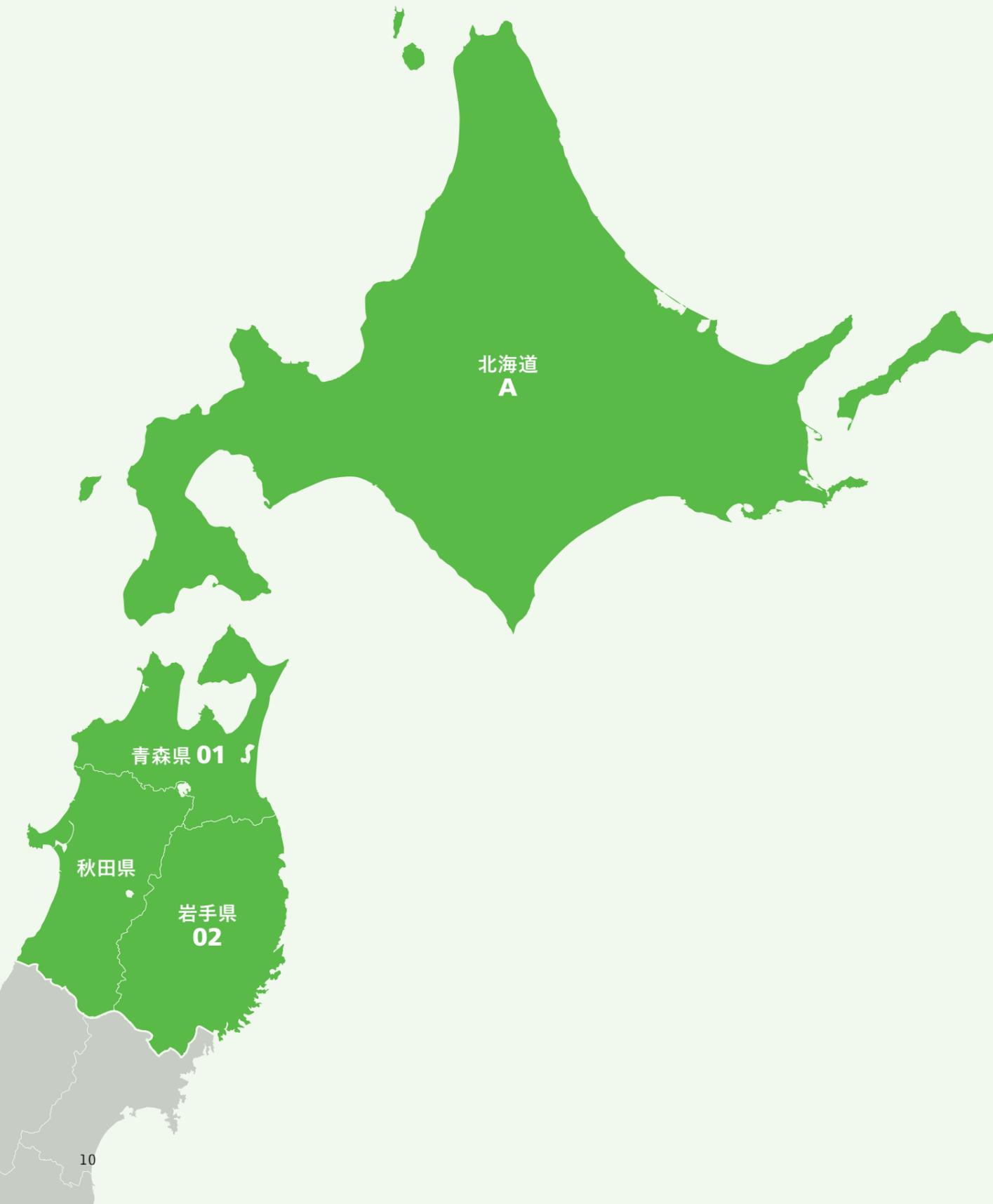


支援センター・広域センターの 取り組み

北海道・北東北ブロック

A アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

広域センター運営団体：社会福祉法人ゆうゆう



北海道

担当課：保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

青森県

担当課：健康福祉部障害福祉課

01 青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

支援センター運営団体：社会福祉法人あーると

岩手県

担当課：文化スポーツ部文化振興課

02 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

支援センター運営団体：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

秋田県

担当課：健康福祉部障害福祉課調整・障害福祉班

ブロック内の状況

北海道・北東北ブロック広域センター：アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

当ブロックでは青森県・岩手県が支援センターの設置5～6年目を迎え、それぞれが地域性に応じて試行錯誤してつくりあげてきた事業がかたちになってきた。以前は当ブロックの広域性から会議や研修は制約が多かったが、コロナ禍でオンライン会議の環境が整備されたことで研修やコミュニケーションが増加するなど、ブロック内の支援充実・連携強化につながっている。センターに

よっては感染予防の観点から、今年度も厳しい対面制限があり、オンラインの活用や遠隔による相互連携が事業運営の上で重要となった。未実施県の北海道・秋田県は、当センターとの協議を重ねたことでそれぞれの抱える課題が絞り込まれ、どちらもセンター設置の意向が示されるに至った。

アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18 社会福祉法人ゆうゆう内
 TEL: 0133-22-2896 FAX: 0133-23-0811
 E-mail: gently@yu-yu.or.jp URL: http://gently-artbrut.com/



Pick Up! 北海道・北東北の福祉とアート「届けたい 私たちが出会った表現」



北海道・北東北の福祉とアート「届けたい 私たちが出会った表現」展示風景

ねらい 支援センターおよび未実施県協力団体と協働し、ブロック合同展覧会を秋田県・青森県の2都市で開催した。テーマの主語を支援センターである「私たち」とし、センターが事業の中で出会った作家作品や、後押しをしたい作家作品を主体的に紹介し、センターと作家との関

内容 3つの支援センターが、事業を通して出会った作品を紹介した。広域センターは、前年度実施した4道県を対象とするオンライン公募展「ダレカガナニカヲツクッテル」参加作家9名、青森県は公募展「ありのままの表現展」参加作家5名、岩手県は「岩手県障がい者文化芸術祭」最優秀賞受賞者4名、秋田県は前年度実施した「秋田県障害者芸術福祉展」知事賞受賞作家を選出し、

係性を考えることで、その役割や事業について振り返る機会とした。また稼働中の2つの支援センターの取り組みに焦点を当てることで「支援センターとは何か?」を発信し、未実施県である秋田県での支援センター設置の機運を醸成することをめざした。

地域ごとに特色のある展示となった。会場では支援センターを紹介するパネルも設置した。本展は、地元新聞紙で丁寧に紹介されたことで多くの人々が来場し、支援センターの発信や理解促進、秋田県における関心喚起につながることができた。11月に秋田市内で開催後、翌年3月に青森県弘前市に巡回した。

今年度の課題と目標

各支援センターが5～6年目に差しあたり、現在直面していることは「事業の持続」といえる。本事業の実現に際し自治体の補助金は必ずしも潤沢ではなく、ようやく確保した予算で可能な範囲の実施をめざしているところも多いだろうと想像する。多くの支援センターの担い手が民間団体ながら志を持って取り組んでおり、彼らが疲

弊せずモチベーションを保ちながら継続できることが肝要ではないだろうか。支援センターの継続に必要な取組について、いま一度考える時期に来ているように思われる。設置済みセンターの成長と、これから設置されるセンターの安定性を高めるためにも、今年度はその点に注視して事業に取り組む。

今年度の成果と展望

「事業の持続」を探るにあたり、各センターの活動と成果を振り返り、発信することをフォーラムや合同展で取り組んだ。成功裡に終えた合同展はセンターの自信や手応えにつながられたと考える。青森県で開催した「障害者の芸術文化活動フォーラム」では、福祉とアートの実践を「ソーシャルアクション」と捉え、センターを支えるための県内連携の後押しをした。未設置の北海道・秋田県はど

ちらも2024(令和6)年度設置をめざすことになり、それぞれの課題をクリアするために提案や関係者との協議・調整を行った。北海道では実績づくりへの協力として展示会を行うなどした。この成果をふまえ、2023(令和5)年度は各センター・自治体が見出す次の目標やビジョンに寄り添い、エンパワメントすることに注力していきたい。



アール・ブリュットショウケース2022オンライン「KING GUNS and ROGUE GUNS」(岩手県)



「障害者の芸術文化活動フォーラム」の様子

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [障害者の芸術文化活動フォーラム、7/16] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [道内作家を紹介する定期的な展覧会「乗り物で出かけよう～北海道障害者のアート展より～」、5/9～5/27] [道内作家を紹介する定期的な展覧会 北海道の福祉とアートVol.8「未来への灯を道南から」、6/18～7/22] [道内作家を紹介する定期的な展覧会 北海道の福祉とアートVol.9「わたしだけの記号」、9/6～9/30] [ほっかいどうナイスハートバザール in アリオ札幌 特別展示、10/11～10/13] [道内作家を紹介する定期的な展覧会 北海道の福祉とアートVol.10「はじめの一步。展～Hana～」、11/1～11/25] [北海道障がい者のアート展、11/1～11/3、3/14～3/15(合計2回)] [道内作家を紹介する定期的な展覧会「ドラマ／ドラマチック～北海道障がい者のアート展より～」、12/13～1/20] [道内作家を紹介する定期的な展覧会 林田嶺一:ポップ×

キッチン×ニヒリズム、2/7～2/27] [道内作家を紹介する定期的な展覧会 北海道の福祉とアートVol.11「カクカクシカジカーみんなのカタチ」、3/14～3/31] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [ブロック研修(オンライン)、8/25～3/16(合計5回)] ●発表の機会の確保 [アール・ブリュットショウケース2022オンライン「舞台上がれ!」、1/21] [北海道・北東北の福祉とアート「届けたい 私たちが出会った表現」秋田県、9/22～9/28 青森県、3/4～3/10]

支援センター運営団体 社会福祉法人ゆうゆう

「ひとりの想いを文化にする」をビジョンに「福祉を福祉で完結しない」「ないものはつくる」という想いに立ち、地域のあらゆる人たちの暮らしを創造していくことをめざした福祉実践を展開している。

青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

〒037-0017 青森県五所川原市漆川字鍋懸 147-2

TEL: 0173-26-1021 FAX: 0173-26-1021

E-mail: aasc@aorld.com URL: https://aorld.jp/aasc



Pick Up! 支援者養成巡回プログラム



「支援者養成巡回プログラム」研修（平川会場）の様子

ねらい 青森県内の福祉事業所の実情として、人材不足等により創作活動にまでなかなか手が回らない等の声が挙げられている。そのため、芸術文化活動を支援してきたアートディレクターおよび青森アール・ブリュットサポートセンター職員が巡回し、利用者の特質をつかんだ創作支援の技術等について相談に応じる「巡回コンサ

内容 るんぴにい美術館アートディレクターの板垣崇志氏をコンサルタントとして招聘し、県内3ヶ所の事業所をコンサルティングしていただいた。今年度は、昨年度の2事業所と新たに1事業所を加えて、合計3事業所で実施した。プログラムの内容は、コンサルティングと研修・ワークショップである。コンサルティングについては、日

ルティング」を事業化する。その指導内容や創作支援方法についてアドバイスをいただくことで、福祉現場における人材育成へとつなげる。また、前年度コンサルティングを行った事業所にも継続して行うことで創作活動についてさらなる理解を深める。

中の利用者の様子を見てもらい、その人に合わせた創作活動についてアドバイスをいただいた。研修に関しては、現場スタッフの創作活動に答えていく会話方式で実践し、創作活動に関する理解を深めた。また、画材の活かし方を学ぶワークショップも実施した。

今年度の課題と目標

青森県内の障害者による芸術創作活動については、昨年度の公募展においては過去最多の作品数の応募があるなど、本事業による一定の成果が見られてきている。しかし、実情として福祉現場における人材不足等により、創作活動にまでなかなか手が回らないといった声もあり、引き続き現場での工夫の仕方や成功例をつくっていくこ

今年度の成果と展望

今年度は、作品発表の機会となる「ありのままの表現展」と福祉現場における創作活動支援となる「支援者養成巡回プログラム」の2事業に加え、新たに「作品保管サービス」とその作品を地域へ発信する「常設展」の準備を中心に事業を進めた。

作品保管サービスを開始し、準備等を進めた背景には、これまでの事業の効果が現れ、創作活動に取り組む福

とが必要と思われる。そこで、今年度も障害者の芸術文化活動を長年支援してきたアートディレクターをコンサルタントとして招聘し、県内複数の事業所をコンサルティングしていただくことを柱に、現場での人材育成に取り組む。また、広域センターの事業と共催し、より障害者アートの魅力を発信できるようなイベントを実施する。

祉事業所も増えつつある一方、「作品の保管場所がなく破棄せざるを得ない」という声が挙げられていたことがある。公募展への過去最多となる応募作品数やセンターへの相談件数からも、事業の成果は着実に見られており、次年度からは「作品保管サービス」や「常設展」を本格的に取り組んでいく予定である。この2事業が本格始動することにより、さらなる効果を期待する。

左／あーど常設展
右／「ありのままの表現展」展示風景

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [第1回支援者養成巡回プログラム、9/26～9/28(合計3回)] [第2回支援者養成巡回プログラム、12/6～12/8(合計3回)] ●関係者のネットワークづくり [第1回協力委員会(オンライン)、6/2～6/2] [第2回協力委員会(オンライン)、3/17～3/17] ●発表の機会の確保 [ありのままの表現展2022、7/16～7/28] [北海道・北東北ブロック合同展、3/4～3/10]

支援センター運営団体
社会福祉法人あーど

2017(平成29)年度より障害者芸術文化活動普及支援事業を受託し、青森県五所川原市に設置された青森アール・ブリュットサポートセンターを拠点に、県内の障害者による創作活動の支援を行っている。主な事業内容として、相談支援、県内の作品を集めた展覧会の開催、創作や権利保護等に関するセミナーの開催等を行いながら、県内の芸術文化活動の活性化をめざした事業を実施している。

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

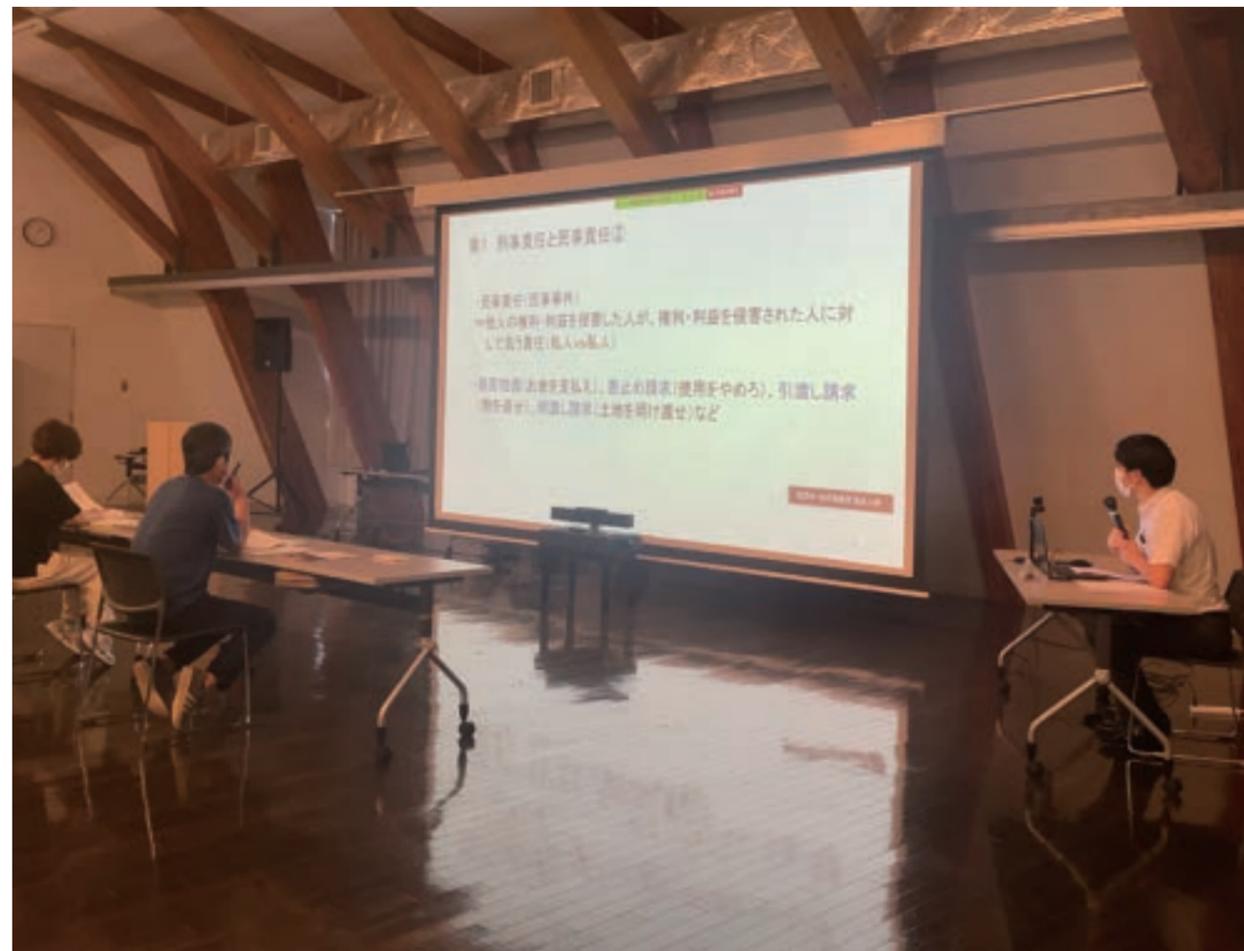
〒020-0114 岩手県盛岡市高松3-7-33

TEL: 019-656-7081 FAX: 019-681-2514

E-mail: kadarto@iwate-fukushi.or.jp URL: http://www.iwate-fukushi.or.jp/cgi-bin/art_list.cgi



Pick Up! 創作活動に関する権利保護研修会



弁護士による基本的な法律についての講義「創作活動に関する権利保護研修会」実施風景

ねらい 当研修会の課題は、「法律を学ぶ」ことに苦手意識が働く方が多い傾向から、参加者が少ないことであった。しかしながら、公募展の出品機会が増え、手軽にオンラインで情報発信ができ、作品の商品化をめざすなど法律の遵守が肝となるような活動の発展を望む支援者は増加している。

研修会には、センター受託当初から寄せられた相談内容を事例として組み込む。また、「法律」「座学」への抵抗感を軽減するため、楽しみながら分かりやすく学ぶためのツールを取り入れる。

内容 ①「障がい者文化芸術作品における作家の権利保護に関する指針」の説明、②「創作活動に関する権利保護研修～著作権法の基本～」では、創作活動に取り組むにあたって関係してくる基本的な法律（著作権や所有権等）について学び、過去に寄せられたアンケートや相

談をもとに分かりやすい事例を通して理解を深めた。③「知的財産権を学ぶゲームワークショップ～『知財でポン!』の体験～」では、カードゲームを通して知的財産権を楽しく学びながら法律の理解を深め、さらに作者や作品を尊重する意識を育んだ。

今年度の課題と目標

近年、岩手県では、商品化や作品の二次利用、展覧会への出品をめざす事業所等が増加傾向にあるため、作家や作品の尊厳を守るための権利保護の理解を深める研修会の開催が必要と思われる。その一方で作家をおさなりにしないよう、創作活動において大切にすべきこ

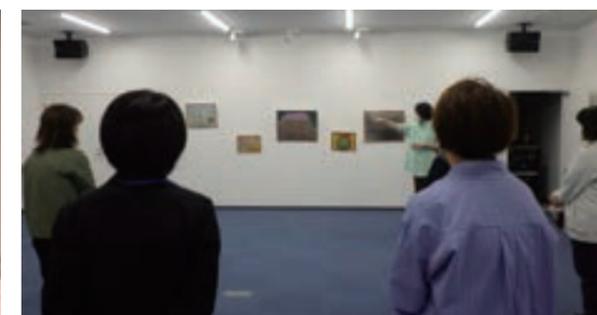
とを見直すための研修会の開催を行う。

また新型コロナウイルス感染症の影響により未だ事業所間の交流機会が少ないため、参加者同士で作品や取り組みについて情報共有できる時間を設定する。

今年度の成果と展望

必要な知識と認識されながらも、なかなか法律に関する研修会への参加者が少ないのが課題であったが、楽しく学ぶための目玉企画（たんぼの家制作「知財でポン!」）を組み込んだことで、理解を深めるための効果的な流れを

創出することができたように思う。また、作家と作品、そして支援者という立場を見つめ直すための講義を各研修会に設定し、今後、活動支援を発展させていく中で必要な意識の醸成につながったように思われる。



左/3年ぶりの現地開催となった記念式典「第30回岩手県障がい者文化芸術祭」の様子

右/具体的な活動支援の技術として、展示ワークを体験

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [創作活動に関する権利保護研修会、8/23] [障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス、10/4～3/20 (合計4回)] [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～福祉的支援からアート支援へ、10/7] [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～施設・事業所等管理者編、3/13] [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～しる・つながる・ひろげる、3/17] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会、7/13] ●発表の機会の確保 [第30回岩手県障がい者文化芸術祭応募作品展、11/24～12/19] [第30回岩手県障がい者文化芸術祭ふれあい音楽祭2022、12/3] [第30回岩手県障がい者文化芸術祭記念式典（応募作品展表彰式）、12/18] ●情報収集・発信 [作家及び作品や取組事例の調査について、3/3～3/10 (合計4回)]

支援センター運営団体

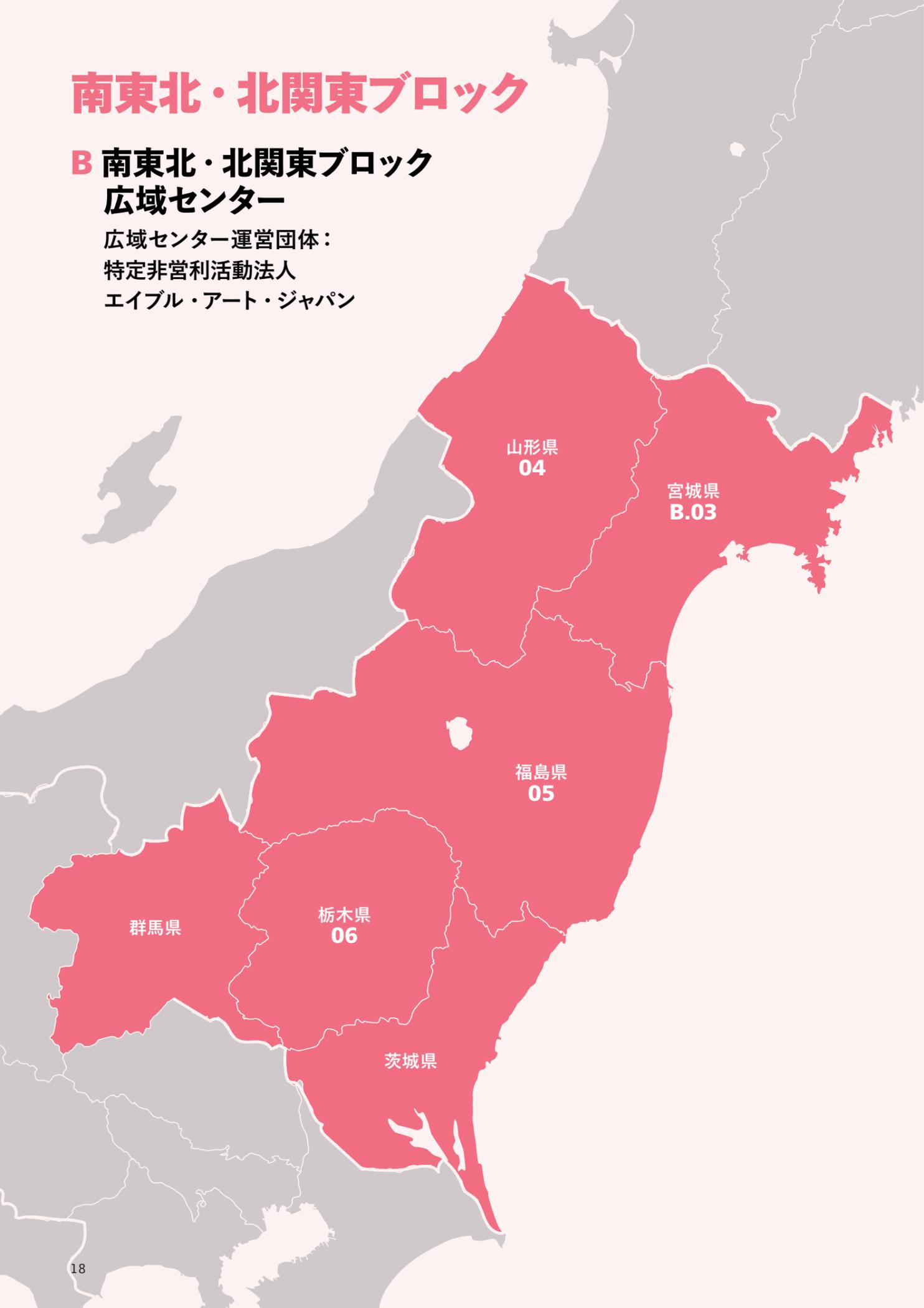
社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、またはその有する能力に応じ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に設立された。2018(平成30)年に「岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあると」を開設した。

南東北・北関東ブロック

B 南東北・北関東ブロック 広域センター

広域センター運営団体：
特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン



宮城県

担当課：保健福祉部障害福祉課地域生活支援班

03 障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）

支援センター運営団体：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局

山形県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

04 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

支援センター運営団体：社会福祉法人愛泉会 ぎやらりーら・ら・ら

福島県

担当課：保健福祉部障がい福祉課

05 はじまりの美術館

支援センター運営団体：社会福祉法人安積愛育園

茨城県

担当課：福祉部障害福祉課

栃木県

担当課：保健福祉部障害福祉課

06 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

群馬県

担当課：健康福祉部障害政策課社会参加推進係、地域創生部文化振興課文化企画係

ブロック内の状況

南東北・北関東ブロック広域センター：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

南東北・北関東ブロックは、6県のうち4県に支援センターがあり、2県が未設置である。支援センターとして宮城県（2014〔平成26〕年～）・栃木県（2017〔平成29〕年～）・福島県（2019〔平成31〕年～）・山形県（2020〔令和2〕年～）、「準備室」として茨城県（2021〔令和3〕年～）・群馬県（2022〔令和4〕年～）が活動した。

2021（令和3）年度に行った当広域センターの活動に対す

るアンケートからは、連絡会議や研修を通じて支援センター職員間の関係性が深まり、課題や知恵を分かち合うことにより、支援センター業務への意欲や支援スキルの質の向上につながる可能性を確認できた。そのため、2022（令和4）年度も同様に、関係者が各地域に不足している視点・資源（人材・実践知・資金等）を認識し、その不足を補うための情報交流や学びの機会を創出することとした。

南東北・北関東ブロック広域センター

〒980-8546 宮城県仙台市青葉区一番町3-11-15 仙台フォーラス7階
 TEL: 070-5328-4208 FAX: 022-774-1576
 E-mail: soup@ableart.org URL: https://soup.ableart.org/



Pick Up! アドボカシーからの支援センター設立～群馬のことは、群馬でやる。



群馬県・支援センター準備室による「森のペイントワークショップ」

ねらい 「ぐんま障害者芸術文化活動支援センター（仮称）準備室」の公募を今年度5月に実施し（再公募8月）、2法人3事業を採択。地域の事業者および群馬県障害政策課と連携し、人材育成事業、関係者のネットワークづくり、情報収集を実施した。ワークショップは「障害のある人となない人が芸術文化を通じて交流・理解促進をはかる」、研修は「福祉サービスの管理者が自ら芸術文化活動を

体験し、その環境醸成の必要性を考える」「障害者文化芸術活動を通じて地域づくりにつながるための視点を学ぶ」を各ねらいとした。群馬県の「群馬のことは、群馬でやる。」という強い意志が、支援センター設立までのプロセスを支え、かつ的確な内容・実施、機運醸成が図られたと考える。

内容 ①「森のペイントワークショップ」では、地元の木材で制作したキャンバスと牧草ロールへのペイント、ドラムサークルを実施した（参加者約350人、一般公開）、また、②研修会「障害のある人の表現のむこうにあるもの」

ワークショップと事例発表（参加者29人、福祉サービス事業管理者等対象）、③「アートと福祉を繋ぐ会-障害のある人のアート活動支援の基礎研修と交流会-」（参加者69人、一般公開）を実施した。

今年度の課題と目標

①支援センター職員が、社会情勢の変化に対応できるようになる：分野横断型の支援センター事業の必要性、新型コロナウイルス感染症後の社会状況の変化、第2期「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」における論点を意識して活動する。②支援センター職員ならびに自治体担当者が、具体的な実践知を持ち、支援の質

が向上する：「支援センター活動のコツ（効果的援助要素）チェックリスト」の評点と、協働型評価を通じて、地域に不足している視点・資源を認識し、その不足を補うための情報交流や学びの機会を創出する。これにより、支援センターとして必要な技術を蓄え、障害のある人たちが芸術文化活動に参加することができる環境をつくることに貢献する。

今年度の成果と展望

①ブロック会議と研修（全5回）、事業評価（研修のうち2回）、なんでも相談会（3回）を実施し、未設置県の関係者と、テーマによって各県の自治体担当者も参加した。②地域で活発化していない取り組みであるダンスワークショップを、宮城県と山形県に巡回した。③茨城県・群馬県の準備室は、人材育成事業と関係者のネットワークづくりを実施した。④ブロック研修の一つを「支援セン

ター研究発表会」として一般公開し、支援センターの役割と価値を文化・生涯学習等の関係者に広報した。支援センター職員および自治体担当者のアンケート回答には通年を通じて、多様な分野との連携にかかわる意志、オンライン事業や情報保障への意欲、支援センター職員としてのモチベーションアップ等が現れている。



左／南東北・北関東ブロック障害者芸術文化活動支援センター研究発表会（せんだいメディアテーク）
 撮影：三浦晴子
 右／茨城県・支援センター準備室による「福祉とアートのシンポジウム」

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [ブロック会議（オンライン）、7/25～3/9（合計5回）] [なんでも相談会（オンライン）、8/23～1/17（合計3回）] [ダンスワークショップ「響と踊ろう」仙台会場（指導者及びファシリテーションを実践したい大人のためのワークショップ・障害のある人との合同レッスン）、11/10] [ダンスワークショップ「響と踊ろう」山形会場（障害のある人との合同レッスン）、11/11] [ダンスワークショップ「響と踊ろう」振り返り（オンライン）、3/16] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [茨城県 相談支援、4/1～3/31（合計40回）] [群馬県 準備室公募事業、5月・8月（合計2回）] [茨城県「福祉とアートのオンライン交流会」、8/12] [群馬県「森のペイントワークショップ」、10/8～10/10（合計3回）] [群馬県「障害のある人の表現のむこうにあるもの」ワークショップと事例発表、11/30] [茨城県「福祉とアートのシンポジウム」、12/10] [群馬県「アートと福祉を繋ぐ会-障害のある人のアート活動支援の基礎研修と交流会-」、1/25] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [ブロック研修第1

回「多様なセクターと協働する、これからの支援センター像にむけての勉強会」(オンライン)、7/25] [ブロック研修第2回「自治体と支援センターと協働で評価目標をつくろう!」(オンライン)、9/12] [ブロック研修第3回「相談支援の流れをつかむ～文化セクターとの連携を軸に考える」(オンライン)、11/28] [ブロック研修第5回「自治体と支援センターと協働で評価目標をつくろう!」振り返り(オンライン)、3/9] ●ブロック内の連携の推進 [ブロック研修第4回「南東北・北関東ブロック障害者芸術文化活動支援センター研究発表会」、2/11]

支援センター運営団体 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして1994（平成6）年に誕生した。2014（平成26）年から「まぜると世界が変わる」をコンセプトに、障害者芸術活動支援センター@宮城（SOUP）を、2021（令和3）年から南東北・北関東広域支援センターを運営している。

障害者芸術活動支援センター@宮城(愛称:SOUP)

〒980-8546 宮城県仙台市青葉区一番町3-11-15 仙台フォーラス7階
TEL:070-5328-4208 FAX:022-774-1576
E-mail:soup@ableart.org URL:https://soup.ableart.org/



Pick Up! 「いつでも、どこでも、誰でも」
自由に豊かな文化的体験ができることを目指して



せんだいメディアテーク展覧会関連イベント「勝負の手がかりは音!? 見えない人・見えにくい人と一緒にプレーを楽しもう!!」
(2023年1月20日、せんだいメディアテーク) 撮影:渡邊博一

ねらい 文化庁の2021(令和3)年度障害者調査では、「過去1年間に文化芸術を直接鑑賞しなかった理由」について約4割の人が「特に理由はない」を選択していることから、そもそも文化芸術を鑑賞することで得られる体験や醍醐味について障害のある人に認識されていない現状が明らかとなった。当支援センターでも「鑑賞の機会」づくり

内容 障害児者や小さな子ども等に開かれたクラシック音楽のリラックスコンサート(主催:仙台市民文化事業団)の開催および多様な人々の交流をテーマとした現代美術の展覧会(主催:せんだいメディアテーク)の開催に向けて、それぞれ主催団体から相談を受け、障害のある人が参画できるよう、主催団体と協働して仕組みづくりや実践を行った。リラックスコンサートは、研修を通じて文化施設や文化

に十分に着手できていなかったこと、また、地域の文化事業を行う団体や文化施設から障害のある人のアクセスに関する相談が多く寄せられていたことから、団体や施設と連携しながら「いつでも、どこでも、誰でも」自由に豊かな文化的体験ができることを目指した取組を進めることをねらいとした。

事業に取り組む団体にその手法を共有した。また、これらの活動事例を含む宮城県内で「鑑賞の機会」づくりに取り組む事例の紹介を「障害のある人と芸術文化活動」に関する多様な個人・団体・活動を紹介する展示会「まいて、みて、して、見本市。」にて行い、広く取り組みを知ってもらおう機会をつくった。

今年度の課題と目標

①相談支援:多様な相談内容に応じられるよう、日頃から情報収集を行う。②人材育成:座学と実践を合わせた研修や、支援センターとして取り組んだ事例からその手法を共有する研修を実施し、実践につなげやすい意識や相談しやすい環境づくりを行う。③関係者のネットワークづくり:ネットワークの空白地域を意識して広報を

行い、「障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」など展覧会の場を活用し、情報交換を行う。④発表の機会の確保:「見本市」や事務所のフリースペースを積極的に活用し、活動を外に開く。⑤情報収集・発信:主催事業だけでなく、他団体の関連事業についてもウェブサイトおよびSNSで発信を行う。

今年度の成果と展望

①相談支援:122個人/団体から736件(前年度比177%)。文化施設、教育、企業等、障害福祉以外の領域から連携を求める声が増え、多様なネットワークが生まれた。②人材育成:研修は計4回で73人が参加。新たな事業所や個人等の参画に結びついた。③関係者のネットワークづくり:令和4年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務・協力委員会を開催し、宮城県と仙台市における

官民の福祉・文化・教育分野が参加。「見本市」の内容と広報活動が充実した。④発表の機会の確保:「見本市」およびフリースペースで創造活動の発表や文化施設のアクセス事例を紹介した。⑤情報収集・発信:ウェブサイトへの投稿数110件(前年度比261%、SNSへの投稿数は289件)と充実した。



左/「Fujisakiday」のメインビジュアルに採用された本多遼さんのライブペイントの様子(八木山動物公園フジサキの杜) 右/「せんくら・リラックス・コンサート」のチラシ

実施一覧

●相談支援[相談窓口、4/1~3/31(合計736回)] [せんくら・リラックス・コンサート、4/1~8/26] [せんだいメディアテーク展覧会関連イベント、11/10~2/5] ●人材育成[SOUの研修第1回「暮らしの市 夏 出店してみた! マーケティング編」、8/3] [SOUの研修第2回「暮らしの市 秋 出店してみよう! 商品提案編」、9/7] [SOUの研修第3回「地域の企業と協働する~作品の二次利用の際に気をつけるべき視点とは」、10/13] [SOUの研修第4回「鑑賞するって楽しい! せんくら・リラックス・コンサートができるまで」、11/30] ●関係者のネットワークづくり[宮城県障害者芸術文化活動支援業務協力委員会、9/9] ●発表の機会の確保[第5回障害と芸術文化の大見本市「まいて、みて、

して、見本市。」、2/10~2/12] [二次利用のサポート業務(合計13回)] [展覧会への出展のサポート業務(合計8回)]

支援センター運営団体 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局

アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして1994(平成6)年に誕生した。2014(平成26)年から「まぜると世界が変わる」をコンセプトに、障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP)を、2021(令和3)年から南東北・北関東広域支援センターを運営している。

やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

〒990-0033 山形県山形市諏訪町1-2-7

TEL: 023-674-8628 FAX: 023-664-2118

E-mail: g.lalala@y-aisenkai.or.jp URL: https://www.y-aisenkai.com/info/lalala/



Pick Up! 山形ビエンナーレ2022「まちのおくゆき」プロジェクト(東北芸術工科大学との共同企画)

山形ビエンナーレ2022「さわる／ふれる
～ここにいない人と踊るためのエ
チュード～」上演風景

撮影: 三浦晴子

※山形ビエンナーレ2022 主催: 東北芸術工
科大学(令和4年度文化庁大学における文化芸
術推進事業)

ねらい 東北芸術工科大学主催の芸術祭やまがたビエンナーレ2022において、多様性の受容と調和をコンセプトにした「まちのおくゆき」プロジェクトを共同企画。県内の芸術文化分野、福祉分野、市民が協働し、実践を交えながらクリエイションを行う機会をつくり、そのプロセスを人材育成の機会とし、新たなネットワークの構築を目標とした。本プロジェクトでは、市民募集の対面ダン

内容 昨年度から力を入れ、県内3圏域で開催した砂連尾理氏(ダンサー・振付家)による福祉事業所へのアウトリーチであるオンラインダンスワークショップを2ヶ所で継続した。また、引きこもりの若者支援の事業所に、AIロボットを用いたコミュニケーションのワークショップを対面により1ヶ所で開催した。その事業と連動させ、障害のある人も含む市民募集の対面ダンスワークショップ

今年度の課題と目標

課題としては、昨年度から継続して、障害のある方が表現活動を行うことができる場や専門的な人材の不足、芸術文化を楽しむための支援が十分ではなく、文化的な生活を送るための選択肢が少ないこと。2021(令和3)年度に実施したアンケート調査結果では、活動に関心はあるが実践は少なく、専門的な人材の不足が挙げられている。また、発表の機会が絵画の展覧会に偏っている傾

スワークショップと、福祉事業所への訪問ワークショップを実施。コンセプトは、それぞれの存在のあり方、多様な人たちとの関わり合い方を身体表現で伝えること、もう一つは、ここにいない人やここにいないものを想像し、身体で表現する「メディアとしての身体」の可能性である。オンラインやAIロボット等、テクノロジーを活用し模索することにも挑戦した。

を6月から重ね、9月の芸術祭でダンスパフォーマンス「さわる／ふれる～ここにいない人と踊るためのエチュード～」を上演した。また、「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」を実施し、目の見える人・見えない人がさまざまな見方を持ち寄り対話型鑑賞を行った。事業後には、県内各地で身体表現や対話型鑑賞の新たな活動や実践が生まれた。

向があり、表現の発信方法を広げていく必要があった。目標は、県内各地域の活動に寄り添い、さまざまな分野の人材が協働して実践する仕組みをつくり、その協働のプロセスを大切に人材育成に力を入れることである。表現の発信の可能性をさらに広げるための身体表現や、作品の二次使用等の取組の実施、アクセシビリティを考える実践を実施することをめざした。

今年度の成果と展望

全体の事業をとらえて芸術文化分野と福祉分野をつなぎ、実践を交えながらクリエイションを行い、そのプロセスを人材育成とすることに力を入れた。芸術祭において、両分野と連携することで、障害のある方が表現者として対等に認められる機会となった。その後、県内で新たな活動が生まれ、障害のある方の存在感や身体性を大切に表現を引き出すための活動が深まり、各地域に広がった。多様な背



山形盲学校へのアウトリーチ事業「地域にでかけ一緒にやってみる」での盲学校小学部の生徒と美術大学学生が交流した創作ワークショップの風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31] [おめでとう&相談 day、11/5] ●人材育成 [山形ビエンナーレ2022 まちのおくゆきプロジェクト/県内3地域アウトリーチダンスワークショップ(酒田市、鶴岡市、米沢市)、6/1～8/19(合計8回)] [県内3地域での展覧会のための作品相談会(酒田市、鶴岡市、米沢市)、6/17～11/20(合計4回)] [研修会 アートが福祉を参照するために(オンライン)、7/1] [美術大学生の社会教育における実践実習、8/4～11/16(合計20回)] [山形ビエンナーレ2022 まちのおくゆきプロジェクト/視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ、9/4] [実践研修「まなび舎ら・ら・ら」第1回 表現を伝えるために大切にすること、11/9 第2回「障がいのあるアーティストの魅力伸ばす環境づくり/社会と福祉をつなぐ」、11/22 第3回「コミュニティとアート」、12/3] [見える人・見えない人でつくる対話型鑑賞ワークショップ/映像鑑賞ラボ、2/25・3/25] [アウトリーチ事業「地域にでかけ一緒にやってみる」@山形盲学校、3/2] ●関係者のネットワークづくり [工業・福祉・デザイン連携プロジェクト「こうふくでミーティングvol.3」、7/19・3/19] [やまがたアートサポートネットワーク会議(オンライン)、3/17] ●発表の機会の確保 [きざしとまなざし2022 企画展さわる／ふれる～共振するからだ～、

景を持つ市民が関係性をつくり、創造・発表した経験が人材育成、ネットワークづくりにつながり、効果が県内に波及している。また、表現活動に寄り添う人材を育てる実践研修や美術大学生の実践の場をつくり、両分野の学び合いにつながった。外部の専門家と連携することで、福祉事業所に足りないスキルや人材を得ていく仕組みづくりの種まきとなり、次年度のアウトリーチ活動の実践につなげていく。



山形ビエンナーレ2022「まちのおくゆき—視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」実施風景 撮影: 三浦晴子

9/3～11/16] [宮城山形交流事業 アートと仕事つながる・ひろがる世界展、3/1～3/31] [きざしとまなざし2022やまがた障がい者芸術作品公募展、11/3～11/16] [つるおかひょうげんの花(県公募展入賞作品巡回)、9/16～9/25] [いろいろな展、9/22～9/29] [山形ビエンナーレ2022 まちのおくゆきプロジェクト/さわる／ふれる～ここにいない人と踊るためのエチュード、9/10～9/11] [米沢わたしとあなたの表現展(県公募展入賞作品巡回、企画展巡回)、1/8～1/15] ●情報収集・発信 [きざしとまなざし展取材、6/1～8/30] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [活動報告書作成、12/1～3/31] [アドバイザー会議(オンライン)、7/21・3/27]

支援センター運営団体
社会福祉法人愛泉会 ぎやらりーら・ら・ら

障がいのある方が地域で共に生きる社会の実現に向けて事業を展開。2011(平成23)年に障がいのある方の作品を発信する場「ぎやらりーら・ら・ら」開設、2016(平成28)年から「やまがた障がい者芸術活動推進センター」、2020(令和2)年から「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」設置。新たな価値創造の発信を続け互いを尊重し理解し合える包容力のある地域社会創造をめざす。

はじまりの美術館

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町4873

TEL: 0242-62-3454 FAX: 0242-23-8185

E-mail: otoiawase@hajimari-ac.com URL: https://hajimari-ac.com/consultation/



Pick Up! cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会「シエント情報交換会」



「シエント情報交換会」でのワールドカフェ

ねらい 「福島県内でネットワークをつくれる場がほしい」という以前からのリクエストに応じて、はじまりの美術館が持つ県内のネットワークを活かし、他分野に関する知識等を深めることができるよう、芸術文化活動の支援方法、製品開発、地域に開かれた活動等、ゲストを招き、

内容 話題提供として次の3つのテーマ、①「創作活動について」星尊氏・鈴木愛理氏（社会福祉法人安積愛育園地域生活サポートセンター）、②「製品化について」北畑尚子氏（NPO法人さぼーとセンターびあ・自立研修所ビーンズ所長）、③「地域での活動について」渡邊瞳子氏（NPO法人ソーシャルデザ

学び合う会を実施した。また、「情報交換会」として各テーマで、ゲスト・参加者を交え話し合う場を設けることで、それぞれの活動や日々の悩み事等を相談し合い、ネットワークが築かれることをねらいとした。

インワークス・ソーシャルスクエア上荒川店)を立て、それぞれお話しいただいた。後半は、ワールドカフェ形式でワークショップを行いながら、日頃の悩みや考えていること、お話を聞いて感じたことなどを共有し合った。

今年度の課題と目標

センターとして4年目の活動となる今年度は、これまで事業評価がしっかり行えていなかったことを課題とし、長津結一郎氏（九州大学准教授）に伴走いただきながら、あらためてこの間の振り返りと事業評価を行った。事業評価のプロセスでは、はじまりの美術館が行っている活動を思いつく限り書き出し、それらを何のためにやっている

今年度の成果と展望

はじまりの美術館としては8年目、センターとしては4年目の活動となり、多様な分野の方から、さまざまな相談が寄せられるようになった。その中でも、今年度は県内の文化施設が加盟する「福島県博物館連絡協議会」の研修担当の方から相談があり、福島県内の文化施設の職員とともに障害のある方のアクセシビリティを考える研修

のか、言葉にした。長津氏と一緒に項目ごとに整理し、法人目標、最終目標、中間目標と結びつけ、やっていること、めざしていることの全体像を整理した。この結果を踏まえ、自分たちの活動を理解し、その上で県内のニーズを調査しながら、適切な活動を行っていくことを目標とした。

会を実施した。誰もが文化を享受できる環境づくりにはなにかが必要なのか、基本となる「合理的配慮」や「公平」という考え方を学ぶ機会となった。しかし、コロナ禍で作家調査や事業所訪問がなかなか実施できておらず、アウトリーチの機会が少ないのが課題となっている。



はじまりの美術館での相談支援

「わたしがつくる森陽香美術館」展
ギャラリートーク風景

実施一覧

- 相談支援 [障害のある人の表現活動に関する相談業務、4/1～3/31(合計67回)]
- 人材育成 [福島県博物館協会アクセシビリティ研修、11/25] [cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会「シエント情報交換会」、3/28]
- 関係者のネットワークづくり [全国の先駆事業所やアトリエなどを訪問、7/18～7/20(合計3回)]
- 発表の機会の確保 [きになる⇄まちなか美術館@白河市、1/28～2/26] [unico file vol.4 わたしがつくる森陽香美術館、2/4～4/2]
- 情報収集・発信 [HP・SNS等での情報発信、4/1～3/31]
- 事業評価及び成果報告のとりまとめ [報告書の作成、2/1～3/31]
- その他 [白鳥建二さんと鑑賞しよう、9/18～2/27(合計3回)]

支援センター運営団体

社会福祉法人安積愛育園

各ライフステージに応じた「一人ひとりが望む生活と自己実現に向けた支援」を基本理念とし、また、社会的役割に「安心して暮らせる街づくり」を掲げる。各事業所・各職域が連携を図り、利用される皆さま一人ひとりを中心としたサービスを提供し、この機能が地域の中で関係機関等と有機的なネットワークを構築していくことで皆さまの自己実現につなげていくものとする。

とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2

TEL: 080-3001-8088 FAX: 0287-92-8088

E-mail: tam@nactv.ne.jp URL: https://tam-mob.org/



Pick Up! 参加型展覧会「Viewing展2023」



参加者と共に行う「Viewing展2023」の設営風景

ねらい 創作活動を行っている障害のある人たちの発表の場を創造し続けるとともに、障害のある人たちの豊かな作品をさまざまな人に見て知ってもらうきっかけづくりの場として、年に一度、公募展を開催している。主に県内に広く公募することで、新たな作家や福祉施設の発掘にもつなげている。また、支援者や興味のある人、当

事者等の人材育成研修の場として、展覧会開催に関わる話し合いや設営等に参加し、展示を行うまでの流れや必要事項、実際の展示の仕方を体験しながら展覧会をつくり上げていく。この展覧会が、障害のある人たちや支援者たちにとって創作活動のモチベーションになることを期待している。

内容 主に栃木県から応募された作品316点から、選考委員により選出された191点を展示した。「Viewing展」は、参加型の展覧会としてレイアウトや設営、運営を福祉事業所職員や関係者等で構成された参加者が主体となり、協力してつくりあげている。作品をテーマごとに振り分け、選考委員賞に選ばれた作品をどのように見せる

のかを含め、全体のレイアウトについて話し合い、実際に手を動かし作品を飾った。さまざまな立場の人たちが集まり対話しながら設営していくことで、お互いの考え方や見方、やり方を共有することができ、作品を見て知ってもらうことの難しさと面白さを体感することができた。

今年度の課題と目標

県内においては各事業所や個人等で創作活動を行っているが、どのように作品や表現を外に発信していけばいいのか分からなかったり、福祉事業所内では、創作活動を支援している職員とほかの職員との間にある温度差に頭を悩ませたりしている状況がある。

障害のある人たちの作品を発表する場を維持し、創作活

動を知り広めていくことに重点を置き、障害のある人たちの創作活動にかかわる福祉事業所の職員や関係者、当事者たちのネットワークを継続してつくりつつ、作品や表現を発表していくためのスキルの向上や、意識・考え方を共有し高めていくことを目標に活動した。

今年度の成果と展望

作品の額装や著作権に関することを研修で学び、単に作品を飾ればよいのではなく、それが表現をする人たちにとってどのような意味を持ち、なににつながるのかを深く考えるきっかけとなった。また、公募展への応募人数も増え、新たな作家、表現に出会うことができた。

研修会に参加する人、作品を新たに応募してくる作家、

施設、そして展覧会に足を運んでくれる人は少しずつ増えているが、当センターの取り組みの認知度はまだまだ高いとはいえない状況にある。この取り組みをもっと広く知らせ、障害のある人たちの表現活動にふれる機会を少しずつ増やしていき、表現活動に対する意識の底上げにつなげていけるよう活動を続けていきたい。



額装ワークショップの様子



「Viewing展2023」展示風景

実施一覧

- 相談支援 [相談支援の窓口設置、4/1～3/31 (合計7回)]
- 人材育成 [人材育成研修会、11/22] [人材育成研修会、12/15]
- 関係者のネットワークづくり [TAM会議、10/20～3/16 (合計5回)]
- 発表の機会の確保 [参加型展覧会「Viewing展2023」、2/3～2/12]
- 情報収集・発信 [情報収集・発信、4/1～3/31]
- 事業評価及び成果報告のとりまとめ [実施事業報告、3/16～3/31]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

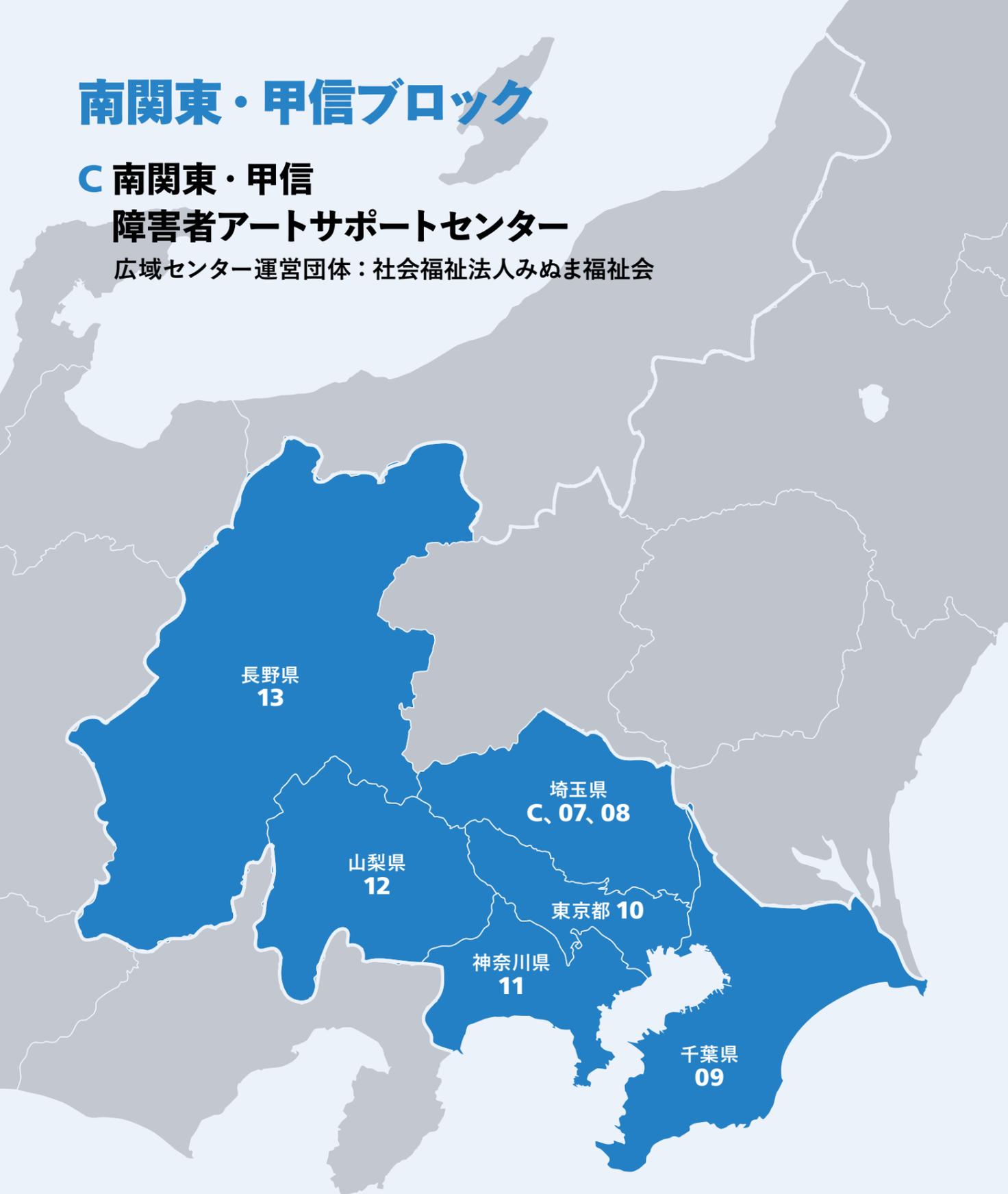
障がいの有無や年齢、性別、国籍、専門家であるなしにかかわらず、既成の枠にとらわれない自由な発想から生み出された作品を展示紹介する「もうひとつの美術館」を運営している。木造の旧校舎を再活用し、年に2、3回の展覧会を開催している。また、併設のミュージアムショップでは、全国の福祉事業所でつくられるグッズも紹介、販売している。

南関東・甲信ブロック

C 南関東・甲信

障害者アートサポートセンター

広域センター運営団体：社会福祉法人みぬま福社会



埼玉県

担当課：福祉部障害者福祉推進課社会参加推進・芸術文化担当

07 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集 (基幹型)

支援センター運営団体：社会福祉法人みぬま福社会

08 ART (S) さいほく (特色型)

支援センター運営団体：社会福祉法人 昴

千葉県

担当課：環境生活部スポーツ・文化局文化振興課

09 千葉アール・ブリュットセンターうみのもり

支援センター運営団体：株式会社いろだま

東京都

担当課：福祉保健局障害者施策推進部計画課社会参加推進担当

10 東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

支援センター運営団体：社会福祉法人 愛成会

神奈川県

担当課：福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

11 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：認定NPO法人STスポット横浜

山梨県

担当課：福祉保健部障害福祉課

12 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人八ヶ岳名水会

長野県

担当課：健康福祉部障がい者支援課

13 ザワメキサポートセンター(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

支援センター運営団体：社会福祉法人長野県社会福祉事業団

ブロック内の状況

南関東・甲信ブロック広域センター：南関東・甲信障害者アートサポートセンター

今年度、長野県に支援センターが開設され、当ブロックには7つの支援センターが設置されている。広域センターは2021年度から同じ法人が担う。埼玉県では、基幹型と特色型の2つの支援センターがあり、連携しながら県域に支援を広げている。千葉県では詩、音楽等も含めた幅広いジャンルの研修から発表機会を創出し、県内への普及を図った。東京都は、八王子地域への支援を継続し、事業を横断的に実施することでネットワーク

拡充に向けて取り組んだ。神奈川県は、県内の福祉施設における芸術文化活動の取り組み状況を調査し、活動に活かした。山梨県は研修会の幅を広げ、新たに観光地や文化施設での鑑賞支援研修を実施した。新たに開設された長野県では、既存の展覧会を引き継ぎ、これまでの事業で浮き彫りになった課題や県内でのさらなる支援の拡充に向けて体制を整えている。

南関東・甲信障害者アートサポートセンター

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445 みぬま福祉会 工房集内

TEL: 048-290-7355 FAX: 048-290-7356

E-mail: artcenter@kobo-syu.com URL: https://skk-support.com/



Pick Up! 合同企画展「カウンターポイント—それぞれの寄り添うかたち—」



合同企画展の様子

ねらい 合同企画展の開催により、本事業の普及と支援センターの認知度の向上のほか、表現のジャンルや属性にとらわれず、障害のある人の多彩な表現の魅力を伝えることをめざした。各センターに伴走している作家や、相談があった方等、つながりのある作家を募り、それぞれの地域の特性に加えて、支援センターと地域、障害の

ある人、福祉団体等にどのようにアプローチしているかを学び合うことで、センター同士の連携や活動への理解を促進する。さらに、センター運営の在り方や役割を再考し、今後の活動に向けた知見を深めるというねらいがあった。

内容 「寄り添うかたち」をテーマに、各センターとつながりのある作家や団体による絵画、立体作品、演劇や人形劇等のジャンルを超えた多彩な表現と商品化プロジェクトを紹介した。また、「地域×福祉×支援×表現」というキーワードで各支援センターと作家や団体、地域との関係性に加えて本事業やブロック内の自治体の活動状況等も紹介した。会議を重ねながら展覧会の方向性を定

め、作家によっては支援センターが作品手配等も分担し、設営も協働で実施。来場者からは作品の感想に加えて「この活動をもっと多くの人に知ってもらいたい」「サポートする側の大切さも学んだ」という声があった。開催後には展示風景を紹介する動画も公開し、それぞれの活動内容はホームページでも記事を公開した。

今年度の課題と目標

当ブロックの特徴として、支援センターが設置されている地域の特性、継続年数、実施団体の専門性、人員体制や自治体の活動状況等が異なり、活動内容も多様である。新たに設置された長野県の支援センターの立ち上げのサポートに加えて、埼玉県以外は自治体担当者が新任のため本事業の理解促進と関係構築も課題であ

る。そこで、主に「支援センターの支援力の向上」「ブロック内連携と相互フォロー体制の強化」「鑑賞、発表機会の拡充」「支援センター認知度の向上」に向けて取り組むことで、今年度もネットワークを拡充し、相互フォローし「みんなで考える」体制の拡充に向けて事業に取り組んだ。

今年度の成果と展望

今年度、長野県の支援センターが開設され、ブロック内全ての都県に支援センターが設置された。ブロック内の支援センターや自治体担当者とのブロック会議（4回）、自治体における事例報告・意見交換会、研修会（3回）を通じた意見交換会に加え、合同企画展を実施した。合同企画展ではジャンルを超えた表現に加えて各支援セン

ターと出展作家や団体、地域との関わりも紹介し、各支援センターの活動や考え方、課題等も共有することができた。さらに、ブロック内の連携の強化とネットワークの拡充につながった。今後は個々の支援センターの活動サポートに向けても注力し、これまで以上にニーズに応じた事業に取り組みたい。



ブロック会議での作家紹介



オンラインで開催した研修会の様子

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [事業内容のヒアリング(オンライン)、4/18～4/28(合計6回)] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [支援センターによる中間支援の取り組みを学ぶ(オンライン)、9/6] [ソーシャルデザインによる支援の仕組みづくりを学ぶ(オンライン)、10/5] [舞台芸術や文化施設の鑑賞支援を学ぶ(オンライン)、11/9] ●ブロック内の連携の推進 [第1回ブロック会議 今年度の各センターの事業計画の共有(オンライン)、5/9] [第2回ブロック会議 相談支援、合同企画展の意見交換(オンライン)、6/8] [第3回ブロック会議 合同企画展の作家の作品紹介や各センターの関わりについて共有、7/5] [第4回ブロック会議 合同企画展、今年度の事業の振り返り(オンライン)、2/7] ●発表の機会の確保 [南関東・甲信ブロック合同企画展「カウンターポイント—それぞれの寄り添うかたち—」、1/17～1/22] [南関東・甲信ブ

ロック合同企画展「カウンターポイント—それぞれの寄り添うかたち—」(動画配信)、3/1] ●自治体における基本計画策定の推進 [自治体における事例報告・意見交換会(オンライン)、8/2] ●その他 [情報収集、発信] [第三者による対話型評価(合計3回)] [事業報告書]

支援センター運営団体

社会福祉法人みぬま福祉会

1984(昭和59)年、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切に、さまざまな困難を抱えた人を受け入れている。現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300人を超えている。

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集 (基幹型)

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445 社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内
TEL:048-290-7355 FAX:048-290-7356
E-mail:artcenter@kobo-syu.com URL:https://artcenter-syu.com/



Pick Up! タマップダンス公演2022「跳べ!いっそ踊ってしまえ!」



ダンス公演の様子 撮影:武藤奈緒美

ねらい 県内では、美術分野に取り組む福祉施設に比べ、舞台芸術や身体表現分野に取り組む施設は少なく課題である。2017(平成29)年度より、この分野の充実と障害のある人の表現の可能性を探るため、ダンスワークショップを開催。毎回、講師のサポートで身体を動かす楽しさを共有しながら、身体表現を通じて講師や参加者同士の関係を育み、一人ひとりの表現が引き出されてい

内容 2020(令和2)年度に企画した公演はコロナ禍のため延期が続き、ようやく開催が叶った。県内のダンスグループ「ベストプレイス」主宰の竹中幸子氏を講師に招き、公演に向けてワークショップを重ねた。当日は竹中氏を始めとしたベストプレイスのメンバー、ワークショップに参加した障害のある11名が出演。一部の衣装は障害のある

る。2017(平成29)年度にはワークショップの集大成として舞台公演を開催。以降、毎年ワークショップを重ねることで、参加者の表現も磨かれ、参加者も増えてきた。今年度はこれまでのワークショップを活かし、障害のある人の発表機会、舞台芸術や身体表現における鑑賞機会の創出と普及に向けて舞台公演を開催した。

メンバーがデザインし、公演の数ヶ月前に天国に旅立ったメンバーやワークショップの映像も演出に加えて、一人ひとりが踊り切った。来場者からは「つながりを感じる」「みんな輝いていた」等の感想があった。公演の様子はYouTube「工房集チャンネル」に公開し、公演内容をまとめた報告書も作成した。

今年度の課題と目標

今年度の主な目標に「舞台芸術や身体表現分野の発表、鑑賞機会の創出」「ネットワークの深化と拡充」が挙げられる。「舞台芸術や身体表現分野の発表、鑑賞機会の創出」については、美術分野よりも福祉施設で取り入れるには課題が多いため、県内で取り組みの充実を図る。また、関わる支援者を増やし、美術分野に限らず幅広い表現の発掘をめざす。「ネットワークの深化と拡充」については、

今年度の成果と展望

県内30以上の福祉施設によるネットワークを運営し、会議(12回)や研修会に加えて展覧会、ダンス公演に向けて協働した。「埼玉県障害者アート企画展」のために総勢130名で行った選考会は、新たに中学校の美術教員、教育学部の大学生、研究者を選考委員に迎えて多様な視点から学びを得た。会議ではグループディスカッションや参加施設の施設見学会を実施。それぞれの参加者が各施

設で行っている表現活動への想いや活動の様子を知る機会となった。2017(平成29)年度に続いて2回目となったダンス公演は、コロナ禍での延期が続き、今年度ようやく開催が叶った。今後もネットワークを広げ、対話と学び合いを深めることで一人ひとりの支援のまなざしを高めていく。さらに、舞台芸術や身体表現分野のワークショップを充実させることで、この分野に親しむ機会を創出する。



左/「埼玉県障害者アート企画展」の様子
右/グループディスカッションの記録
グラフィックレコーディング:野際里枝

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1~3/31] ●人材育成 [「障害者アートの可能性について」(動画配信)、5/27] [事例発表会(アトリエ見学)(オンライン)、6/16・2/16] [商品化に関する研修(オンライン)、7/14~12/22(合計6回)] [企画展に向けた作品選考会(オンライン)、9/2] [企画展ギャラリートーク Part.1(動画配信)、12/7] [権利保護に関する研修(作家向け)(オンライン)、3/13] [権利保護に関する研修(支援者向け)(オンライン)、3/13] ●関係者のネットワークづくり [定例会(オンライン)、4/21~3/16(合計12回)] ●発表の機会の確保 [タマップダンス公演、5/20] [タマップダンス公演(動画配信)、6/8] [企画展オープニングセレモニー、12/7] [第13回埼玉県障害者アート企画展「Coming Art2022」、12/7~12/11] [織り&グッズ展 ツグズムズ15、12/17~12/23] [障害のある作家によるワークショップ、12/17・12/18]

[ダンスワークショップ 身体表現の可能性を探るワークショップ、4/27・5/11] ●情報収集・発信 [障害のある方向けの表現活動状況調査、6/27~12月末] [HP、SNS、YouTube等を使用した情報発信] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [第13回埼玉県障害者アート企画展作品集] [事業報告書] [タマップダンス公演報告書]

支援センター運営団体 社会福祉法人みぬま福祉会

1984(昭和59)年に、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切に、さまざまな困難を抱えた人を受け入れている。現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300人を超えている。

ART (s) さいほく(特色型)

〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1532-5 まちこうば GROOVIN' 内

TEL: 0493-81-4597 FAX: 0493-81-4597

E-mail: arts_saihoku@subaru-swc.com URL: https://www.subaru-swc.com/~groovin/



Pick Up! 町と協働した作品発表の場の創出



協力をを行った「☆アート展☆嵐山☆」展示風景

ねらい ART (s)さいほくでは、アートを通じて障害のある人たちの活躍の場が地域の中で増えていくことを応援している。そのため、作者や事業所から身近な場での作品発表の場は大切であると考え。作者本人や家族、支援者等が共に展示を楽しみ、喜びを共有することで創作活動へのモチベーションアップにつながっていくので

内容 今年度は、新たに嵐山町より障害者作品展の実施協力の相談を受けた。同町ではこれまでも長く作品展を実施しているが、ブラッシュアップを図りたいとのことであった。開催にあたり、福祉事業所や作家本人に呼びかけを行ってもらい顔合わせ会を実施した。各参加者が作品や活動紹介等を行い、お互いを知ることができた。また、当センターにとっても地域の事業所の活動を知る

はないか。しかし、単に作品展を行うだけでなく行政や福祉事業所、作者本人、支援センターが参画し協働してつくりあげていく作品展になるよう、主催の町等と連携をしていきたい。また、地域の人たちに、障害のある人たちの魅力ある作品やそれを生み出す作者や事業所が身近にあることを知ってもらうこともねらいの一つとした。

有益な機会となった。作品展の会場は地域でなじみのある活動センターで行われ、作者本人を始め、家族や支援者、地元の方等、数多くの方が来場した。また取り組みを通じ、町からは新たな在宅作家の紹介を受け、取材への取り次ぎや同行等、さまざまな協力を得ることができた。小規模の作品展ではあるが、継続していけるよう同町と連携を図ってきたい。

今年度の課題と目標

これまで主に福祉事業所等との活動やサポートが多かったが、市町村行政に対してはアプローチが少なかったこともあり、地域の中でART (s)さいほく(支援センター)の存在がまだまだ知られておらず、活用に結びつかなかったという課題があった。昨年度、越生町初の作品展の実施に際し協力を行ったが、地域には数多くのアート活動

今年度の成果と展望

各市町村の障害福祉課を中心に直接訪問を行い、普及支援事業や支援センターの役割とその活動、活用事例の紹介を行った。訪問先の多くが当支援センターの存在を知らない状況であったが、活用事例等を紹介することで関心が高まったのではないかと考える。その成果として、嵐山町より同町の障害者作品展の実施協力の相談を受け、町や町内福祉事業所、在宅作家と共に協働し

に取り組んでいる事業所や在宅作家がおり、発表の機会や活躍の場を望んでいることが分かった。今年度は、町と協働して地域の課題に取り組んでいけるよう、市町村行政に支援センターの存在や、普及支援事業、活用事例の紹介を行い、地域の中で活用される支援センターをめざし取り組んだ。

開催した。町と協働することで広く情報が各所に行き届いたり、新たな在宅作家の紹介を受けるなど、作品展の開催だけでなくセンターにとっても有益な取り組みになった。各市町村にもこうした事例を紹介しながら、センターの活用につなげていきたい。あわせて地域の障害者アートへの関心を高めていきたい。



左/埼玉県北西部エリアの方の公募作品展「アートセッションズ in さいほく 2022」

右/在宅作家への取材を実施。作品制作や生き方への想いを聞かせていただく。

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [各市町村福祉課等を巡回 支援センターや普及支援事業の説明、6/1～10/1 (合計11回)] [アートセッションズ in さいほく ギャラリートーク、11/11] ●関係者のネットワークづくり [各市町村福祉課等を巡回 支援センターや普及支援事業の説明、6/1～10/1 (合計11回)] [アートセッションズ in さいほく 2022 参加事業所等との連携 (合計6回)] [日高市障がい者創作活動合同作品展への協力 (合計2回)] [第2回障害者アート展 in おごせへの協力] [☆アート展☆嵐山☆への協力] ●発表の機会の確保 [人形作家せきぐちなおこの楽しい布人形の世界、7/1～9/30] [アートセッションズ in さいほく 2022、11/10～11/14] [日高市障がい者創作活動合同作品展への協力、12/2～12/4] [第2回障害者アート展 in おごせへの協力、12/9～12/11] [☆アート展☆嵐山☆への協

力、12/9～12/12] ●情報収集・発信 [地域資源の活用] [在宅作家の発掘・取材 (合計3回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [報告書冊子の作成] [図録作成]

支援センター運営団体 社会福祉法人昴

1990(平成2)年4月に「人も街ももっとやさしくなるために暮らしを分け合うやさしい街づくり」をスローガンに設立した。障害のある方、そうでない方、すべての人たちにやさしい「まちづくり」をめざし、地域の皆さまと一緒に歩んでいる。法人や事業所を越えた連携や地域の資源、関係機関との協働をさらに進め、まち全体で「一つの福祉サービス事業所」となるよう力を合わせていくことをめざしている。

千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8

TEL: 0475-36-7411 FAX: 0475-36-7411

E-mail: info.uminomori.net URL: https://uminomori.net



Pick Up! うみのもりの玉手箱 2

左/展覧会「うみのもりの玉手箱2」展示風景（千葉市民ギャラリーいなげ）
撮影：こまちだまお右/「うみのもりの玉手箱2」でのフラッグの作品展示「フラッグ舞う！」
撮影：竹村浩輝

ねらい 「うみのもりの玉手箱」は昨年度に続いて2回目の開催であり、前回同様の展覧会企画とした。作品応募の半数が、昨年も参加した個人、事業所だった。ねらいは次の4点である。

①コロナ禍を考慮し、会場を3ヶ所に分散させ実施する。3ヶ所で展示することで、会場からの発信などつながりを生む。②取り組みが少ない個人・事業所にも関わりや

すい参加方式の創意工夫を行う。これにより昨年度からのクオリティを上げようとする工夫が見られた。また楽しんで制作して下さっていることも読み取れた。③「フラッグ（美術）」「詩」（言葉）「映像作品（身体表現）」というテーマで、幅広い方から参加者してもらう。④「監修者の設置」をすることで、著作権違反の作品など事前に伝え、改善に結びつける。

内容 千葉県内3ヶ所で「よろこび!」をテーマに開催し、総来場者数は1,129名だった。展示作品は「フラッグ舞う!」（美術）、「言葉舞う!」（詩）、「身体舞う!」（映像・身体表現）をテーマに公募した。また、人材育成講座での成果発表3点、会場風景の動画発表も行い、その後Youtubeでも公開した。フラッグの公募については、材料の送付に

よる取り組みやすさに加え、動画にて画材について学ぶ機会も創出し支援した。詩の表現はFacebookページでも発表した。千葉市民ギャラリーいなげでの搬入搬出に関しては、植草学園大学の学生ボランティアと協働し、さまざまな世代での関わりをつくった。

今年度の課題と目標

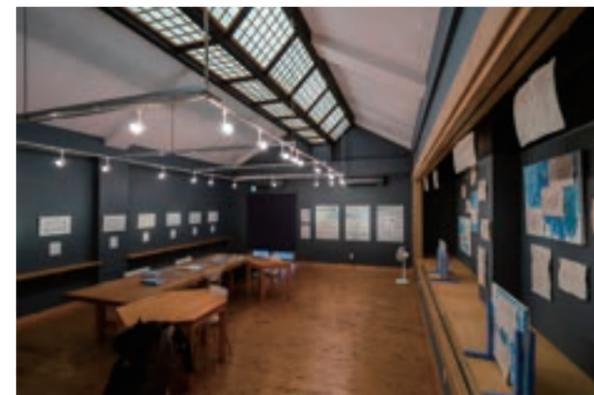
昨年度に引き続き、コロナ禍において表現活動を止めない創意工夫として、①対面での人材育成講座においては感染対策と両立可能な内容にし、状況によってはオンライン講座へ転換できる体制づくり、オンデマンド講座の開催、公募展形式の発表の機会の創出、プログラムの開発をする。また、千葉県では東京近郊部と遠方部と

で表現活動への関心に差があることから、②千葉県東方面での人材育成講座や発表の機会の創出を行い、関心を持ってもらう努力をする。ネットワークの構築として、③WEB・SNSの活用、情報と利用者をつなげる。相談業務における受付方法について、④相談フォームを作成する。以上4点を目標とした。

今年度の成果と展望

①コロナ禍での創意工夫については、オンデマンド講座を1本30分で数本立てにすることで参加しやすい工夫をした。また、展覧会の様子を動画作成し公開することで、コロナ禍で展示を見ることが叶わなかった方への鑑賞の機会とした。②千葉県における地域別の関心の差については、千葉県東総文化会館の大ホールでの講座の実施、

同会館ギャラリーでの発表の機会（展示）の創出等を行ったことで、障害者の表現活動に関わっている方とのつながりが生まれた。③ネットワークの構築に力を入れることで、他県とのつながりが増えた。④相談業務の受付方法を模索し、相談フォームを作成して対応した。2月になりコロナ禍の様相が変わると、相談も増加した。



「言葉舞う!」詩の表現は額装と手書き作品をインスタレーションによって展示をした。 撮影：竹村浩輝



千葉県旭市千葉県東総文化会館ギャラリーをお借りしての巡回展。フラッグ作品30点と詩の作品をインスタレーション展示 撮影：竹村浩輝

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [人材育成講座1「アール・ブリュットと社会」(動画配信)、7/18～2/28] [人材育成講座2「手で見てつくる～視覚障害児の制作から学ぶ」、7/31(合計2回)] [人材育成講座3「著作権保護」(動画配信)、8/1～2/28] [人材育成講座4「多様な人との音楽づくり」(オンライン)、10/2] [人材育成講座5「ことばの、うみへー詩で見つけあう人間力」(オンライン)、10/30] [人材育成講座6「ウキウキ動けば、ドキドキ何が生まれる(はず)」、11/25] [人材育成講座7「教えて!石井先生!-こんな時には、どうするの??-、1/15] ●発表の機会の確保 [うみのもり玉手箱2 身体表現の映像作品とフラッグの展示、1/9～1/15] [うみのもり玉手箱2 詩の作品の展示、1/14～1/29] [うみのもり玉手箱2 フラッグ作品と詩作品の展示、3/5～3/26]

支援センター運営団体

株式会社いろだま

株式会社いろだまが中心に運営し、3つの福祉事業所が福祉面でのサポートをしつつ障害者の表現活動の支援を行っている。株式会社いろだまは、千葉県において1998(平成10)年よりアート×共育の活動を行いながら、表現活動を通じて障害の有無にかかわらず、つながる教育・福祉の活動を続けている。

東京アートサポートセンター Rights (ライツ)

〒164-0002 東京都中野区上高田3-38-5 太和屋産業ビル2階

TEL: 03-5942-7251 FAX: 03-5942-7252

E-mail: rights@aisei.or.jp URL: https://rights-tokyo.com/



Pick Up! 連続トークイベント「かぞくの視点と『障害者アート』のコウシン」



連続トークイベント「かぞくの視点と『障害者アート』のコウシン」第2回の開催風景 撮影: たかはしじゅんいち

ねらい 前年度開催したトークイベントにて、自閉症のある兄を持つ作家をゲストに呼び、その兄との関係（兄弟として、作家同士として）を中心に語っていただいた。このトークをきっかけに、今年度はその内容をさらに掘り下げ、障害者のアート活動や表現について多分野のゲストと

共に考える機会とした。加えて本イベントでは、参加者と登壇者による意見交換の場を設けることで、多様な考え方や意見を共有し他者への理解を深めるとともに、障害者の芸術活動の発展や、新たな発表の機会につながる人材の発掘と、ネットワークづくりを目的とした。

内容 創作を行う自閉症のある兄を持つ美術家・彫刻家による、3回にわたる連続トークイベントを行った。各回にテーマを設け、ゲストには、障害者を兄弟姉妹に持つアーティストや文化人類学者等、障害者や障害者のアート活動と深い関わりを持つ、あるいは障害当事者を招きトークを展開した。後半には登壇者と参加者の意見交換の時間を設け、障害の有無にかかわらずさまざまな方が自身の考え等を発言する場とした。会場はアクセスの

しやすさを考慮し主要な駅に近いレンタルスペースや、コワーキングスペースを選定した。また、参加者に自由に発言していただき、人と人のつながりができるよう、実施は対面のみで行った。発言や研修後のアンケートからは3回とも参加者が障害者のアートや表現について深く考えていることが伝わってきた。この出会いを今後の取り組みへとつながるネットワークの構築等に活かしていきたい。

今年度の課題と目標

前年度事業の中で行った、まちなかで障害者の表現と地域の人が出合うアートイベントの開催を通して、その活動が地域に根ざし継続され、障害者の表現が社会に当たり前に存在し日常となっていくことが重要であると感じた。そのためには、支援センター主体で行う活動だけでなく、都内の各地域が障害者の芸術活動に、継続的か

つ、主体的に携わっていくための人材育成とネットワークづくりが必要と考えた。これを課題とし、障害者の多様な芸術活動を支え、障害者の権利を守りながら芸術活動の拡充につなげる知識と考えを学ぶ、発表の機会を含めた人材育成の場づくりと、その場での意見交換等を通じたネットワーク形成を目標とした。

今年度の成果と展望

地域の方が主催し、当センターが企画協力を行った障害者のアート展では、前年度の事業の中で築いたネットワークが活かされており、地域に根付いた活動への発展がうかがえる例となった。3回にわたる連続トークイベントで設けた登壇者と参加者との意見交換では、障害当事者を含めた方々が、自身の考え等を発言する場となった。トークイベント後も交流する場面があり、発言の場

や他者とのつながりを求めている方が多いことを実感した。また、研修会等には企業やアート関係者の参加が例年より多く、それぞれの地域での発表の場づくりへの意欲がみられた。今後は当事者を含め、障害者の芸術活動に関心のある方が必要とするネットワークづくりができるよう交流の場づくりを行い、障害者の芸術活動の拡充につなげていきたい。



身体表現研修における講演の様子 撮影(左右): たかはしじゅんいち



身体表現研修で行ったワークショップの様子

実施一覧

●相談支援 [無料法律相談、9/12～3/10(合計6回)] ●人材育成 [障害のある人の芸術活動を守るために－意思の尊重と権利保護－、11/13] [連続トークイベント「かぞくの視点と『障害者アート』のコウシン」、11/26～1/28(合計3回)] [からだで表現する－石巻「てあわせのはら」の活動を通じて－、2/23] ●発表の機会の確保 [スーパーポジティブ展、9/12～10/21] ●情報収集・発信 [Oh! Rights! ポジティブムービー(動画配信)、9/9～(合計6本)]

支援センター運営団体 社会福祉法人愛成会

1958(昭和33)年に創立した、利用者と共に地域づくり・まちづくりに寄与する取り組みを行っている社会福祉法人である。所属や年齢、障害の有無を問わず地域に開いた創作の場「アトリエ pangaea (ぱんげあ)」を運営するほか、2010(平成22)年からは、地域の商店街や人々と協働で芸術文化活動の発信に取り組んでいる。

神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル 地下1階
 TEL: 045-325-0410 FAX: 045-325-0414
 E-mail: info@k-welfare.org URL: https://k-welfare.org/



Pick Up! ワークショップ実施事業



「生活介護事業所 飛行船」での上村なおかさん(ダンサー)とのダンスの取り組み。 写真:金子愛帆

ねらい 神奈川県内の障害福祉サービス事業所等を対象に、ワークショップ実施を希望する施設の公募を行った。ワークショップの内容は「コロナの影響で生まれづらくなった利用者同士のコミュニケーションのきっかけとしたい」「施設が地域とつながる方法を考えたい」といった各施設のニーズに合わせて検討した。実施後に設けた振り返りの時間では、福祉施設職員、アーティスト

と共に、障害のある人にとっての芸術文化活動のあり方や意義、ワークショップ終了後の展開等を意見交換した。また、地域の文化施設や自治体の担当課等の関係機関に事業周知を行い、取り組みを見学していただくなど、自施設での継続した取り組みにつなげたり、地域で連携する展開の可能性を探った。

内容 ワークショップ実施施設の公募に対し応募があった28件から選定した3ヶ所と、前年度から継続して実施する4ヶ所の計7ヶ所の障害福祉サービス事業所等にアーティストと出かけ、ダンスや音楽、美術、演劇のワークショップを行った。参加者からは「みんなで楽しめて嬉しかった」「初めてのことに挑戦できた」、職員からは

「自己表現が楽しいと気づき、自信につながった利用者がいた」「自分たちの支援を振り返るきっかけになった」といった感想が聞かれた。また今年度は、施設内での取り組みだけでなく、地域の文化施設や生涯学習施設等を会場として活用した。実施施設の地域にある資源に目を向ける機会にもなっていた。

今年度の課題と目標

障害当事者や家族、支援者から、創造・交流・発表に関する相談が多く寄せられており、身近な地域にある機会に関する情報提供が求められている。また、芸術家によるワークショップ実施など、障害福祉の現場に芸術文化活動を取り入れることに対するニーズが高まる中、障害福祉分野の知見だけでは、継続的に芸術文化にふれる

機会を創出することは難しいと感じている。今年度は「やりたいと思った人が自分たちで活動を続けること」へのサポートをめざし、地域資源の把握・活用、関係機関への働きかけ、障害福祉サービス事業所における芸術文化活動の状況把握を行う調査研究の3つに注力して事業に取り組んだ。

今年度の成果と展望

人材育成講座では、障害者の表現をすくい上げ、地域との関わりにつなげていく方法を考える機会として、展示方法や創作を体験する講座を全3回行った。対面で行うことで、参加者同士で交流する機会にもなった。また、神奈川県内の障害福祉サービス事業所に対してアンケート調査を行い、芸術文化活動に関する現状把握をした。

調査の結果は、障害当事者や支援者等が活用できるよう、地域に開いた芸術文化活動に取り組む福祉施設と、障害者が訪れやすい文化施設を障害福祉保健圏ごとに紹介するマップにまとめた。今後も障害のある人や芸術文化が地域の中で充実していくよう、地域の文化施設等他分野と連携しながら、取り組みを続けていきたい。



左/調査研究成果物「いっしょにたのしむおさんぽマップ」
 右/造形ユニット・ドゥイを講師に招いた講座の様子

実施一覧

●相談支援 [都道府県内における相談支援、4/1～3/31] [相談窓口の周知パンフレット作成、5/19～3/31] ●人材育成 [障がい福祉と芸術文化の関わりを考える勉強会、9/7～11/7(合計3回)] [第1回勉強会参加者 オンライン交流会、9/12] [ワークショップ実施事業、9/22～2/1(合計21回)] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会(オンライン)、12/26～2/22(合計2回)] [文化施設職員との座談会、2/28] ●発表の機会の確保 [成果報告会「地域とともに考える障がい福祉と芸術文化」(動画配信)、3/17～3/31] ●情報収集・発信 [神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターだより、4/28～3/31(合計6回)] [神

奈川県内福祉施設における芸術文化活動に関するアンケート調査、5/23～6/24] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [報告書の作成、1/20～3/31]

支援センター運営団体

認定NPO法人STスポット横浜
 アートの持つ力を現代社会に活かすことをミッションに、小劇場「STスポット」の運営、学校や福祉施設への芸術家派遣、地域のアートプロジェクト支援等を行うNPOである。2015(平成27)年度からは、文化庁委託事業や神奈川県との協働を通して、福祉と芸術文化の関わりについて考える場をつくり続けてきた。

YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条1237-3

TEL: 0551-45-7027 FAX: 0551-45-8221

E-mail: yan@y-meisui.or.jp URL: http://y-meisui.or.jp/yan/

**Pick Up!** 人材育成研修会「目の見える人と見えない人が楽しむ美術鑑賞ワークショップ」人材育成研修会「キース・ヘリングの作品を『鑑賞』してみよう」実施風景（会場：中村キース・ヘリング美術館）
All Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation Courtesy of Nakamura Keith Haring Collection.

ねらい 障害のある人が美術鑑賞やイベント参加をする機会に求められる合理的配慮について、試行錯誤しながら実践を重ねている。その中で障害について知ろうとするとき、障害当事者と語り、理解し合うプロセスは必須であるという気付きを得た。本年度は「視覚障害者との交

流」に焦点を絞り、障害のある人・ない人が「まずは出会い、互いを知り、共に楽しむ」機会を創出することをねらいとして、福祉施設職員のほか広く一般から参加を募り、人材育成研修会「目の見える人と見えない人が楽しむ美術鑑賞ワークショップ」を実施した。

内容 目の見える人と見えない人が、目に見えるもの（色・形など）と見えないもの（印象）を感じて伝え合う全2回の研修を実施。講師は「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」に依頼した。1回目「忍野八海を『観光』してみよう」、2回目「キース・ヘリングの作品を『鑑賞』してみよう」のテーマともに、視覚障害のあるナビゲーター2名と晴眼者2名のファシリテーターが、目的を決めて話す「まっすぐモード」、思い付きで感じた印象を

話す「ぶらぶらモード」を行き来させ進化した。2チームに分かれて歩き、参加者は「こんなことが見える」「こう感じる」など目で見える魅力や感想・印象を自由に言葉にしていった。活発な言葉のやりとりによりナビゲーターのイメージも膨らみ、参加者全体がより作品や空間・互いの人柄・状況の認識を深め、情報や感覚の共有が促されるなど、ふだんよりもより深く「みる」経験となった。

今年度の課題と目標

ネットワークづくりを目的として続けてきたアートカフェミーティング（以下、ACM）ではメンバーが固定化され、新規参加者の獲得が難しくなっていた。また、昨年度行った「表現活動についての状況調査アンケート」結果から、「活動のマンネリ化」や「取り組み方を知りたい」といった課題やニーズを把握することができた。そこで、これまで一ヶ所に同じメンバーが集まり車座で行っていたス

タイルを、今年度からはニーズのある各事業所へのアウトリーチに変更。これまであまり関わりのなかった事業所に訪問希望を募り、対面ヒアリングにて現状の課題を伺い、支援者・利用者が共に楽しむアート体験ワークショップを実施。課題解決に向けた助言や支援を継続して行える関係性を構築し、ネットワークを拡充させることをめざした。

今年度の成果と展望

今年度のACMでは3件の事業所訪問を行い、対面ヒアリング、各事業所の希望に応じてアート体験ワークショップを実施。事後アンケートでは「初めての題材だったが、職員も利用者と共に楽しめ、今後の意欲につながった」「作品を掲げて誇らしげな利用者の表情を見て、活動をしてみたいと思えた。発表に挑む際にはまた相談したい」との感想が得られた。制作手順や必要な道具の購

入先一覧等も配布し、今後の活動に活かしてもらえるよう工夫した。

対面での丁寧な相談対応によって新たな展開が生まれ、関係性を継続・発展させていくことを「ネットワークの構築」と捉え直し、来年度も引き続き課題やニーズを抱える事業所へ赴き、アート活動を継続的に支援していきたい。

左／相談事例（オリジナルグッズ製作サポート）。「娘の作品を商品化したい」との相談からご家族のオリジナルグッズ製作に1年間伴走し、ブロック合同企画展に出品
右／「アートカフェミーティング出張ワークショップ」で藍染めをしたTシャツ

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [人材育成研修会 目の見える人と見えない人が楽しむ美術鑑賞ワークショップ「忍野八海を『観光』してみよう」、10/23] [人材育成研修会 目の見える人と見えない人が楽しむ美術鑑賞ワークショップ「キース・ヘリングの作品を『鑑賞』してみよう」、12/18] ●関係者のネットワークづくり [アートカフェミーティング、8/31・2/1・2/22 (合計3回)] ●発表の機会の確保 [「Relation:ArtBrut—写真家大西暢夫がとらえたアール・ブリュット—」巡回作品展、10/22～10/23・11/3～11/7・11/19・11/20～11/27・12/3～12/9・1/5～1/15・2/10～2/12 (合計7日)] ●情報収集・発信 [SNS等による情報発信 (合計24回)] ●その他 [山梨県・みん

なで楽しむバリアフリー演劇祭、9/17・9/18・9/19] [第9回山梨県障害者芸術・文化祭 先進的な舞台発表団体を招聘した鑑賞会、11/5]

支援センター運営団体
社会福祉法人八ヶ岳名水会

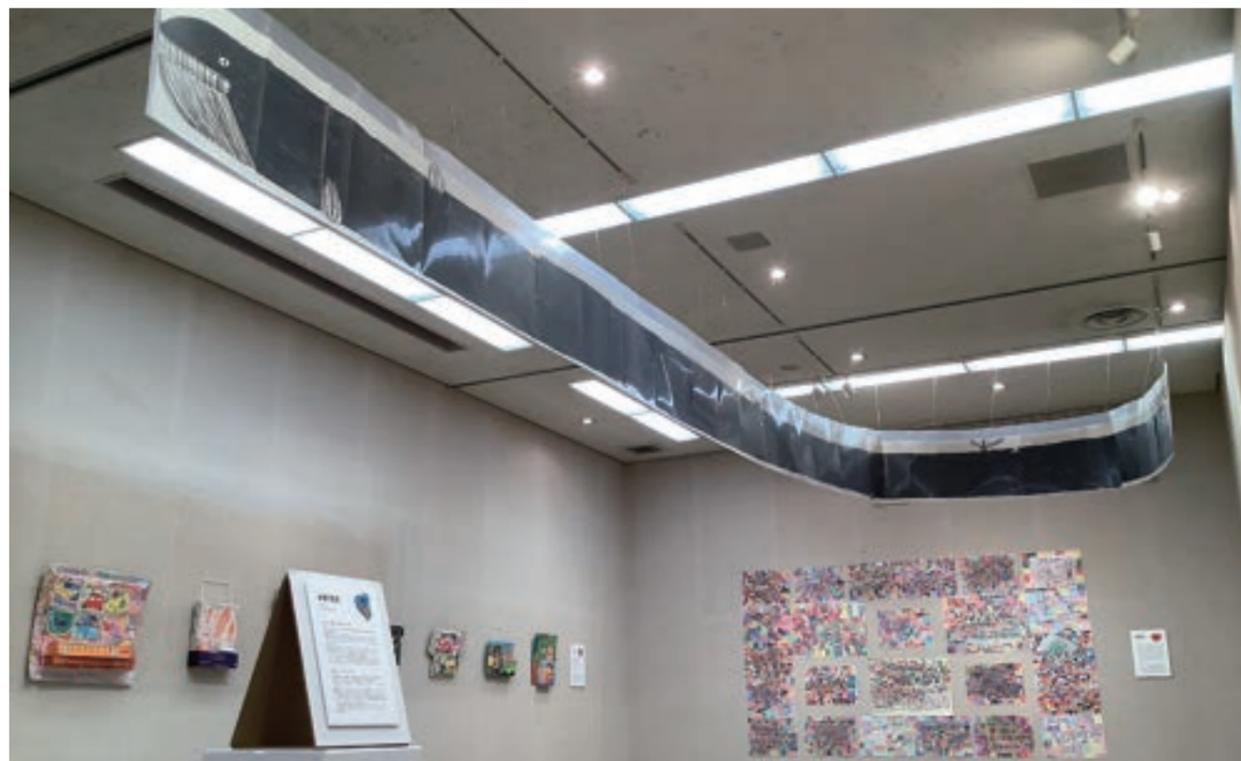
「共に暮らす地域の創造と実現（ノーマライゼーション）」という法人理念のもと、北杜市および斐崎市を中心に、障害のある人たちの地域生活を支援する事業を展開している。2016（平成28）年に「YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター」を開設。県と連携し、障害のある人たちの自立と社会参加をめざし、美術分野と舞台芸術分野のすそ野を広げる活動を推進していく。

ザワメキサポートセンター (長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

〒381-0034 長野市大字高田364番地1(長野県社会福祉事業団 本部事務局内)
TEL: 026-217-0022 FAX: 026-228-0310
E-mail: art@nagano-swc.com URL: https://nagano-swc.com/art/



Pick Up! スキスギテストキ。ザワメキアート展2022



「スキスギテストキ。ザワメキアート展2022」会場風景(梓川アカデミア館)

ねらい 長野県在住の障害のある方の創造性あふれる作品を発信する場と、広く県民が鑑賞する機会を設け、その優れた芸術性や創造性に対する認識を高め、文化芸術活動の振興・推進を図る。

2016(平成28)年度から公募展を開催し、2021(令和3)年度は過去4年間の入選者を紹介する企画展を行った。年々、来場者も増えメディアにも取り上げられるなど、障害のある方の芸術活動に対する県民の認識が高まりつ

内容 何かを本気で好きになってしまった人たち「スキスギテストキ。」をテーマに、長野県内2ヶ所でアート企画展を開催。ゲストキュレーターには森泉智哉氏(画家/イラストレーター)を迎えた。作家および支援者とは、取材の段階から深く関わり、コミュニケーションを取ることがで

つある。この流れを止めることなく、本展のこれまでの主旨を継承するものとし、開催した。

本展の特徴は、作家の所属する福祉施設や自宅を訪問しての作品の調査や、作家の生活や制作に至る背景等の聞き取りを行う丁寧な取材にあり、作品の魅力だけでなく、作品や作家のモノガタリを紹介することを心掛けている。

きた。作家の作品展示を補完するようなかたちで、作家に対するキュレーターのコメントや支援者のコメントをキャプションとして掲示した。オープニングセレモニーでは感極まって涙を流す作家の姿も見受けられた。

今年度の課題と目標

当センターをオープンするにあたって、今後5ヶ年の運営方針を計画し、今年度はその1年目にあたる。センター業務の達成目標は、以下のとおりである。

- ①相談支援：他県を参考にしながら相談業務を開始する。
- ②人材育成：関係者による意見交換会等を開催し、需要の

今年度の成果と展望

センター業務の達成目標に関して、概ね達成することができた。特筆する成果としては、まず「スキスギテストキ。ザワメキアート展2022」の成功が挙げられる。

今年度より、今までの公募展からゲストキュレーターによる企画展へ変わり、それぞれの視点から同展覧会の魅力を紹介した。県内2会場で開催し、来場者数1,168名、WEB展来場者数2,696名となり、多くの方にご鑑賞いただけた。



「キララ☆展」会場風景(ギャラリープラザ長野)

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [キララ☆展支援者向け展示講座、10/19] [ザワメきっずプロジェクト、12/2～2/10(合計4回)] ●関係者のネットワークづくり [信州アーツカウンシルとの連携会議、4/21～10/27(合計7回)] [県担当課連携会議、4/26～3/13(合計8回)] [ザワメキサポートセンターアドバイザー会議(オンライン)、5/23～10/28(合計2回)] [ザワメキアート展2022アドバイザー会議(オンライン)、6/29～11/29(合計2回)] ●発表の機会の確保 [キララ☆展(ザワメキ・キャラバン2022)、10/20～10/25] [ザワメキ・キャラバン in 信毎メディアガーデン(対話アートNAGANO WEEK/ナナイロ会議)、11/19～11/25] [スキスギテストキ。ザワメキアート展2022(梓川アカデミア館)、1/20～1/29] [スキスギテストキ。ザワメキアート展2022(東御市文化会館)、2/4～2/19] ●情報収集・発信 [取材、6/1～3/9(合計30回)] [ザワメキ schoolキャラバン in 駒ヶ根東中学

把握を行い事業へ反映する。③ネットワークづくり：ネットワーク会議等の開催。ネットワーク構築のための土台づくりを行う。④発表の機会の確保：ザワメキアート展の開催。⑤作品の貸出：他県の実施状況の把握。⑥情報収集・発信：作家のアーカイブデータをサイトへ掲載。

情報収集に関しては、40名と多くの作家の取材を行い、県内の福祉施設や個人の創作活動状況を把握することができた。情報発信では、障害のある方の芸術活動について知っていただくため、「ザワメキ・キャラバン」3回、「ザワメキ schoolキャラバン」1回を行った。障害のある方が、芸術文化活動を通じて生きがいや楽しさを感じられるよう、年度ごとに設定する目標を達成できるようにしている。



「キララ☆展」での支援者向け展示講座の様子

校、7/14～7/29] [ザワメキ・キャラバン in 善光寺門前、10/20～10/25] [スキスギテストキ。ザワメキアート展2022 WEB展(動画配信)、1/20～3/31(合計12回)] [ザワメキ・キャラバン in 東御市文化会館、2/4～2/19]

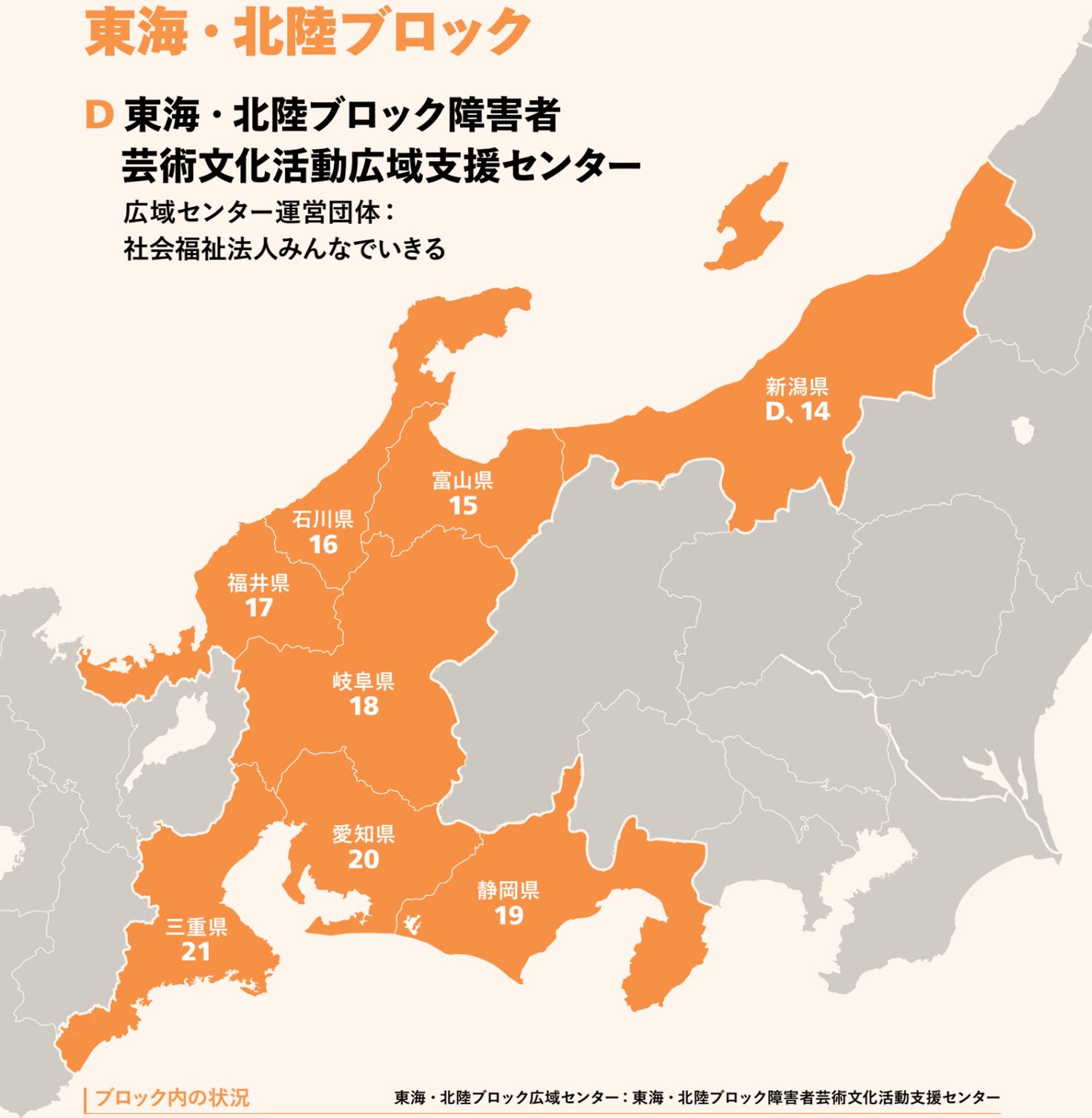
支援センター運営団体 社会福祉法人長野県社会福祉事業団

「誰もが笑顔で輝く社会を創造します」を経営理念に、県内各所にさまざまな施設・事業所を設置し運営している。2022(令和4)年度6月より、「ザワメキサポートセンター(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)」をオープンした。「ザワメキアート展」を継続して開催するとともに、作品の販売や著作権等に関する相談支援、芸術文化活動に関する研修等を行い、障がいのある方や、その支援をされる方を幅広くサポートをしている。

東海・北陸ブロック

D 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

広域センター運営団体：
社会福祉法人みんなでいきる



ブロック内の状況

東海・北陸ブロック広域センター：東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動支援センター

愛知県、岐阜県、静岡県、三重県、福井県、石川県、富山県、新潟県の8県全てに支援センターが設置されている。広域センターは新潟県に置かれている。愛知県では、支援センターの実施主体が変更した。岐阜県は、ブロック内の支援センターのリーダー的な存在感を示しブロック展示会を開催した。静岡県では、作家情報の集積とそれに伴う大幅なHPのリニューアルを行い、より多くの情報を発信できる仕組みをつくった。三重県では、

福祉事業所とより連携を強化し、協働で事業を実施した。福井県では、作家紹介ができるHPを開設した。石川県では、来年度同県で開催する全国障害者芸術・文化祭に向けて商品開発を通じたネットワークづくりを行った。富山県では、課題であった舞台芸術の取り組みを実施し、新たな関係者とつながりをつくった。新潟県では、ケアと表現の事例集を作成し、県下の福祉事業所等に配布した。

新潟県

担当課：福祉保健部障害福祉課

14 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人みんなでいきる

富山県

担当課：厚生部障害福祉課

15 富山県障害者芸術活動支援センターばーと◎とやま

支援センター運営団体：特定非営利活動法人障害者アート支援工房ココペリ

石川県

担当課：健康福祉部障害保健福祉課

16 文化・芸術活動支援センターかける

支援センター運営団体：特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

福井県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

17 福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと

支援センター運営団体：社会福祉法人ハスの実の家

岐阜県

担当課：環境生活部県民文化局文化創造課、健康福祉部障害福祉課

18 岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASCぎふ]

支援センター運営団体：公益財団法人岐阜県教育文化財団

静岡県

担当課：スポーツ・文化観光部文化局文化政策課文化振興班

19 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

支援センター運営団体：特定非営利活動法人オールしずおかベストコミュニティ

愛知県

担当課：福祉局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

20 愛知県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：特定非営利活動法人愛知アート・コレクティブ

三重県

担当課：子ども・福祉部障がい福祉課

21 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：公益社団法人三重県障害者団体連合会

東海・北陸ブロック障害者 芸術文化活動広域支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル307号室 社会福祉法人みんなでいきる法人本部内

TEL:025-530-7264 FAX:025-530-7261

E-mail: info@niigata-artbrut.net URL: https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! アドバイザー派遣事業の実施



舞台芸術アドバイザーの派遣

ねらい 広域センターでは、過去5年間にわたって、支援センター同士のネットワーク化と人材育成を主として事業展開を図ってきた。次の5年間は定期的な人材育成を図りつつ、それだけでは解決できないより専門的・個別的な課題に対応する機能が求められている。東海・北陸ブロック内では主に、①支援センターを支える新たな

内容 権利保護アドバイザーには、月に一度、権利に関わるアドバイスの機会をいただき、作品の二次利用や売買に関わる個々の事例に対する相談対応、また作品の売買に関わる手引きを作成するにあたって監修をいただいた。舞台芸術アドバイザーには、舞台芸術未実施であった富山県の支援センターに関わってもらい、実際の取り組みにつなげた。次年度、同県で舞台芸術を実

ネットワークづくり、②権利保護に関わる相談対応、③舞台芸術の実施、④合理的配慮に関わる取り組み、⑤広報力強化、以上5つの課題が顕在化していた。この課題に対し、一過性のものではなく、継続的に支援センターに関わることができる専門家を派遣することで解決につなげることをねらいとした。

施することも決定した。広報・ネットワークアドバイザーには、石川県に関わってもらい、支援センターの広報戦略の立案および表現活動を通じた福祉事業所とのネットワークづくりについて助言をもらった。合理的配慮アドバイザーからは、誰もが参加できるといった観点で舞台芸術プログラムを開発してもらった。

今年度の課題と目標

前年度の評価委員会において、特に舞台芸術の取り組みと支援センターの基盤強化について取り組みが十分でないと指摘された。この2点に注力することとし、特に舞台芸術の推進は最重点事業とした。また全県に支援センターは設置されたが、予算規模が小さい支援センターでは人材育成だけでは機能強化が難しい実態があり、アドバイザー派遣事業を企画した。相談支援におい

今年度の成果と展望

舞台芸術の推進は、音楽を中心としたステージを実施。新たなパフォーマーの発掘と合理的配慮に関わる取り組みが進んだ。汎用的な福祉事業所向けのワークショップも開発した。舞台芸術アドバイザーの派遣により、富山県で舞台芸術の取り組みが始まった。舞台芸術推進のための人材育成に関わる検討会を設置する構想も生まれた。支援センターの基盤整備については、アドバイ

ては、作家の権利保護に関わる相談、特に原画の売買に関わる相談が増え、より法的な理解や丁寧な手続きが求められるケースが出てきた。ブロック研修会は、前年度に支援センターへ研修内容の希望を取り、表現の捉え方や福祉制度の基本的な理解、事例検討会等、8回の開催を計画した。

ザーの派遣により支援センターをフォローするネットワークの構築が生まれた。ブロック研修会では8回13テーマを実施し、人材育成を図った。評価委員会ではアドバイザー派遣による課題解決について評価をもらった一方、舞台芸術における人材育成の仕組みについて構想で終わらないよう叱咤激励を受けた。



「最も自由な人たち vol.9」でライブを行う「羊のクロニクルズ」



「ジャパン・ミュージックブリュット・フェス vol.03 Do It!!」演奏風景

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [広報・ネットワークアドバイザーの派遣 (石川県)、4/1～3/31(合計16回)] [舞台芸術アドバイザーの派遣 (富山県)、4/1～3/31(合計13回)] [権利保護アドバイザーの派遣 (オンライン)、4/1～3/31(合計12回)] [合理的配慮アドバイザー (全体)の派遣 (オンライン)、4/1～3/31(合計3回)] [合理的配慮アドバイザー (パフォーマンス)の派遣、4/1～3/31(合計9回)] [ブロック会議および研修会の開催、5/31～2/20(合計8回)] [評価大会の運営協力 (石川県)、7/16] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [みなぶたフォーラムの開催 (福井県)、11/13] ●発表の機会の確保 [演劇的コミュニケーションワークショップの開発・実施 (愛知県)、7/5～11/9(合計9回)] 最も自由な人たち vol.9 (愛知県)、9/11] [『いろんなみんなの展覧会 根を、下ろす。』での調整 (岐阜県)、11/3～11/7] [ワーク

ショップからださがしの開発・実施 (愛知県)、11/8～2/2(合計11回)] [ジャパン・ミュージックブリュット・フェス vol.03 Do It!! (愛知県)、12/3・12/4] ●自治体における基本計画策定の推進 [千葉県障害者文化芸術活動推進計画と支援センターの関り、1/27] ●その他 [事業評価に関わる情報交換会 (オンライン)、2/1] [評価委員会 (オンライン)、3/16]

支援センター運営団体 社会福祉法人みんなでいきる

「つながりのイノベーション」をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が『生きた証』を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。2022(令和4)年度は新たに保育所を運営する。

新潟県障害者芸術文化活動支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル307号室 社会福祉法人みんなできの法人本部内
TEL: 025-530-7264 FAX: 025-530-7261
E-mail: info@niigata-artbrut.net URL: https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! ケアと表現の事例集



「ケアと表現の事例集」より「CASE3: 大橋加奈さん」抜粋 漫画: 古泉智浩

ねらい 福祉事業所等が芸術文化活動に取り組んだことによって、作家やその周りにいる方の日常や暮らしにどのような変化をもたらしたのか。また作家に対し誰がどのような関わり方をしていたのか。こういったケアと表現活動の相関をまとめ、紹介することにより、表現活動に興味を持つ方の増加や、新たな取り組みにつなげていく

内容 3年間で実施した作者本人や家族、支援員へのヒアリングをもとに9つの事例をまとめた。事例はテーマ毎にまとめ、具体的には、障害のある方が作品制作の自覚がなくなってきたものに対して、職員の関わり方を漫画化したもの、初めて自分の作品を展示するに至った経緯を、生活歴とともに作家自身が記したものの、さまざまなメンバーでつくる参加型展覧会が主体的に運営されるまで

ねらいがあった。そのために、障害のある方が行う表現に対する周りの方の捉え方や、そのリアクションに焦点を当てた訪問調査を計画した。調査および原稿の執筆はセンター職員だけではなく、漫画家や作家本人に依頼することで、表現に対する捉え方や語り方を広げていく意図があった。

の記録など。表現活動が障害のある方の暮らしにどのように作用したのか、事例を通してその一端を紹介する内容となった。また、表現活動の実践例を県下に伝える取り組みを通して、支援センターに必要な機能が浮き彫りになり、センター職員自身にとっても大きな学びとなった。主に新潟県内の障害福祉事業所へ配布した。

今年度の課題と目標

同事業は2020（令和2）年度に採択を受けた時点で、3ヶ年計画を立案し展開してきた。よって2022（令和4）年度は3年間の事業成果をしっかりと分析し、次の3年の展開を考えながら事業を実施することを目標とした。具体的にはデザインセンターの立ち上げ、メディアの開設、ケアと表現の事例集の発行、2019（令和元）年度に開催した国民文化祭・全国障害者芸術・文化祭のレガシーとして

今年度の成果と展望

相談支援体制の整備として、月1回の頻度で法律の専門家に相談できる機会を持った。これにより、センターに寄せられた相談に対して細やかに対応できるようになった。次年度は精神障害を専門とする相談員とも連携していきたい。公募展では「もの語り」というコンセプトを前回から引き継ぐことで、作品募集の段階から趣旨を明確に発信することができた。前回以上に多様な作品が

公募展の開催を計画した。また、複雑な相談が増えたことから相談支援体制の整備が必要となった。これらの事業を通じて、県下における表現活動が、障害のある方の暮らしにどのように作用したのか、また地域や周りの方にどのような変化があったのかを整理することを目標とした。

集まり、応募のあった65組のうち15組を展覧会で紹介した。今回紹介できなかった作者に対しては、次年度の訪問調査等で関わりをつかっていきたい。事例集では、センターがこれまでに関わった事例を漫画やイラストを交えてまとめ、表現活動に取り組む成果や課題を広く共有できるかたちとなった。



左/新潟アール・ブリュット公募展2022「もの語り」。いわゆる作品としての「もの」の展示スペース
右/訪問調査を受ける松澤龍成さん

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [障害のある方の表現活動に関わる権利保護の研修会（オンライン）、10/2] [展示研修会の開催、3/2～3/4] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会の開催、3/6] ●発表の機会の確保 [ものづくりワークショップの開催（オンライン）、8/10～12/16（合計2回）] [新潟アール・ブリュット公募展選定委員会の開催、8/31] [第20回新潟県障害者芸術文化祭の運営協力および動画作成、11/13] [新潟アール・ブリュット公募展-もの語り-の開催、3/4～3/12] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [ケアと表現の事例集の作成、3/31]

支援センター運営団体

社会福祉法人みんなでき

「つながりのイノベーション」をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が“生きた証”を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。2022（令和4）年度は新たに保育所を運営する。

富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま

〒933-0115 富山県高岡市伏木古府元町2-5

TEL: 070-2643-0796

E-mail: beart.toyama@gmail.com URL: https://bearttoyam.jimdofree.com/



Pick Up! 第4回とやま世界こども舞台芸術祭併催事業「PAT&BRUT展」



「第4回とやま世界こども舞台芸術祭」の併催事業として開催された展覧会「PAT & BRUT展」

ねらい 「とやま世界こども舞台芸術祭」の事業目的に沿って、子どものみならず、芸術祭に関わるあらゆる人々が芸術の魅力にふれ、創造性を陶冶されるような空間を、障害のある独創的な人の作品展示によって提供する。

内容 富山県で4年に一度開催されている「とやま世界こども舞台芸術祭」の理念にある「多様性に出会う、認め合う」をテーマとして美術表現を取り上げ、「PAT&BRUT展」を開催した。県内で創作活動に取り組む作家15名の作品は、小さな紙切れから横幅3.6メートルのパネル等に描かれており、その独創性に富んだ作品を開放的な

空間に展示した。また、会期中には芸術祭の併催事業として、障害のある学齢児を対象とした身体表現に関するダンスワークショップも開催した。芸術祭がより多様な価値観や表現をテーマとした事業として、広がりを持つことができた。

る。また、芸術祭のサテライト会場として、各国の芸術祭参加者の鑑賞を促すとともに、県民の芸術祭への参加や関心を引き出せるよう、芸術祭開催期間中の文化交流の場としていく。

今年度の課題と目標

今年度は昨年度に引き続き、コロナ禍における事業運営の創意工夫に取り組んでいくことと、相互交流が生まれる場づくりについての取り組みに重点を置いた。また、県内で支援の機会が比較的少なかった地域において、

他団体や企業との連携の中で効果的な事業展開を行い、障害のある人の芸術文化活動や支援に関心を持つ人、積極的に関わる人材の育成に努めた。

今年度の成果と展望

「世界こども舞台芸術祭美術館」の理念にある「芸術表現を通じた国境を越えた交流」や「共生社会の実現」に向けた内容の併催事業として、サテライト会場で地元の障害のある作家による展覧会「PAT&BRUT展」に取り組んだ。来場者数は753名だった。また、ボランティアも20名参加した。芸術祭との連携によって、芸術祭参加の国内外の関係者や、県内の身体表現を始めとする芸

術関係者全般に向けて、あらためて理解促進に取り組むことができた。また、支援センターがプラットフォームとなって株式会社シブヤフォントと連携し、県内の複数の事業所がアート活動に新しく取り組む機会をつくることができた。支援センターがハブ役に徹することによって、新たな連携の道筋をつくることができた。



左/「アール・ブリュット◎TAKAOKA vol.8 まぜまぜわーくしょっぷ」の様子

右/ご当地フォントのためのワークショップを経て完成したご当地フォントおよびパターンの完成披露会

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [アートとフクシのコーポレーション「障害のある方のアートを応援する」、5/28] [アートとフクシのコーポレーション「僕が考えるデザイン」、7/30] [第4回とやま世界こども舞台芸術祭併催事業スペシャルワークショップ、8/1] [小学校巡回展、9/4] [アートとフクシのコーポレーション「Wajiyaのこれまでとこれから」、9/24] [社会福祉法人湊明会研修会「アートを通して社会につながるコトがもたらすモノ」、3/4] ●発表の機会の確保 [NANTANG ギャラリー個展シリーズ、4/1～3/31 (合計4回)] [PO-OF PROJECT、5/16～3/9 (合計9回)] [第4回とやま世界こども舞台芸術祭併催事業「PAT & BRUT展」、7/23～8/3] ●その他 [アール・ブリュット◎TAKAOKA vol.8 まぜまぜわーくしょっぷと世界早産児デイ、11/23]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人障害者アート支援工房ココペリ

富山県立高岡支援学校美術部OBの卒業後の創作活動継続のため、美術部顧問等がつくった絵画グループが基となって、より支援の輪を広げることを目的に2010(平成22)年に設置された。地元伏木からの発信を大切にしながら、「つくる」「かざる」「つなぐ」「さがす」「まもる」「つたえる」の活動を展開している。

文化・芸術活動支援センターかける

〒920-1346 石川県金沢市三小牛町イ3-2

TEL: 080-7484-9349 FAX: 076-287-0886

E-mail: po0po0.kakeru@m.email.ne.jp URL: https://r.goope.jp/po0po0-kakeru



Pick Up! 自主製品開発支援プロジェクト



左/自主製品の「缶バッジ」を販売した「かけるガチャ」。
9法人から15作品が制作された
右/おみくじには障がいがある人の言葉を使用した

ねらい アート作品の活用方法の一つ「自主製品の開発」において、工賃向上を目的とすることで、就労系の事業所のみならず、生活介護など多様な事業所が参加する「機会」となりうる。事業所の担当者が、製品をつくる過程でデザイナーからレクチャーとアドバイスをもらい、それをもとに制作し、主体的に関わり、事業所としての

内容 福祉事業所の就労支援として「自主製品の販売」があるが、製造や販売のノウハウがなく、課題を抱えている事業所が多い。この実情をふまえ、製品の製造から販売までを協力し合い、進めていく企画である。自主製品は、イラストや言葉を活用した「缶バッジ」を製

責任や新たな可能性を感じていただくことをねらいとした。これは、単発で終わらせないために必ず必要になる要素である。事業所（支援員）として、障害のある方の「またつくりたい」という気持ちを育てていきたいと考えている。

造した。販売方法においては、いちばん取り入れやすく、リスクの少ない「ガチャ」を選択した。また、製品完成後にイベントを開催し、缶バッジの販売と、缶バッジの原画（レプリカ）を展示した。

今年度の課題と目標

アフターコロナにむけて社会のマインドが変わりつつある中で、障害福祉業界の状況においても、徐々に変化があるように感じている。「コロナ前に戻りたい」「新しいことをしたい」など、前向きなニーズがありながらも、実際に踏み切ることには葛藤を抱える各事業所からの声があり、課題に感じている。

今年度は、事業所として文化芸術活動を継続的に取り組むために、「必要性と実行力」を獲得できるようサポートしていくことを目標とした。

今年度の成果と展望

以前より、商品開発に関する研修開催の要望があったため、今年度は座学だけではなく、実際に制作しながら過程を学ぶ勉強会を、計5回開催した。また、それぞれのテーマとして、①福祉事業所の特徴を踏まえアート活動を考える、②福祉事業所がつくる商品、③④⑤イラスト活用実践、とし、対面講義のほかオンラインも活用した。講義を聞くだけでなく、さまざまな実践を通し、満足感だけではない「実際に何が足りないのか」「どんな準備をすればよいのか」ということを実感できたのは、今後につながっていくと思われる。実際に、事業所内にあったさまざまな作品に対する認識が変化したことにより、生活介護事業所での工賃向上にもつながっている。今後は、「かける」として自主製品の開発サポートを継続していく。

上/金沢市社会福祉協議会と合同開催の展示会「福祉のつどい展」
下/実際に商品制作過程をワークショップにて体験

実施一覧

- 相談支援 [相談窓口、4/1～3/31]
- 人材育成 [自主製品開発支援プロジェクト、12/31～1/1(合計5回)]
- 関係者のネットワークづくり [障害者支援施設や芸術等の専門家、行政職員等との企画会議の開催(月1回)]
- 発表の機会の確保 [障害福祉事業所合同作品展「てまえみそ展」in福祉のつどい金沢、9/4]
- 情報収集・発信 [訪問調査]



支援センター運営団体

特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

障がいのある人とその家族に対して、相談、情報提供、具体的な支援に関する事業を行い、地域社会の福祉に寄与することを目的に活動している。センターの名称である「かける」は、ヒト・モノ・コトにおけるさまざまな価値観どうしに橋を「かける」ことで、互いに違う価値観にふれ、新たな価値観が創造されることへの願いから。特に福祉関係者に対するアプローチに力を入れている。

福井県障がい者芸術文化活動支援センター・ふくみなーと

〒910-4103 福井県あわら市二面87-26-2

TEL: 0776-78-6743 FAX: 0776-78-6744

E-mail: center-fukui@hyougen.org URL: https://hyougen.org/



Pick Up! and Artist Collaboration Performance



「and Artist Collaboration Performance」で「たけふプティト・アンサンブル」の演奏に乗ってそれぞれの音楽を創る

ねらい 当センター委託元の「ハスの実の家」と共催し、障害のある人たちや、自分らしく輝ける未来を願う人たちの「表現」の場所として、ライブパフォーマンスを開催する。毎月第2日曜日午後、「ハスの実の家」の野外ス

内容 レギュラーアーティストとして、吹奏楽団「たけふプティト・アンサンブル」と、「武生センター合唱団」をお招きし、障害のある人たちとともに音楽を楽しむステージづくりを行った。仮装をした少女やご近所、障害のある人の家族や事業所職員家族、子どもたち等、常時約

70名が集うと質の高い音楽を楽しめるということを周知し、地域に根差した活動を行っていくことで、アーティストたちも含む参加者皆が共に楽しめる、集える空間づくりをめざした。

70名が参加した。障害のある人たちの、生き生きとした表現をたくさん見ることができ、始めはみな遠慮がちだったが、回を重ねるごとにステージ上などで団員と交ざって音楽を創造するようになった。

今年度の課題と目標

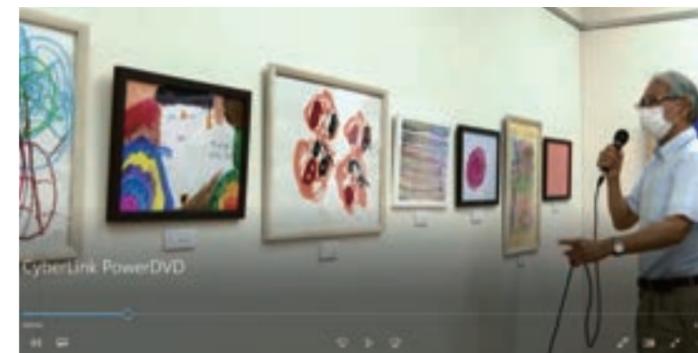
今年度の目標として、①県内における相談支援、②芸術文化活動を支援する人材の育成等、③関係者のネットワークづくり、④発表の機会の確保、⑤情報収集・発信の5点について、さらに充実できるよう取り組む。センター開設の周知と、ネットワーク会議を年3回位置づけ

今年度の成果と展望

計画に沿った各種の広範な取り組みがより充実し、障害者事業所や関係団体、県民の中に少しずつ周知されるようになってきた。HPやSNS等を通じたりリアルタイムな情報提供が新たなネットワークの構築につながった。これを既存の組織にとらわれないネットワークづくりの足がかりとし、今後、各種事業に関する実行委員会や専門者会議等を広く呼びかけ、協働の取り組みの輪を確立して

る。また、人材育成のための研修会3回開催と、「and Artist Collaboration Performance」を月1回実施し、発表の機会の創設をする。ホームページのリニューアル開設を行い、SNSと併用して情報発信していくほか、ウェブギャラリー「みんなの展覧会」の運用準備を行う。

いきたい。
また、それらの方々のニーズに合わせた事業の展開と、一方で全国的な動向や新たな取り組み等も適時発信を行い、障害のある人たちの「表現活動の可能性」について、協働の事業展開を、さらに広く県民の中に呼びかけ実現していきたい。



「表現ということ Vol.2」オンライン研修会「展示してみよう! 魅(み)せ方・観(み)せ方・社会へのつなぎ方」の様子

ホームページリニューアル開設。
情報発信とともにウェブギャラリーの展開も準備中



実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計23回)] ●人材育成 [表現ということ Vol.2 オンライン研修会『展示してみよう! 魅(み)せ方・観(み)せ方・社会へのつなぎ方』、9/1] [表現ということ Vol.3『すべては幸せを感じるために～やまなみ物語～』、1/14(合計2回)] ●関係者のネットワークづくり [第1回福井県障がい者芸術に関する関係者会議(オンライン)、6/1] ●発表の機会の確保 [and Artist Collaboration Performance、4/10～3/12(合計7回)] ●情報収集・発信 [Facebook、4/1～3/31(合計96回)] [情報メール、5/6～3/22(合計23回)] [ニュースレターの発行、7/1～1/14(合計3回)] [ホームページ

リニューアル開設、7/15～3/31(合計72回)] ●その他 [①東海北陸ブロック会議への参加 ②全国会議への参加(オンライン)、5/26～3/22(合計13回)]

支援センター運営団体
社会福祉法人ハスの実の家

本年度創立57周年を迎えた。24年間の無認可時代を含め、障害の重い人たちの日中活動の場として、また生活の場として、その人たち、家族、地域の皆様の願いを実現してきた。障害のある人たちのコンサート、文化・芸術活動をいつも真ん中に置いて活動し続けている。

岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASCぎふ〕

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F

TEL: 058-233-5377 FAX: 058-233-5811

E-mail: tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp URL: https://www.tascgifu.com/



Pick Up! バリアフリー演劇「Touch ～孤独から愛へ」



物語の進行に合わせて舞台上を駆け回り、手話でストーリーを表現する舞台手話通訳

ねらい 2024（令和6）年に岐阜県で開催予定の「全国障害者芸術・文化祭」を見据え、より多くの障害者の鑑賞機会を創出するため、当事者が必要とされるであろうアクセシビリティの視点を持った取り組みを、昨年度も主な目標として各種事業を展開してきた。しかし、舞台鑑賞に必要とされる情報アクセシビリティの取り組みについては、十分であったとは言い難い上、障害特性に応じた対応方法の座学にとどまっておらず、体験的にアプロー

内容 障害の有無や種別を問わず、誰もが芸術文化活動に参加できる機会が増えるよう、音声ガイドおよび日本語字幕、舞台手話通訳等の舞台上の情報アクセシビリティを施したバリアフリー演劇「Touch ～孤独から愛へ」を開催した。視覚・聴覚障害者の情報保障の支援が施された舞台公演を行うことにより、その障害の有無にかかわらず、同じ舞台を鑑賞する機会を創出した。また、

ち方法を学ぶ機会の創出も課題の一つであった。また、これまでバリアフリー演劇の舞台鑑賞を希望する県内ろう劇団等からの声があったが、その機会を設けることができていなかった。そのため、既存の支援センターと連携し、劇場において、障害特性に応じてサポート対応できる人材育成の実践的な研修、および舞台上での情報アクセシビリティが施された舞台鑑賞の機会を設けることを目標とした。

県内の聴覚・視覚障害者情報センターに協力を依頼し、当事者に情報が行きわたるよう広報したり、舞台当日には、最寄りのバス停から会場までの同行支援ボランティアを派遣したりするなど、劇場までのアクセスにも配慮した。また同時に、ビッグ・アイ連携「鑑賞支援コーディネーター育成講座」を受けた「鑑賞支援コーディネーター」が、運営方法を実践体験する研修の場とした。

今年度の課題と目標

「全国障害者芸術・文化祭」に向け、事業体制の強化および機運醸成を図るため、事業目標を以下の通りとした。
①障害者本人や周りの方々等の主体的な動きをサポートする事業を展開する。
②アクセシビリティの視点をもった事業を展開する。
③「全国障害者芸術・文化祭」で活躍が見込まれる県内作家や事業所等の調査・発掘・育成事業を実施する。

今年度の成果と展望

今年度は、ギャラリースペースを活用した企画を公募し、福祉事業所が展示や広報等を主体的に行う機会を設けた。また、バリアフリー演劇「Touch ～孤独から愛へ」の舞台公演を行った。アートサポーターに向けた研修では、障害の特性やサポート方法等の接遇を学ぶことで運営に活かすなど、支援スキル向上につながった。また、県内5圏域において主となる支援者と連携し、情



UDCast対応のバリアフリー焼き付け字幕付きの映画上映

実施一覧

●相談支援 [相談受付、4/1～3/31] ●人材育成 [基礎研修① “しあわせ”って、なんだろう～他者の表現から問い直す～、5/29] [造形活動へのアドバイス、7/19～8/9] [表現研修①ワークショップの設計図、7/31] [鑑賞コーディネーター育成講座(基礎研修)、8/10] [鑑賞コーディネーター育成講座(実践研修)、9/10] [バリアフリー演劇「Touch～孤独から愛へ」、9/10] [TASCぎふサポータープレゼンツ企画展 もぐもぐキッチン～大好きな食べ物～、9/10～11/7] [権利研修「表現をまもってひろめる著作権について」、1/14] [舞台手話通訳者養成講座、1/28～2/5(合計4回)] [基礎研修②施設を見学しよう、2/17] [サポーター制度] ●関係者のネットワークづくり [バリアフリー映画上映、7/2] [なんでもなんでもセミナー(オンライン)、10/13、11/21(合計2回)] [渾沌の中の調和Ⅱ、2/10～2/23] [HIDAまちなかアート2023、1/21～

これらの目標達成に向け、あらゆる人々が文化芸術を享受するための情報アクセシビリティの提供とともに、来場者に対する支援を担うことができる人材を育成し、それらが施された展覧会および舞台公演を実施することに注力した。さらに、各圏域での事業においても、既存の支援者と障害者を主体とした文化芸術活動の拡充へとつなげることを目的とした。

報アクセシビリティを施した作品や映画の鑑賞会等を行った。これらの取り組みにより、地域で主体的な活動を始めるきっかけとなったり、そのような活動を支援する人材を育成することができた。今後は、アクセシビリティが施された展示や舞台の鑑賞の継続可能な仕組みづくりとともに、障害者が参加可能な事業展開を模索していく必要がある。



県内で活躍する手話通訳者(士)を対象に、舞台手話通訳を学ぶ様子

2/19] [黙々広場 in ひだっ子カフェ、7/23] ●情報収集・発信 [TASCぎふPR動画作成(動画配信)、1/4～3/31] [調査] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [協力委員会設置] [令和4年度報告書作成] ●その他 [画材バンク、4/1～3/31(合計23回)] [オープンアトリエ、4/17～3/4(合計14回)]

支援センター運営団体

公益財団法人岐阜県教育文化財団

県民文化および地域文化の振興と発展並びに健康づくりおよび生きがいの推進を図ることにより、心身の健康と豊かさを実感できる「誇りあるふるさと」岐阜づくりに寄与することを目的としている。若者や障害者、地域の芸術文化活動の拠点として、ぎふ清流文化プラザの管理・運営を行っている。

静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-5 風来館4階

TEL: 054-251-3520 FAX: 054-251-3516

E-mail: mirart@findart.jp URL: https://findart.jp/



Pick Up! パフォーミングアーツ Look@me!2022



「Look@me!2022」の出演者

ねらい 障害のこと、障害のある人のことを知っていただき、相互理解の促進につなげることを目的とする。幅広く障害のある人の文化芸術活動を支援していく上で、絵画等の美術分野と比較して取扱件数が少ない舞台芸術

内容 パフォーマンスイベントの出演者は、ピアノ即興演奏、チンドンバンド、ダンス（3組）の計5組がパフォーマンスを披露した。昨年、一昨年は、コロナ禍のため無観客開催や動画撮影のみだったが、今年度は一般の方にも会場で観覧してもらうことができ、出演者や関係者に

分野にスポットを当て、事業を計画した。本事業では出演者を募集し、発表の機会を創出する。運営は多方面の専門家の協力を得て協働関係を築くことで、障害のある人の文化芸術活動の支援の輪を広げることに寄与する。

とって充実したイベントを提供することができた。また、事前練習の際には出演者のみならず保護者同士の交流も生まれ、お互いのサポートや情報交換等、よいコミュニケーションも生まれた。

今年度の課題と目標

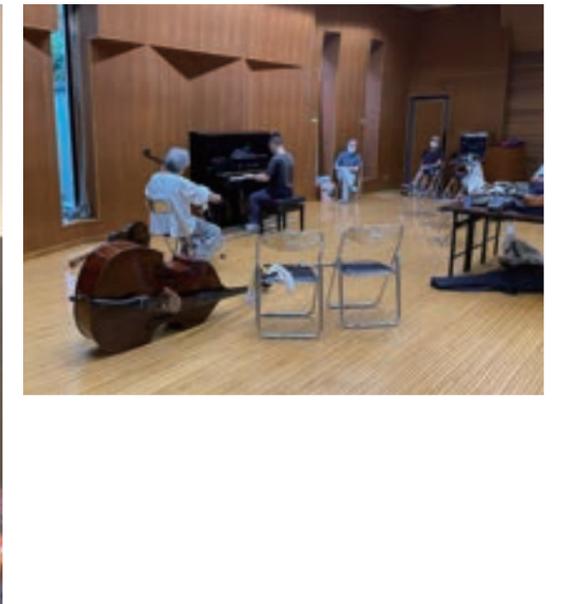
文化芸術活動を通じて障害のある人の社会参加と、障害のある人に対する県民の理解促進を図るため、以下の3つの活動指標を掲げた。①文化芸術活動を支援する人材の育成に努める（指標：研修会等を3回以上開催する）。②地域の障害のある人による表現活動の発表の機会を

確保する（指標：県内東部・中部・西部地区で展示会を各1回以上開催、舞台発表を県内で1回以上開催する）。③障害のある人が文化芸術活動に参加できる機会を増やし、支援人材の育成にもつながるアウトリーチ事業を開催する（指標：オープンアトリエ等を県下8圏域で各1回以上開催）。

今年度の成果と展望

①研修会は会場参加+リモートで計3回開催し、参加者は48人だった。また、障害のある人を取り巻く環境や支援状況等をテーマに、学校機関にて講義を行った（参加者：デザイン専門学校23人、大学20人）。②展示会は東部地区4回、中部地区4回、西部地区8回の計16回開催。舞台発表は1回開催。舞台発表は映像制作を行い、

SNSや障害者芸術祭等で映像展示した。③アウトリーチ型のオープンアトリエ等を8圏域で合計46回開催し、参加者は延べ423人となり、アート活動の裾野を広げる取り組みとなった。このような取り組みを継続することで、障害のある人の文化芸術活動を支援していきたいと考えている。

左／GALLERY MIHAMAYAでの展示会の様子
右／ワークショップ「楽器と遊ぶ音楽会」風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計114回)] ●人材育成 [支援人材の育成、4/1～3/31(合計5回)] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会の設置(オンライン)、4/1～3/31(合計4回)] ●発表の機会の確保 [みらーと 風を創るひとたち展等、4/1～3/31(合計16回)] [パフォーミングアーツ Look@me!2022、11/23] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和4年度運営事業成果報告書、2/1～3/31] ●その他 [オープンアトリエ・ワークショップ等、4/1～3/31(合計61回)]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人オールしずおかベストコミュニティ
2010(平成22)年、「障害のある人の働く笑顔で、福祉と企業、地域の心をつなぎます」を理念に、障害のある人の働くことの支援を目的に誕生した。当法人では、障害のある人がその能力と適性に応じた働く場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような共生社会の実現をめざすように支援している。

愛知県障害者芸術文化活動支援センター

〒462-0841 愛知県名古屋市北区黒川本通2-40 一久ビル2F (あいち芸術福祉株式会社)
 TEL: 052-912-3676 FAX: 052-912-3653
 E-mail: art_collective8@yahoo.co.jp URL: https://ac-aichi.jp/



Pick Up! シンポジウム「アール・ブリュットの時代～The age of art brut～」



「アール・ブリュットの時代」チラシ

ねらい 教育・芸術・福祉の分野で活動する方々を講師に招き、多様な視点から「アール・ブリュット」を紐解くシンポジウムを開催する。日本では「アール・ブリュット＝障害者アート」と捉えられることも多いが、現場に携わる

方々からこれまでの経験や取り組み等を伺い、意見交換を交えて理解を深める。また、愛知県立芸術大学と連携し、本事業を開催することで、今後の芸術文化活動の支援を担う人材の育成をねらいとする。

内容 第1部では、中村史子氏（愛知県美術館主任学芸員）から、近年のアール・ブリュットの流れをお話いただいた。中村氏は国際芸術祭「あいち2022」でキュレーターを務めていたことから、障害のある作家である升山和明氏、小寺良氏が選出された経緯等も伺った。また、真田岳彦氏（女子美術大学教授）からは、自身がディレクターを務

めている大地の芸術祭「大地を包む」プロジェクトなど、社会問題や震災後の心の傷緩和をめざす衣服「プレファブコート」「視覚障害者との触覚を通じた学習会」についてお話いただいた。第2部では、愛知県立芸術大学を卒業した後、福祉の現場においてアートに携わっている方々から、その活動内容や思いを伺った。

今年度の課題と目標

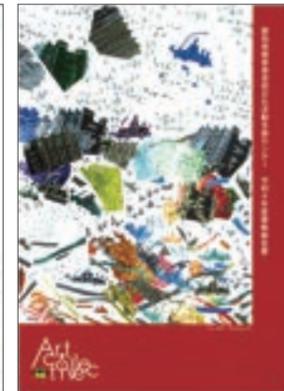
将来を担う人材の育成のため、芸術大学との連携事業のさらなる推進をめざし、「アール・ブリュット」に関するゼミやカフェ、大学内での展覧会等を開催する。開催に向けて、教育機関や行政とのきめ細かな対応が重要になってくることから、意識して取り組んだ。また、愛知県

が主催している「障害者芸術活動支援事業（出前講座）」業務について、例年は県内精神科病院および社会福祉法人施設でのみ講座の募集を行っていたが、今年度は実施施設を当センターのホームページ上で募集する。これにより、地域への広がりにつなげていく。

今年度の成果と展望

県内の美術大学との連携事業として、講演会や展覧会を実施することができた。名古屋造形大学ギャラリーで開催した企画展「アール・ブリュットの系譜展」では来場者66名となり、愛知県立芸術大学と共同開催したシンポジウム「アール・ブリュットの時代～The age of art brut～」では85名が参加したほか、福祉とアートに関する仕事をしている卒業生とのネットワークが生まれた。「障害

者芸術活動支援事業（出前講座）」においては、NPO法人が運営する障害者支援施設等幅広い地域と団体から応募があった。また、講座にて作成した作品を「あいちアール・ブリュット サテライト展」、「あいちアール・ブリュット優秀作品特別展」に展示し、広く活動を紹介した。今年度得ることのできた各所とのつながりを活かし、今後も飛躍していきたい。

左/「アール・ブリュットの系譜」チラシ
右/愛知県障害者芸術文化活動支援センター 令和4年度事業報告書

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [「あいちアール・ブリュットサテライト展～国際芸術祭連携企画展～」出張相談所、7/26～8/5] ●人材育成 [名古屋芸術大学「アール・ブリュットの時代」、12/20] [愛知県立芸術大学シンポジウム「アール・ブリュットの時代～The age of art brut～」、2/26] [名古屋造形大学ギャラリー「アール・ブリュットの系譜展」、3/14～3/21] [あいちアール・ブリュット障害者アーツ展舞台発表内トークイベント「障がいのある人から生まれるアート、生まれるつながり」、9/16] ●関係者のネットワークづくり [滋賀県アートツアー研修、4/24] [「tomoniアートのフェスティバル2022」あいちアール・ブリュット作家作品連携展示、11/3～11/7] [亀山トリエンナーレ視察、三重県「希望の園」出品、11/19] [「あいちアール・ブリュット・サテライト展」作品連携展示、1/31～2/5] [県内福祉団体等主催の作品展審査展示参加] ●発表の機会の確保 [「子どもたちのアール・ブリュット2022展示運営」協力、4/9～3/26] [「国際芸術祭あいち2022」、7/26～8/5] [「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」運営協力、9/16] [「最も自由な人たちミュージックブリュッ

ト09」協力、9/11] [「アール・ブリュット作品展」、12/11～1/11] [「ジャパン・ミュージックブリット・フェスVOL03」、12/3～12/4] [「New Doors」、3/20～3/26] [「アトリエ・ブルート美術作品展」パフォーマンスイベント、3/25] [「あいちアール・ブリュット・サテライト展～国際芸術祭連携企画展～」共催] [「あいちアール・ブリュットサテライト展」運営協力] [「あいちアール・ブリュット優秀作品特別展」運営協力] ●情報収集・発信 [Webサイト、4/1～3/31(61回)、Twitter、4/1～3/31(合計33回)、Facebook] [tomoniアートのフェスティバル2022公開ラジオ収録参加、11/3] [あいちアール・ブリュット作者映像作品制作] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [実績報告・記録集作成]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人愛知アート・コレクティブ

愛知県を中心に、相談支援、芸術と社会を結ぶ活動を行っており、「展覧会・回想法アートの推進」「作家紹介」「アートツアー」を活動の柱としている。2022(令和4)年度より愛知県障害者芸術文化活動支援センターの運営を担う。

三重県障がい者芸術文化活動支援センター

〒514-0113 三重県津市一身田大古曾 670-2 三重県身体障害者総合福祉センター内
TEL: 059-232-6803 FAX: 059-231-7182
E-mail: info@mie-asc.jp URL: https://mie-asc.jp



Pick Up! アートはみんなのために ～楽しさ追求の果てを夢見て～



「アートはみんなのために」会場のアーティスト作品

ねらい 県内の福祉サービス事業所の発展的な芸術文化活動の普及・活性化に向け、芸術文化分野において、国内外で活躍されている県内福祉事業所の創作活動事例等の紹介、施設のアーティストたちの作品紹介・対談を開催した。施設職員から日常の創作活動の話もあり、施

内容 芸術文化分野において、国内外で活躍されている県内の福祉事業所「希望の園」を招き、講演会を開催した。施設でのアート活動、創作活動事例報告（作品制作、展覧会、作品の商品化、アーティストへの過程等）、施設のアーティストを交えた対談、それぞれの作品の紹介を行った。また、相談・質疑応答の場を設け、参加者との一体感を

設での芸術文化活動を身近に感じてもらう機会をめぐした。また、国内外で活躍されている施設のアーティストの作品、昨年度開催された「三重県障がい者芸術文化祭」受賞作品の展示も行い、障害者の芸術文化の魅力を発信し、活性化を図ることをねらいとした。

高めた。同日に会場ロビーで2020(令和2)年、2021(令和3)年度「三重県障がい者芸術文化祭」の受賞作品展を行った。参加者からは「施設職員、施設のアーティストの生の声が聞けて、参考になった」「身近に感じた」といった感想が聞かれた。

今年度の課題と目標

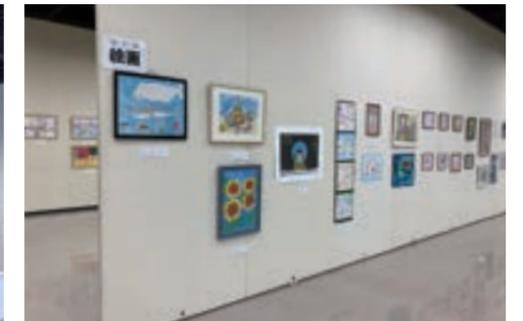
センター開設から2年が経過するが、相談件数も少なく、支援センター（昨年度未開設ホームページを含む）の認知度が低い。また、県内の福祉サービス事業所等に向けたアンケートから、芸術文化に関心はあるが、発展的な活動を望む事業所等が少ないことが分かった。今年度は、

支援センターの周知と障害のある人の芸術文化活動への理解・事業所活動の発展を目標とし、県内各所で事業所と協同し障害者の芸術文化の魅力の発信（作品展・ライブ）、障害者芸術文化活動のノウハウ等の情報を提供する事業を企画した。

今年度の成果と展望

11年目の開催となる芸術文化祭は、作品・発表の応募数が過去最高の614点と、芸術文化活動の裾野は広がってきている。年1回2日間の開催と期間も短いことから、今年度はより広く発信するため、芸術文化祭受賞作品や三重のアーティストたちの作品を北勢・中勢・南勢・紀州地区等、県内各所で開催し、多くの方に作品を

見る機会を提供することができた。また、国内外で活躍する作家が在籍する福祉事業所の活動の紹介、障害者アーティストたちのライブ等、障害者の芸術にふれる機会を設けた。事業開催中にはアートサポーターや相談支援の相談等の問合せもあり、引き続き事業を通じて、芸術文化の理解・発展に努めていきたい。



左/「みえアールブリュット2023」津会場

右/「令和4年度 三重県障がい者芸術文化祭」展示風景

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [アートはみんなのために～楽しさ追求の果てを夢見て～、10/16] [「スペシャルズGO! GO!!」～みんな主役でShow、楽しんだもの勝ち～、11/20] ●発表の機会の確保 [三重県障がい者芸術文化祭受賞作品展、4/1～3/31] [ART BRUT CAFÉ 2022、8/2～8/14] [今を生きる展、8/13～8/14] [アートフェスタ葉2022、8/20～9/17] [地域巡回展と地域施設等合同作品展(紀州)、10/6～10/9] [地域巡回展(津)、10/12～10/18] [tomoniアートフェスティバル2022「いろいろなみんなの展覧会 根を、おろす」、11/3～11/6] [地域巡回展と地域施設等合同作品展(北勢)、12/17～12/19] [令和4年度 三重県障がい者芸術文化祭、12/23～12/24] [みえアールブリュット(津会場)、1/29～2/4] [みえアールブリュット(伊勢会場)、2/9～2/12] ●その他 [障害

者雇用支援月間(県立図書館ロビー)、9/1～9/30] [障害者雇用支援月間(県民交流センター)、9/16～9/30] [みえ福祉・介護フェア2022、11/13] [働く障がい者応援フェア ランチョンマット配布、4/9～4/22・9/1～9/30(合計2回)]

支援センター運営団体 公益社団法人三重県障害者団体連合会

県内の市町障がい者団体で構成しており、「ノーマライゼーション」の理念のもと、障がい者の自立と地域社会への参画を推進する事業を展開している。2012(平成24)年度から「三重県障がい者芸術文化祭」を開催し、障がい者の芸術・文化活動の活性化を図り、2020(令和2)年から三重県障がい者芸術文化活動支援センターを運営している。

近畿ブロック

E 障害とアートの相談室

広域センター運営団体：一般財団法人たんぽぽの家



滋賀県

担当課：健康医療福祉部障害福祉課

22 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人グロー

京都府

担当課：健康福祉部障害者支援課

23 art space co-jin

支援センター運営団体：きょうと障害者文化芸術推進機構

大阪府

担当課：福祉部障がい福祉室自立支援課

24 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

支援センター運営団体：ビッグ・アイ共働機構

兵庫県

担当課：福祉部ユニバーサル推進課

25 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：兵庫県 福祉部 ユニバーサル推進課

奈良県

担当課：障害福祉課社会参加促進係

和歌山県

担当課：福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

26 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

支援センター運営団体：和歌山県 福祉保健部 福祉保健政策局 障害福祉課

ブロック内の状況

兵庫県は、発表の機会の確保、鑑賞の機会の拡大、人材育成、相談支援を中心に活動、「する・みる・ささえる」プロジェクトとして展開。令和3年度より実務担当の職員が増えたことにより県内の支援の充実につながり、人材育成事業や公募展も盛況である。和歌山県は、2018（平成30）年から特に注力をする「新政策」として取り組んでいたが、2022（令和4）年度から障害福祉課の通常業務として取り組んだ。国民文化祭・障害者芸術文化祭後に実施体制を見直した。結果的に、外部委託をしていた団体は、独自に障害者芸術文化活動の支援に取り組めるようになった。本事業だけでなく、民間、行政含めての活動の推移を見ていくよいモデル県になるだろう。京都府は、8名のス

近畿ブロック広域センター：障害とアートの相談室

タッフと拠点のギャラリー運営が充実しており、地域での認知度が上がっている。さらなる活動の広がりやネットワークの拡大が期待される。滋賀県は、全国連携から支援センターへと役割が変わったが、かねてより滋賀県内の障害者芸術文化活動支援に日常的に取り組んでいるため、足元にフォーカスをした取り組みができています。母体の美術館での展示も、内容はもとよりアクセシビリティへの配慮など、ほかの活動のモデルとなるような取り組みを常時からしている。大阪府は、舞台芸術支援を中心に、参加型の舞台制作の充実やアクセシビリティに関する事業を継続する一方、シリーズ化している丁寧な調査と展覧会等、関西をリードする取り組みを維持している。

障害とアートの相談室

〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4

TEL : 0742-43-7055 FAX : 0742-49-5501

E-mail : artsoudan@popo.or.jp URL : https://artsoudan.tanpoponoye.org/



Pick Up! 障害とアートの研究室



「障害とアートの研究室」の様子

ねらい 今年度の新規事業として、障害のある人たちの芸術文化活動支援において見えてくる課題を共有し、研究者や現場で活動する人たちが共に議論し合う場をつくった。学術的な研究だけではなく、実践する中で見えること、障害福祉や芸術文化だけではなくジャンルや専門性から学ぶことで、課題解決の糸口を見つけようと

内容 研究会では、オンラインでの開催が中心だったため、近畿に限らず、全国から関心の高い人たちが参加した。障害のある人とアートをつなぐ中間支援組織のスタッフや障害者支援施設の職員、アート活動に関わるアーティスト等が感じている課題等を話し合った。具体的なノウハウの共有のほか、日頃の疑問等を交換できる

いう試みである。今年度は岡山大学でESD（持続可能な開発のための教育）研究を行う柴川弘子氏を協働のリサーチャーに招き、「重度の障害のある人とアート」をテーマに研究会を実施した。近畿ブロック内、兵庫、大阪の福祉施設への訪問調査をもとに、研究会参加者と議論を重ねた。

場の重要性も確認でき、研究会が継続されていくことを望む声も多かった。柴川氏からは、こうしたつながりを通し、実践共同体として広がっていくことがいろいろな見方を変えていくという提案もなされた。本事業は今後も継続実施する予定である。

今年度の課題と目標

今年度の大きな課題は、障害者芸術文化活動が充実しているブロック内で、各支援センターの連携を図り、ノウハウがあるセンターと活動を始めたばかりのセンター間のギャップを埋めることである。その課題にもとづき、下記5点の目標を設定した。①ブロック内の連携や発信

力を強化する。②現状の課題に取り組み、議論しながら価値提案をしていく。③活動が活発なエリアではあるが、まだ積極的に取り組めていない団体や個人をサポートする。④コロナ禍でも文化活動を止めず、広めていくための方法を追求する。

今年度の成果と展望

初めて各ブロックを訪問し、活動意義や担当者の悩み、各地域での魅力的な活動を体験することができた。継続実施するセンターは、それぞれの特色が見えてきており、今後それらのノウハウを共有していくことも、ブロック内の事業発展につながると思われる。また、当センターもブロック内外から知財学習の依頼を受けた。「障害とアートの研究会」では、障害のある人の高齢化や重度化をテーマに、実践団体の訪問や公開議論の場をつくった。今後この課題に関心を持つ人たちと取り組

むことで、各地の個人や団体が、その人がどのような状況になっても、芸術文化を通して豊かな人生を送れる環境整備や支援が可能になる。障害の有無にかかわらず参加できる「オープンアトリエ」を奈良県で実施し、アート活動へのアクセスの機会増加、参加者同士のコミュニケーション向上、サポーター希望者の実践機会にもなった。県内企業が社会貢献としてアートサポートに取り組む事例もできたため、今後もこのような機会をつくっていききたい。



左/オープンアトリエの実施風景。公募で参加したアートサポーターも多く参加した
右/「鹿の劇場2022 出会いの一步」舞台風景
撮影：les contes

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [近畿ブロック連絡会議の実施(オンライン)、7/11] [ブロック内支援センターへの訪問調査、8/6～12/6(合計6回)] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [奈良県でのレクチャーの実施、12/6～12/7(合計2回)] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [知財レクチャーの実施、12/7～2/15(合計3回)] ●ブロック内の連携の推進 [web、SNSによる発信、4/1～3/31(合計12回)] [「障害とアートの研究会」の開催、11/16～3/30(合計4回)] [「オープンアトリエ」の実施、1/7～3/21(合計4回)] ●発表の機会の確保 [「鹿の劇場2022 出会いの一步」の実施、11/23] ●自治体にお

ける基本計画策定の推進 [各支援センターへの聞きとり、8/6～12/6(合計6回)] ●その他 [協力委員会の開催(オンライン)、8/3～3/9]

支援センター運営団体 一般財団法人たんぼの家

ソーシャル・インクルージョンをテーマに、アートの社会的意義や市民文化について問いかける事業を実施している市民団体。1973(昭和48)年より活動を開始。奈良を拠点に国内外のネットワークを通じ、障害のある人のアート活動支援事業や新しい仕事づくり、ケアの文化づくりに関するさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。

アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL: 0748-46-8118 FAX: 0748-46-8228

E-mail: artbrut_info@glow.or.jp URL: http://info.art-brut.jp/



Pick Up! 芸術文化活動支援のためのプログラム 「作品の魅力を生かす展示とは」



「作品の魅力を生かす展示とは」第3回実施風景

ねらい 障害のある人の芸術活動を支援する方や関心のある方が本研修での学びを活かし、それぞれの事業所等での取り組みが充実することをめざして、作品展示研

内容 全4回の研修と研修成果としての作品展示を実施した。展示会を開催するプロセスや広報について学び、作品の展示方法を参加者で検討し、成果展示を行った。最終回では研修の振り返りと、作品の撤収や原状復帰までの過程も学んだ。研修全体を通して、グループワーク

修を実施した。また、研修内でのグループワークを通して、参加者同士のコミュニケーションの機会を創出することをねらいとした。

の時間を多く取り入れ、コミュニケーションを密に取ることができ、学びを深め参加者同士のつながりも深めることができたように思う。また、成果展示では、これまで本センターと関わりのあった作者等の作品をお借りして行い、新たな発表の機会の創出につなげることができた。

今年度の課題と目標

芸術文化にふれる機会が多い都市部と異なり、地方においては、芸術文化を日常的に体験しながら感性や美的感覚を磨き、芸術文化活動を通じて人と人とつながる機会を積極的につくる必要がある。障害の有無にかかわらず、芸術文化のよさを感じ、芸術文化を通じてつながり合う実感が持てるよう、取り組みの目的や成果を効果的に発信し、共感の輪を広げながら事業展開してい

今年度の成果と展望

研修や展示会実行委員会では意見交換やグループワークを通じて、また発表機会やワークショップにおいては、取り組みを通じて発表者と参観者、参加者同士が交流を持てるように実施した。「出演団体同士の交流ができてよかった」という声が聞かれたり、終了後も参加者同士で情報交換する様子が見られたりと、芸術文化活動を通じて人と人とつながる機会をつくることができた。



創作ワークショップ「信楽の音を見つけよう」実施風景

くことが求められている。

今年度実施する事業においては、研修や発表機会等への参加者・参観者・関係者等の交流が生まれることを重視し、意見交換や学びの共有を取り入れながら展開していくこととした。このことにより人と人がつながり、新たなネットワークが生まれ、次の活動や展開に発展していくことをめざした。

このような取り組みを続けることで、新たなネットワークが形成され、次の取り組みへとつながっていく。県内に取り組みが根つき、広がるためには、障害者の文化芸術活動を実施する団体、関係者との交流の輪を広げながら、今後は、文化施設や企業等、まだ十分つながりを持っていない業界とも連携を図ることが必要である。



「第19回滋賀県施設・学校合同企画展 後期」ギャラリートークの様子

実施一覧

●相談支援、関係者のネットワークづくり [芸術活動に関する訪問調査、5/31～10/14(合計9回)] ●人材育成、関係者のネットワークづくり [第19回滋賀県施設・学校合同企画展 実行委員会、6/22～3/7(合計7回)] [芸術文化活動支援のためのプログラム「作品の魅力を生かす展示とは」、10/3～11/21(合計4回)] [出会いと学びのプログラム オンライン版、1/26～2/15(合計3回)] ●人材育成、関係者のネットワークづくり、発表の機会の確保 [あなたもわたしもどんどん 和太鼓ワークショップ in 信楽、3/21] ●関係者のネットワークづくり [パフォーマンス・ネットワークミーティング、6/27] ●関係者のネットワークづくり、発表の機会の確保 [オンライン発表会「あ～!いいっさ!!」(オンライン)、8/20～2/19(合計4回)] [発表と交流の場「Super Super」、10/10] [創作ワークショップ「信楽の音を見つけよう」、2/23] [踊りたい人集まれ!ダンスワークショップ、3/5] ●関係者のネッ

トワークづくり、事業評価および成果報告のとりまとめ [協力委員会、6/21～2/28(合計2回のうち1回はオンライン)] ●発表の機会の確保 [展示研修成果展示、11/12～11/20] [第19回滋賀県施設・学校合同企画展 ing...～障害のある人の進行形～、11/26～2/5] [糸賀一雄記念賞音楽祭での鑑賞支援、12/4]

支援センター運営団体 社会福祉法人グロー

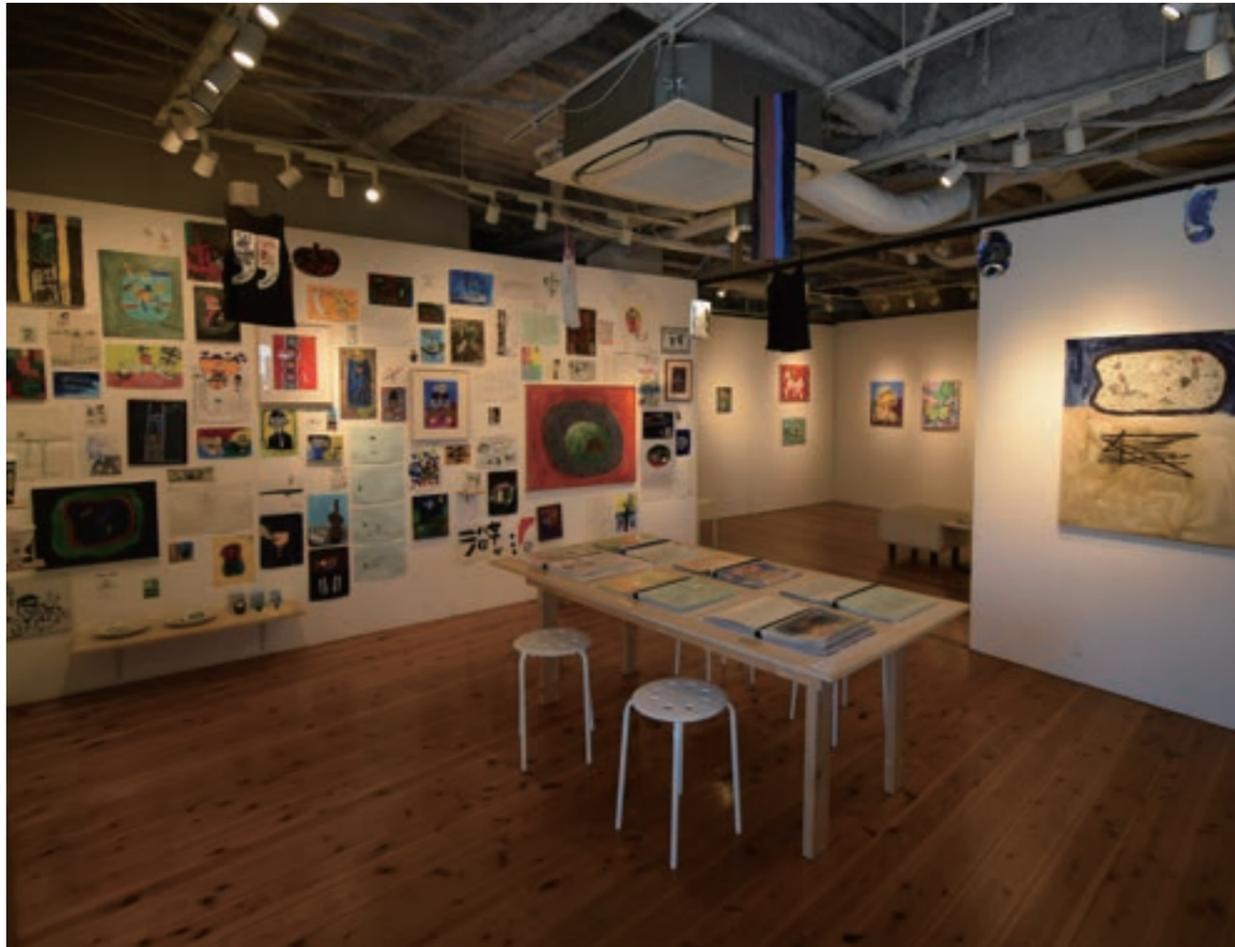
「糸賀一雄記念賞音楽祭」の事務局として、県内で表現活動ワークショップの立ち上げや運営をサポートしてきた。また「ボーダレス・アートミュージアム NO-MA」では、数多くの企画展を開催している。2012(平成24)年「アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター」を開設、障害のある人が安心して芸術文化活動ができる環境づくりや人材育成事業等を行っている。

art space co-jin

〒602-0853 京都府京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83レ・フレール1階
TEL: 050-1110-7655 FAX: 050-1110-7655
E-mail: info2015cojin@gmail.com URL: https://co-jin.jp



Pick Up! 企画展覧会の開催



描く | 岩間一真、岡安聖美

ねらい 企画展を定期的で開催することで、障害のある人の作品や表現を発表する機会を創出し、展覧会を通じて、障害のある人が社会と新たなつながりを持ち、社会参加を推進することをねらいとした。また、作家や作品

内容 年間を通して4回の企画展「OVERALL かめおか作業所の作品」「HUMANiMAL-北村こう個展」「チカとチエコとセイコのアパッショナート」「描く|岩間一真、岡安聖美」を開催した。新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮しながらではあるが、徐々に対面でのイベントを再開することができた。出展作家によるアーティスト-

の魅力発信し、作品を通じて障害があることを個性として一人ひとりに接してもらうことで、府民の障害への偏見をなくし、理解を深めていくことをめざした。

ク、オリジナルの衣装に身を包んだ作家との写真撮影会やファッションショー、ギャラリー外観へのドローイングイベント等、各作家・作品の魅力を最大限伝えられるようさまざまなイベントを企画した。参加者と作家が直接交流することができ、作家の人柄、作品制作の背景等、より深く知っていただく機会となった。

| 今年度の課題と目標

活動開始から6年以上が経過し、少しずつ活動を認知いただけるようになったものの、未だ障害のある人の作品を見たことがない人、取り組みを知らない人が多くいるため、これまで関心がなかった方にも作品の魅力や情報を伝える必要があると考えた。いつでも障害のある人の作品が見られる場所として、

ギャラリー内で定期的に展覧会を開催し、障害のある人の作品や表現の発表機会を確保すること、多くの府民が作品に親しめる機会を増やすため、アーカイブ作品の充実や作品発表の場をさまざまな場所に広げていくこと、さらにこれらの活動を広く周知し、多くの人に知っていただくことを目標とした。

| 今年度の成果と展望

ギャラリー「art space co-jin」で企画展を4回開催し、合計2,451名に会場いただいた。緊急事態宣言の発令に伴う休廊期間があった昨年度と比較すると、年間の来場者数は約500名増加した。展覧会記録映像の公開等、オンラインでの取り組みも継続したほか、SNSでの広報にも力を入れ、展覧会の様子や講座情報等を細かく情報を発信するよう努めた。また、企業と連携したバナー

(障害のある人の芸術作品を印刷した織布)展示を複数回開催し、これまで障害のある人の作品を見る機会がなかった人にも、作品にふれていただく機会を創出することができた。今後も、ギャラリーでの定期的な展覧会の開催、企業等との連携強化に取り組むほか、文化庁移転を契機にさらなる展示機会の拡大に務めていく。



左/「チカとチエコとセイコのアパッショナート」展示風景
右/「HUMANiMAL-北村こう個展」展示風景

実施一覧

●相談支援 [相談事業、4/1～3/31] ●人材育成 [co-jin講座 vol.1「表現と福祉にまつわるトーク」、10/28] [co-jin講座 vol.2「はじめてのNFTとDAO～表現と活動の未来を考える～」(オンライン)、1/27] [co-jin講座 vol.3「よくわからないことの楽しみ方-『ぬかつくるとこ』の実践から-」(オンライン)、3/22] ●発表の機会の確保 [バナー展示事業、4/1～3/31] [OVERALL かめおか作業所の作品、4/12～6/26] [HUMANiMAL-北村こう個展、7/12～9/25] [チカとチエコとセイコのアパッショナート、10/11～12/25] [描く|岩間一真、岡安聖美、1/17～3/26] [バナー展示、4/1～3/31] ●情報収集・発信 [デジタルアーカイブ事業(オンライン)、4/1～3/31]

支援センター運営団体

きょうと障害者文化芸術推進機構

美術館や福祉団体、大学、企業、行政その他の関係機関で構成するオール京都体制の組織である。「art space co-jin」を活動拠点として、障害のあるアーティストの作品や活動の紹介等を行い、文化芸術活動を通じて障害者への理解と社会参加を推進するために活動している。

国際障害者交流センター ビッグ・アイ

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1

TEL: 072-290-0962 FAX: 072-290-0972

E-mail: arts@big-i.jp URL: https://big-i.jp/



Pick Up! about me 6 ～“わたし”を知って～ この町でいきる～



展覧会実行委員によるインタビュー実施風景より。周辺地域の地図を見ている様子

ねらい アート活動を通じて障害のある人自身「わたし(me)」の日常と、周縁にいる人々の思いを視覚化した展覧会を実施した。参加する事業所の支援員が、日々の支援活動など多面的に対話することで、事業所間におけるつながりの創出をめざす。また、「ノーマライゼーション」を掲げ、アート等の地域活動によって「町」と共に生きる

内容 展覧会の実行委員は、これまでの経験がありファシリテートできる前年度からの5名と新しく参加した4名によって進めた。「アトリエコーナス」は活動の歴史が長く、また、取り組みも多彩であることから、実行員会メンバーが長期間にわたリインタビューと対話を重ねた。対話から生まれた内容は、福祉、アート、地域における共生のあり方

「アトリエコーナス」を展覧会のメイン事業所とした。利用者、ご家族、支援員、事業所、さらに周縁の人々、「町」をフォーカスし、共に生きてきた時間、生まれた関係性を深く掘り下げていく。その継続性や日々の営みを町の多様な「人」「わたし(me)」で表現し、障害のある人と共にいきる「町」の豊かさを、広く発信することをねらいとした。

など大切なことばかりであることから、展示パネルやリーフレットとして会場で配布することとした。また、より日常がリアルに伝わるように、日々のアート活動、地域内での活動風景を映像化し、会場内で上映した。会場はJR大阪駅(梅田)と隣接する商業施設ということもあり、20～30代の若い世代を中心に1,229名と多くの方に来場いただいた。

今年度の課題と目標

舞台芸術分野の課題として、指導者の不足や、障害者の舞台芸術活動の普及推進の強化、多様な参加・鑑賞の推進が挙げられる。また、美術分野では、支援のスキルアップやノウハウの向上、支援者の達成感・モチベーションの向上、府内事業所間の連携等がある。この課題を意識し、以下を今年度の目標とした。

舞台芸術分野(演劇・ダンス):①指導者(各2名)アーティスト

今年度の成果と展望

舞台芸術分野の人材育成では、日々のワークショップ終了後にアドバイザーと振り返りを行い、課題や困りごとを解決して多くのスキルを吸収できた。発表機会の創出では、3年ぶりとなる対面形式での開催となり、出演者から「目の前にお客さまがいることで達成感を得ることができ、今後の活動の励みになった」との感想を多くいただいた。美術分野では、新たに1事業所が参加し、障

害のある人との関係性をさらに掘り下げた。また、これまでの参加事業所はオブザーバーとして、展覧会の企画制作、日常の創作活動について意見交換を行い、活動サポートやネットワークづくりを促進した。その結果、創作活動における指標を事業所で実践したり、他の福祉事業所の見学に参加するなど、アート表現活動の理解促進において活性化ができた。

害のある人との関係性をさらに掘り下げた。また、これまでの参加事業所はオブザーバーとして、展覧会の企画制作、日常の創作活動について意見交換を行い、活動サポートやネットワークづくりを促進した。その結果、創作活動における指標を事業所で実践したり、他の福祉事業所の見学に参加するなど、アート表現活動の理解促進において活性化ができた。



左/展覧会「about me 6～“わたし”を知って～ この町でいきる～」会場の様子

右/展覧会「about me 6～“わたし”を知って～ この町でいきる～」搬入設営作業の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2022(説明会)、10/15] [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ2022 表現のコース(指導者・アシスタント・アドバイザー・運営スタッフによるミーティング2回、演劇ワークショップ5回、ダンスワークショップ5回、振り返り1回)、12/8～3/9(合計13回)] [about me 6～“わたし”を知って～ この町でいきる～ トークセッション、12/16(3/27～動画配信)] ●関係者のネットワークづくり [about me 6～“わたし”を知って～ この町でいきる～(考察・ディスカッション)、8/29～3/27(合計6回)] ●発表の機会の確保 [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2021、4/1～1/31(動画配信)] [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ2021、4/1～1/31(動画配信)] [大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2022、11/20] [大阪府障がい者芸術・文

化コンテスト2022、2/14～2024/1/31(動画配信)] [about me 6～“わたし”を知って～ この町でいきる～、12/16～12/20] [大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ2022 表現のコース成果発表会、2/12]

支援センター運営団体
ビッグ・アイ共働機構

障がいのある人の芸術文化活動拠点として、福祉と芸術に関する知識と経験が豊かな専門スタッフが運営のもと、障がいのある人が芸術文化活動を通じて自己評価を高め、社会とつながる機会を創出する事業を展開している。また、障がいのある人の表現活動の支援や鑑賞支援、調査・研究事業、情報発信等を行っている。

ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL: 078-341-7711(内線2831) FAX: 078-362-9040

E-mail: universal@pref.hyogo.lg.jp URL: https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/hw20_00000009.html



Pick Up! 兵庫県障害者アートギャラリー 2ND ANNIVERSARY 特別展「大きな作品展」併設展「隅野由子作品展」



兵庫県障害者アートギャラリー 2ND ANNIVERSARY 特別展「大きな作品展」会場風景

ねらい 県内に在住する障害者から作品を募集し、展示することにより、障害者の自立更生および社会参加意欲を高めるとともに、今後、障害の有無にかかわらず同

じ展示会に作品を発表するなど、共に取り組むユニバーサル社会をめざし、大きく見応えのある作品による特別展を開催した。

内容 兵庫県障害者アートギャラリー開設2周年特別展として、「大きな作品展」を実施した。作品展には、絵画、書道、写真および工芸作品等「大きい作品」に限定し作品を募集した。また、併設展としてダウン症の書道家、隅野由子氏の作品展も開催した。2作品展において合

計124点の作品を展示し、期間中は多くの来場者が訪れた。隅野由子氏のファンの方にも、ほかの方の作品を見ていただく機会もでき、この募集をきっかけに大きい作品に挑戦したという方も多く、さまざまな広がりを見せた展示となった。

今年度の課題と目標

障害者の芸術作品等の発表機会の確保、鑑賞機会の拡大、活動を支える人材育成の3本柱を課題とした。芸術文化活動を行う障害者や事業所等への多面的な支援を体系的に実施することをめざすとともに、今後、障害の有無にかかわらず共に取り組むユニバーサル社会をめ

ざし、大きな作品を展示する特別展を開催したり、支援する側が日頃感じていることや疑問点等を講師に相談する出前講座の開催など、支援をさらに充実させることを目標とした。

今年度の成果と展望

兵庫県障害者アートギャラリーにおいて、年4回(計304日)常設展を開催するとともに、同アートギャラリー開設2周年を記念して、県立美術館王子分館原田の森ギャラリー大展示室において特別展「大きな作品展」と、併設展「隅野由子作品展」を開催し、あわせて6,000人を超える方々に来場いただいた。また、出前講座を開催するにあたり、支援する側が日頃から感じていることや疑問

を募集したところ、36件の応募があった。また、リクエストの多かった障害者アートを活用した商品企画や販売については、オンラインセミナーを開催し、122名の方に参加いただいた。来年度は、これらの成果を踏まえ、引き続きの支援と、関西万博に向けて障害や多様性の理解促進を図るためのシンポジウムを開催するなど、さらなる支援に努めていきたいと考えている。



左/40㎡の展示室に100点を超えるたくさんの作品が並んだ「障害者アートギャラリー常設展」
右/悩みを持つ事業所に講師が訪問し、より深い話を聞く「障害者アート出前講座」

実施一覧

●相談支援 [事業所等に対する相談支援] ●人材育成 [兵庫県障害者アート出前講座、10/12・11/15(合計2回)] [合理的配慮研修、2/3] [兵庫県障害者芸術オンラインセミナー、3/15] ●関係者のネットワークづくり [障害者芸術・文化祭実行委員会、6/10・2回目は3月に書面開催(年2回)] ●発表の機会の確保 [兵庫県障害者アートギャラリー常設展、4/1～3/21(合計4回)] [兵庫県障害者アートギャラリー 2ND ANNIVERSARY 特別展「大きな作品展」、8/3～8/7] [障害者芸術「する・みる・ささえる」応援プロジェクト作品展示・発表会開催支援事業、11/15～3/19

(合計4回)] ●情報収集・発信 [出前講座、オンラインセミナーでの事前・事後のアンケート調査] [Webサイト、SNSでの発信、4/1～3/31]

支援センター運営団体

兵庫県福祉部ユニバーサル推進課

兵庫県内における障害者の芸術文化活動のさらなる振興を図るため、兵庫県ユニバーサル推進課内に「ひょうご障害者芸術文化活動支援センター」を2019(平成31年)4月から設置・運営し、芸術文化活動を行う障害者や事業所等を総合的に支援している。

和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL: 073-441-2530 FAX: 073-432-5567

E-mail: e0404001@pref.wakayama.lg.jp

URL: https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/syogaigeijutu.html



Pick Up! 障害者芸術・文化活動に関する人材育成研修会



人材育成研修会にて「いけばな」の出前教室を開催

ねらい 各障害福祉サービス事業所や特別支援学校等において、芸術・文化活動のバリエーションを増やすとともに、作品創作や文化活動に関する考え方を学び、新

たな手法等を身に付けてもらうことにより、活動を活性化することをねらいとして実施した。

内容 研修会では、障害者が音楽活動に取り組む意義や方法を学ぶ音楽ワークショップや、「ひとりひとりが、その人らしい表現の仕方でき生き生きと制作ができる場所であること」をモットーに活動している社会福祉法人の取り組みを紹介する研修会を計3回開催、33人が参加した。また、出前教室では、障害福祉サービスの事業所に「段

ボールアート」「書道アート」「いけばな」の各講師を派遣し、事業所職員や利用者を対象に計12回の教室を実施した。研修会、出前教室双方において、経験豊富な講師陣によりユーモアを交えて教室が進行され、参加者は型にはまらない自由な取り組みを学び、吸収した。

今年度の課題と目標

事業所や特別支援学校における日常の活動として、絵を描いたり、作品をつくったりという取り組みは一定程度行われているものの、特別支援学校卒業後も継続して文化・芸術に接することのできる環境を整備し、さらには芸

術・文化活動により障害者の自立や社会参加につながるような取り組みを推進する必要がある。2022（令和4）年度は、障害者をサポートする人材の育成や発表機会の確保により、それら課題の解決に向けて取り組んだ。

今年度の成果と展望

人材育成については、特定会場への集合形式で行う研修会を県内3ヶ所で3回開催、各事業所へ講師を派遣する出前教室を12ヶ所で開催し、双方で延べ147名が参加した。参加者からは「活動のバリエーション、ツールを学ぶことができた」「新たなスキルや考え方が得られたので、事業所の取り組みに活かしたい」等、人材育成に資する取り組みとなった。また、障害者作品展「紀

ららアート展」では、延べ264点の作品の展示を行った。出品者、来場者等からは、「発表の場があることで創作意欲が駆り立てられる」「継続して開催してほしい」「作品からエネルギーをもらえた」等、開催が日々の創作や生活の目標となっていると考えられる意見がいただけた。今後においても、同様の取り組みを継続し、障害者芸術・文化活動の推進に努める。



左/人材育成研修会にて「段ボールアート」の出前教室を開催

右/令和4年度「紀ららアート展」開催の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [人材育成研修会、7/14～10/12(合計3回)] [人材育成研修出前教室、7/27～1/14(合計12回)] ●発表の機会の確保 [紀ららアート展、10/26～11/25(合計3回)] ●その他 [ふれあいアート体験、10/27～11/15(合計4回)]

支援センター運営団体
和歌山県

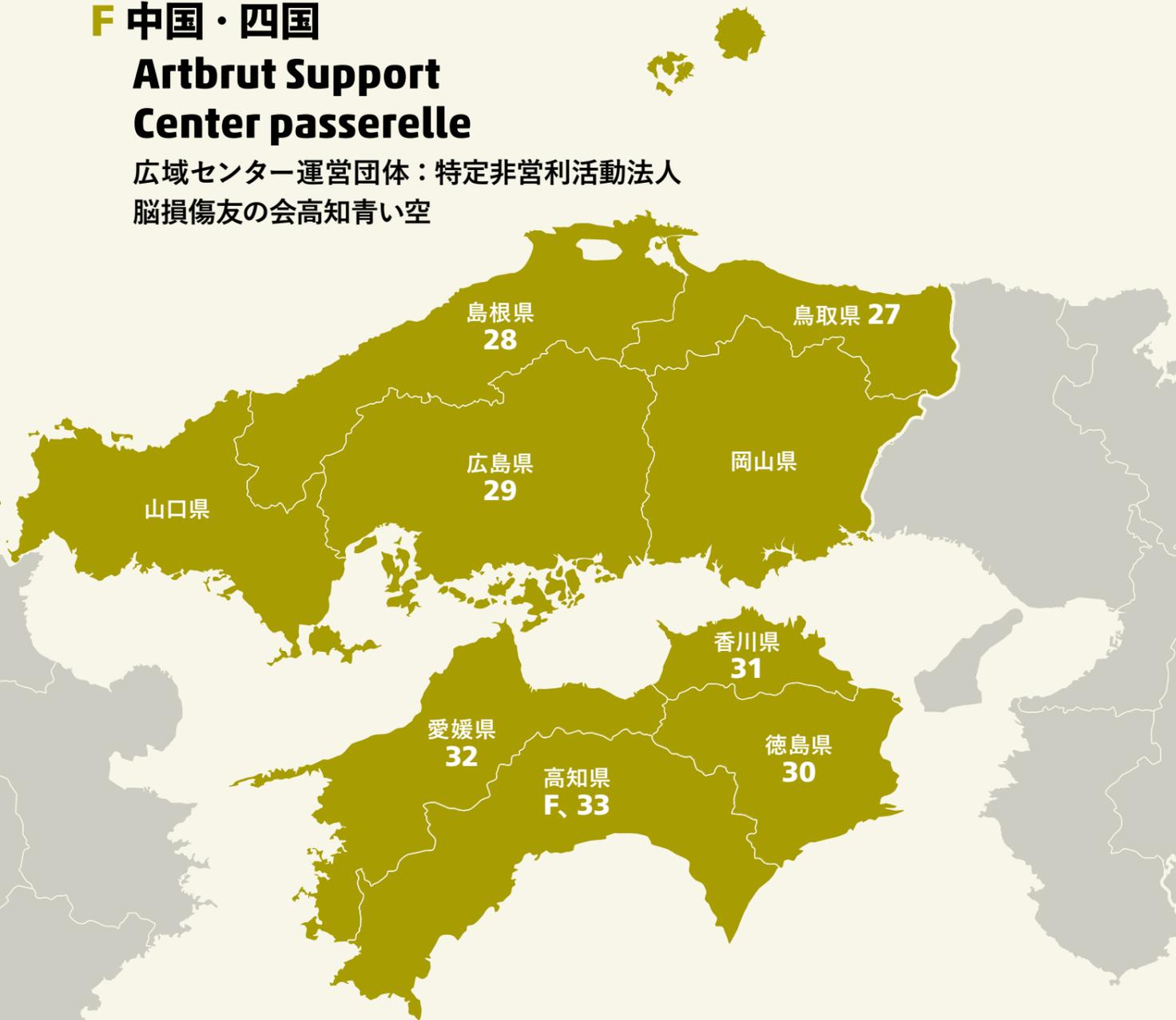
2022（令和4）年度から、それまで分割されていた支援センターを和歌山県障害福祉課に統合し、障害者芸術・文化活動を推進している。和歌山県障害福祉課は、障害児者に関する福祉、啓発の推進などを担っており、2021（令和3）年度に開催した「紀の国わかやま文化祭2021」のレガシーを引き継ぎ、障害者の自立や社会参加等を目的に芸術・文化活動の推進に取り組んでいる。

中国・四国ブロック

F 中国・四国

Artbrut Support Center passerelle

広域センター運営団体：特定非営利活動法人
脳損傷友の会高知青い空



ブロック内の状況

中国・四国ブロック広域センター：中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

9県のうち、鳥取県、島根県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県の7県に支援センターが設置されており、岡山県と山口県は未実施である。鳥取県は、美術分野における多くの企画展を開催し、助成事業を通して、障害のある方の芸術文化活動の推進にも取り組んだ。島根県は、誰もが楽しめるバリアフリー公演を開催し、鑑賞の機会創出に取り組んだ。広島県は、遠隔ロボットを使った鑑賞会を開催するなど、コロナ禍において工夫を凝らした取り組みに挑戦した。香川県は、音楽にかかわる発表機会の創

出を得意としており、また、香川県障害者芸術祭では事務局総務として運営に携わった。徳島県は、今年度より新たにセンター内にて作品販売の事業を開始した。愛媛県は、舞台芸術のワークショップを初めて開催し、発表の機会創出を行った。高知県は、美術・舞台芸術・作品販売など多方面に渡る企画を実施し、情報保障についての課題に対しても取り組んだ。岡山県は、岡山県庁1階にアートギャラリーを設け、行政として発表の機会創出にも取り組んでいる。山口県はメールや電話にて情報共有を行っている。

鳥取県

担当課：福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課社会参加推進室

27 あいサポート・アートセンター

支援センター運営団体：特定非営利活動法人アートピアとっとり

岡山県

担当課：保健福祉部障害福祉課障害福祉企画班

島根県

担当課：健康福祉部障がい福祉課地域生活支援スタッフ

28 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

支援センター運営団体：社会福祉法人いわみ福祉会

広島県

担当課：健康福祉局障害者支援課

29 広島県アートサポートセンター

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぼん

山口県

担当課：健康福祉部障害者支援課

徳島県

担当課：未来創生文化部ダイバーシティ推進課

30 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

香川県

担当課：健康福祉部障害福祉課

31 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

支援センター運営団体：NPO 法人音楽療法グループ WALKS

愛媛県

担当課：保健福祉部 生きがい推進局障がい福祉課

32 愛媛県障がい者アートサポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

高知県

担当課：子ども・福祉政策部障害福祉課

33 藁工ミュージアム 分室

支援センター運営団体：特定非営利活動法人蛸蔵

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

〒780-8014 高知県高知市塩屋崎町2丁目12-42

TEL: 088-803-4100 FAX: 088-803-4420

E-mail: passerelle@blue-sky-kochi.com URL: https://asc-passerelle.com/



Pick Up! アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画



ドラムサークルのワークショップの様子

ねらい 支援センターに対するヒアリングにおいて、公募展を開催しても例年同じ施設からのエントリーが多いとの意見が聞かれ、事業所が新たにアート活動に取り組むことには高いハードルがあると認識している。これまでアート活動に取り組んだことがない事業所を対象に本企画を実施することで、芸術文化活動に取り組む事業所の裾野を広げることができる。また、参画する事業所にお

いては、鑑賞・創造・発表等、アーティストとのコラボレーションの内容によって形式にとらわれないかたちで文化芸術活動に参画できるようになる。加えて、単にアーティストとの活動を体験するだけでなく、事業所が主体となって本企画を進行させることから、企画終了後も継続してアート活動に取り組むことができる可能性が高くなる。

内容 ブロック内における事業所を対象として、アーティストとの創作活動に挑戦してみたい事業所を募り、主体となる事業所を各県1施設選定した。選定された事業所は、当センターによるガイドをもとに、どのような活動を体験するか（美術・舞台芸術分野ほか）、依頼するアーティストの選定、訪問支援日および体験内容の計画を行い、アーティスト派遣による活動体験（1回）を実施した。アर्टイ

ストの選定においては、今後も活動を継続して行えることを念頭に置いているため、原則として事業所の所在地と同一県内在住の方を選定した。最終的には6県6事業所での企画が実現し、打楽器演奏のワークショップ、絵本作家との創作活動、アーティスト・近隣小学校の児童を交えた文化交流会など、各事業所でユニークなコラボレーションが実現した。

今年度の課題と目標

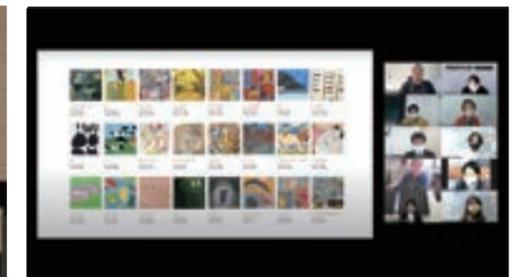
広域センターの中間支援として、「誰かと誰かをつなげる」といった取り組みをこれまで行ってきた。この取り組みに加えて、それを見た人が参考になり後に続くことのできる「価値の拡張」を中間支援の新たな捉え方として、「アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画」を実施し、新たな価値の創造・拡張をもたらすことをめざした。支援センターとしては、相談

のあったテーマや、意見交換の中で生まれた課題に応じたプログラムをブロック研修会で取り上げ、支援センターの質の向上をめざした。未実施の自治体に対しては、支援センター設置に向けて、担当者と密に連絡を取りながら現状把握と設置に向けた提案を行い、計画が進展することをめざした。

今年度の成果と展望

「アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画」は、発表機会の創出につながった。コロナ禍において人と人との接触機会が制限される中、全ての企画を対面形式で開催することで、あらためて身体を通じた交流の重要性に気がつくことができた。また、アンケートでは参加した全事業所が「アート活動を継続していきたい」と回答しており、今後、各地域において

価値の拡張が起こることが期待される。ブロック研修会では支援センターのニーズに沿ったプログラムを構築することで、高い満足度を得ることができた。支援センター未設置県に対する取り組みでは、特に岡山県において行政が積極的に支援センター機能を担っている現状把握ができ、2023（令和5）年度より行政を主体とした支援センターが設置されることにつながった。



左／高知県で開催された市民参加型演劇公演「花咲く港」での鑑賞サポート体験
右／第3回ブロック研修会「アートで生計を立てたいという相談について考える」

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [事例検討座談会（オンライン）、3/20～3/24（合計2回）] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [第1回ブロック研修会「知的財産権について」(オンライン)、7/25] [第2回ブロック研修会「文化芸術支援の中でのNFTの可能性について（オンライン）」、10/31] [第3回ブロック研修会「アートで生計を立てたいという相談について考える」(オンライン)、3/7] ●ブロック内の連携の推進 [ブロック会議（オンライン）、6/17～3/7（合計4回）] 発表の機会の確保 [アート活動を始めようとする事業所のファーストステップに伴走する企画、8/1～3/2（合計6回）]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人 脳損傷友の会高知青い空

高次脳機能障害者およびその家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識の普及、さらに当事者の社会参加を促進するための事業等を実施するとともに、社会への理解を広めるための活動を行うことにより、高次脳機能障害者が安心して生活できる社会環境作りに寄与することを目的としている。

あいサポート・アートセンター

〒682-0821 鳥取県倉吉市魚町2563

TEL: 0858-33-5151 FAX: 0858-33-4114

E-mail: tottori.asac@gmail.com URL: https://art-infocenter.jimdofree.com/



Pick Up! 県内企画展「毛利輝 作品展 19年の軌跡 ～描く向こう側に～」



県内企画展「毛利輝 作品展 19年の軌跡～描く向こう側に～」展示会（米子市美術館）の様子

ねらい 県内で活動をする新進気鋭の若手作家にスポットを当て個展を開催することで次世代を担うアーティストの育成と発信することをねらいとして企画した。同時に、このような個展の開催事例により、長引くコロナ禍で発

内容 聴覚障害を持つ作家の毛利輝氏が、幼少期から現在に至るまでに描いた作品約40点を紹介する作品展として開催した。本展として、「くらしアートミュージアム無心」（県中部地区）、巡回展として「米子市美術館」（西部地区）の2会場で開催し、期間中は週末を中心に毛利氏

表の機会が失われる中、アート活動に取り組む障害のある人や支援者に創作意欲の維持向上にもつながるものと考えた。

が来場され、ミニギャラリートークを開催するなど大変盛り上がった。また、巡回展では、作家発掘企画として米子市在住作家の作品も展示した。来場者は1,498名となり、新聞での掲載（3社）を始め、テレビ番組でも取り上げられるなど反響の大きな展示会となった。

今年度の課題と目標

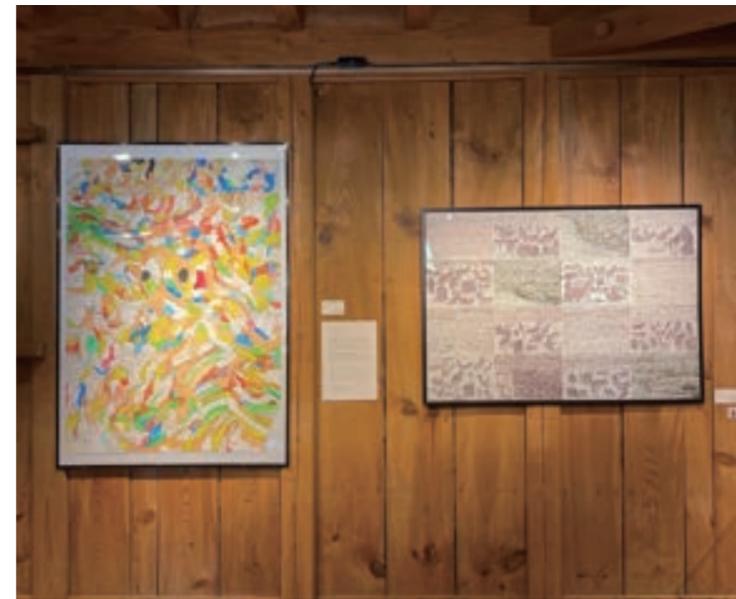
コロナ禍のため展示会の中止や延期が相次ぎ、発表・鑑賞の機会が失われている中、県内のアーティストを紹介する企画展や近県支援センター等との連携による企画展を開催し、障害のあるアーティストによる芸術作品の発表機会を継続的に提供するとともに、県民にその優れた芸術作品の鑑賞機会を提供することで、障害について

今年度の成果と展望

企画展では、県内作品の展覧会を2回、県外作品の展覧会を2回開催し、巡回展を含め約2,600名の来場があった。来場者アンケートでは、9割以上に肯定的な評価が見られ、障害のあるアーティストの文化芸術活動への関心・理解が促進された。また、アート活動の実態調査では、90%の福祉施設等

の理解促進を図ることとした。また、県内の福祉施設等では、対面指導の減少等によりアート活動に困難を来していたり、創作意欲の減退といった状況が見られ、支援センターとしてどのように相談支援を進めていくのか、支援体制の再構築を図るため「アート活動の実態調査」を行った。

がアート活動に興味・関心があるが、そのうち半数程度はアート活動を行っていないことが分かった。アート活動を行っていない理由はさまざまであり、今後アウトリーチ型の支援体制を構築し、福祉施設等の支援者やアーティストに寄り添い、アート活動の振興を図っていくこととした。



左／「アートベースしまねいろ」と連携した「島根県障がい者アート作品展 in とっとり」での展示
右／「アートの入り口プログラム」実施風景。福祉施設等でアート活動に取り組む際の課題を、一緒に考え、答えを探していく

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [鳥取県立倉吉養護学校ワークショップ「プロから学ぼう」、6/23・7/5・9/8] [企画展「倉吉養護学校作品展 Part II ～宇宙の惑星のように輝け～」会期中開催ワークショップ 子どもアート感想画会、11/16] [アートの入り口プログラム（オンライン）、3/4] ●発表の機会の確保 [企画展「邑久光明園 陶芸作品展」、6/4～7/10] [企画展「島根県障がい者アート作品展 in とっとり」、8/6～10/2] [企画展「倉吉養護学校作品展 Part II ～宇宙の惑星のように輝け～」、11/12～12/11] [企画展「毛利輝 作品展 19年の軌跡～描く向こう側に～」、2/4～3/12・3/17～3/21] ●情報収集・発信 [Webサイト、SNSでの発信、4/1～3/31] [福祉事業所

等における芸術・文化活動に関するアンケート調査、4/4～10/31] [フリーペーパーの発行、6/1・9/1・12/1・3/1]

支援センター運営団体 特定非営利活動法人アートピアとっとり

あたたかなまちづくりをテーマに、地域と共に多様な文化・芸術活動及び福祉活動に関する事業を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的として活動している。障がいのある方の文化芸術活動の拠点である支援センターを運営するとともに、障がい者アートの美術館「くらしアートミュージアム無心」の運営もしている。

島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

〒695-0024 島根県江津市二宮町神主1964番地31

TEL: 080-5756-3225 / 0855-54-3100 FAX: 0855-54-3101

E-mail: artbase@shimaneiro.jp URL: https://shimaneiro.jp/



Pick Up! にぎやかな日々 in 松江



「にぎやかな日々 in 松江 指揮者体験」舞台風景。
会場内から指揮者体験希望者を募り、ステージ上で実際に指揮してもらう

ねらい これまで、誰もが安心して舞台芸術を鑑賞したり、参加できるバリアフリー公演について、しまね文化振興財団（グラントワ）と連携して実施してきた。今回も同じく、しまね文化振興財団（島根県民会館）と連携して、島根県東部版のバリアフリー公演を実施し、支援センターと文化施設が連携した取り組みを地域市民に発信することをね

内容 自然と声が出たり、からだも動いても大丈夫、小さなお子さまや障害のある人も安心して楽しめるみんなのバリアフリー公演「にぎやかな日々 in 松江」を実施した。鑑賞サポートとして、要約筆記やストーリー字幕、音声ガイド、磁気ループ対応席等を用意した。ステージイベン

らいとした。また、公演企画を考えるにあたり、障害・舞台・情報保障等、各分野から集まった実行委員会形式を取り、関係者のネットワークづくり、出演者やロビーイベント関係者とのつながり構築をめざした。

トでは、石見神楽やプラスバンドの演奏、ロビーではアート体験や、島根県立松江養護学校による作品展示、ミニマルシェコーナーを設置し、にぎやかで色とりどりの表現を楽しむ一日となった。

今年度の課題と目標

今年度の課題と目標は次の5点である。①相談に対応したワークショップの実施や、企業等からの相談依頼によるアート作品展示等の取り組みを通して、関係者とのネットワークの充実を図る。②福祉事業所等において、当事者が行う創作活動の支援者向け人材育成セミナーを開催することで、基本的な展示方法や見せ方を学ぶ機会を提供する。③支援センター主催事業のボランティアスタッフや協力者、地域のアーティスト（講師）とのつながりを増やしていく。④島根県民会館と連携したバリアフリー公演を実施し、当事者や支援者・家族のニーズを満たしていく。⑤「島根県障がい者アート作品展（本展）」開催から、受賞作品のWeb掲載、巡回展までの流れを構築する。

今年度の成果と展望

課題と目標の①では、相談対応をもとに事業を企画運営したことで、ニーズを満たすことができ、新たな関係者とのネットワークを築くことができた。②では、福祉支援者向けの人材育成セミナーを実施し、その後の事業への協力対応にセミナー参加者が加わるなど、有機的なネットワークが生まれた。③では、バリアフリー公演を島根県民会館と共同主催し、誰もが楽しめる公演を開催できた。また、実行委員会を通して新たなネットワークを構築できた。④では、「島根県障がい者アート作品展」の応募段階で、本展開催の一連の流れを周知することができた。今後の展望として、相談対応を通し、県内障害者の文化芸術活動のニーズ把握に務め、視覚聴覚障害者に配慮した取り組みの充実、地域の中で文化芸術活動が混ざり合う企画を通して社会参加の一つとしたい。

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [ムービングボードに絵付けをしてみよう、6/21～7/2 (合計2回)] ●人材育成 [障害×アート見せ方講座「伝わる展示のつくり方」、10/15] ●関係者のネットワークづくり [専門家アドバイザー定期相談会、3/7] [島根県障がい者アート作品展実行委員会、7/15] [島根県障がい者文化芸術活動推進連絡協議会、6/7] [映画「ウエディング・ハイ」バリアフリー上映会への協力、7/24] [グラントワダイバーシティ事業「にぎやかな日々 in 松江」への共催、11/19] [Meetup! 石見～「まちと福祉と芸術文化」についてのオープンミーティング#03への協力、2/12] ●発表の機会の確保 [ゆめタウン出雲におけるアート作品展示、6/18～6/26] [ムービングボードの展示、7/21～8/31・11/1～12/9] [島根県障がい者アート作品展 in とっとり、



上/ワークショップ「伝わる展示のつくり方」実施風景。
基本的な展示技術やキャプションづくりを学ぶ
下/「島根県障がい者アート作品展 in とっとり」
（くらよしアートミュージアム無心）展示風景

8/6～10/2] [令和4年度島根県障がい者アート作品展、12/9～12/11] [令和4年度島根県障がい者アート作品展巡回展 in グラントワ、2/3～2/5] ●情報収集・発信 [令和3年度島根県障がい者アート作品展Web展作品集刊行、11月～12月] [令和4年度島根県障がい者アート作品展受賞作品のWeb公開、2/3]

支援センター運営団体 社会福祉法人いわみ福祉会

島根県西部の浜田市・江津市を拠点とした障害福祉サービス、高齢者福祉、相談支援、地域生活支援等を行っている。地域伝統芸能である「石見神楽」が盛んな地域であり、余暇支援として取り組んでいた「芸能クラブ」は、当事者の文化芸術活動や生涯学習の一つとして、施設開所当時より位置付けている。

広島県アートサポートセンター

〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内6-28-15

TEL: 070-5671-8668 FAX: 082-831-6889

E-mail: holulu@hullpong.jp URL: https://holulu.jp/



Pick Up! みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会 ～美術館でアートをみよう～



「みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会」実施風景。作品を鑑賞しながら参加者それぞれが感じたことを話した

ねらい 事業実施を通して多様な機関の連携を継続し、さらに関係性を深めていくことと、新たなネットワークの構築をねらいとした。障害のある方が、公共施設で芸術文化活動に安心して参加でき、楽しい体験ができることと、公共施設において参加可能な芸術文化活動の環境

内容 2020（令和2）年度より「一体型プロジェクト」として、広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンターが協働で障害のある方の「鑑賞」について協議を重ねている。鑑賞会の実施に向けて、各団体の専門分野を活かして準備をしていく中で、遠隔ロボットの使用も考えたことから、魚坂隆氏（広島支援機器研究会代表）にも協力いただいた。鑑賞会では、森万由子氏

整備を検討することを目的に、昨年実施したオンラインによる「みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会」の継続事業として、今年度は広島県立美術館において対面で鑑賞会を実施した。

（広島県立美術館学芸員）をファシリテーターに、広島県立美術館が所属する2作品を、知的障害のある7名が鑑賞し、作品を見て感じたことや気づきを話した。何が描いてあるか気になった方、使ってある色について話される方、描かれている人の気持ちについて話される方等、さまざまな視点を話され、鑑賞会の楽しさを体験した。

今年度の課題と目標

芸術文化活動の支援力が高まり、独自で創作活動や発表を実施される施設・事業所が増えている。その反面、コロナ禍で活動の見直しやスタッフの世代交代により、新たに創作活動に取り組もうとしている施設・事業所があることから、独自で取り組まれている施設・事業所のさらなるステップアップと、これから取り組まれる施設・事

業所が安定して活動を継続できるよう、縦の関係を紡ぎながら、ネットワーク体制を整えていく。また、多様な表現の裾野を広げることをめざし、表現活動に取り組んでいる団体のサポートを行い、本人（当事者）、福祉施設・事業所、団体、機関等と連携を取りながら「共利共生」に着目した事業を実施する。

今年度の成果と展望

福祉施設・事業所の方と対話していく中で、芸術文化活動の取り組みをされない福祉施設・事業所と、熱心に取り組まれる福祉施設・事業所の二極化が起きている現状があり、取り組みの有無の理由を知ることができた。また、障害のある方自身が考え、芸術文化活動を個人活動として行動する人も増えており、表現活動のサポートを得られない方からの相談が増えている。そのことから、

サポートセンターの認知度の向上と役割の大きさを感じ、他機関と連絡を取りながらサポートしていった。障害の有無に関わらず、表現活動ができる環境を整えていくには、人やモノ、施設、事業所、団体、機関等とのつながりが欠かせないため、今後も対話と検討、実践を繰り返しながら、サポート体制を強化していきたい。



左/「新しい出会いセミナー～墨を使った表現について～書・書道～」実施風景
右/セミナー&座談会4「アートとフクシのコラボレーション～ときどきキョーイク2022～」の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [セミナー1 やまみ工房の日々から、7/15] [セミナー&座談会2 ほっとスペースぼんぼんの日々から、9/17] [セミナー&座談会3 社会福祉法人若菜の日々から、10/15] [セミナー&座談会4 アートとフクシのコラボレーション～ときどきキョーイク2022～、11/5] [墨を使った表現について～書・書道～、11/19] [表現者発掘プロジェクト「アーティストに会いに行ってみよう」(動画配信)、2/17～3/30(合計3回)] ●創作活動支援事業 [専門家派遣① 展示方法の基本を学ぶ、6/28] [ワークショップ「おみくじアート」、11/6] [専門家派遣② 陶芸粘土で遊ぼう!、1/25] [専門家派遣③ 墨で遊ぼう!、2/18] [専門家派遣④ 遠隔ロボットを使った博物館見学会(オンライン)、3/7] ●その他 [おきらく劇場ピロシマ 演劇クラブ、6/12～2/12(合計6回)] [助成プログラム アートの巣箱(交付先: art201、ART COMPLEX HIROSHIMA)、9/1～2/28(合計11回)] [遠

隔ロボットを使った鑑賞会 in あいさぽーとアート展(オンライン)、11/3～12/7(合計2回)] [広場にあつまった仲間たちによる演劇公演 おきらく劇場ピロシマ ウタとナンタのさかのぼり、12/25～3/5(合計12回)] [みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会～美術館でアートをみよう～、3/25]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぼん
1981（昭和56）年に任意団体として発足。2001（平成13）年よりNPO法人になり2018（平成30）年3月には認定NPO法人として活動。児童福祉施設児童発達支援センターの運営、就労継続支援B型事業所の運営を行うほか、障がい者アートによる街づくり事業、ボランティア育成事業（福祉教育の一環としてのボランティアの受け入れ・育成事業等）を行っている。

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

〒770-0005 徳島県徳島市南矢三町2-1-59 徳島県立障がい者交流プラザ1階

TEL:088-631-1200 FAX:088-631-1300

E-mail:t-geibun@kouryu-plaza.jp URL:http://kouryu-plaza.jp/gb-center/



Pick Up! 障がい者アート活動支援のためのワークショップ(全4講座)



「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」全4講座(絵本のひみつ、マスキングテープアート、療法的音楽活動、陶芸)実施風景

ねらい 人材育成の取り組みとして福祉、教育、行政関係者およびこの事業に興味・関心のある方を対象に、ワークショップを開催した。人材育成のワークショップは、毎年内容を変え開催しており、今年度は特に実践的で取り組みやすい内容として「読み聞かせ」「マスキ

内容 ①「絵本のひみつ-愛を届ける仕掛けとしての絵本-」講師：余郷裕次氏（鳴門教育大学教授）では、絵本の読み合い活動を行い、絵本の仕掛けについて学んだ。②「マスキングテープでクリスマス」講師：田中佳氏（徳島大学准教授）では、マスキングテープを使ったクリスマス飾りづくりを行い、会場に展示した。③「療法的音楽的活動

グテープアート」、入門・体験的内容として「療法的音楽活動」「陶芸」を実施した。関心はあるが、実践するまでに至っていなかった内容の講座に参加していただくことで、効果や楽しさを体験して実践意欲を高めるとともに、実践するためのノウハウを知ることをねらいとした。

を経験する」-職場で音楽活動を実践するために-」講師：井村幸子氏（徳島文理大学准教授）、千葉さやか氏（徳島文理大学講師）では、療法的音楽活動を体験し、施設でも実践できるよう学んだ。④「陶芸の基本を学ぼう」講師：田村栄一郎氏（大谷焼元山窯十代目）では、土練りから、電動ろくろを使った器の製作、絵付けまでを学んだ。

今年度の課題と目標

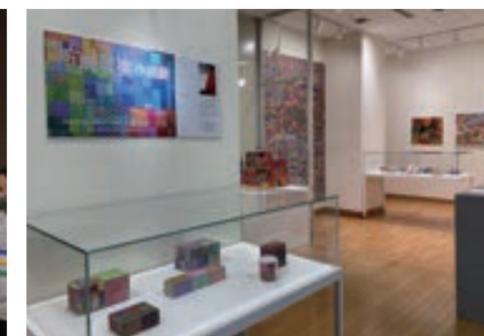
障害者芸術文化の振興は、活躍の場の創出や社会参加の意欲向上につながるとともに、芸術文化活動を通じた障害のある人とない人の交流による、障害者理解の促進など、社会的にも大きな意義がある。特に、現在のコロナ禍の現状では、多くの方が気兼ねなく参加できる新たな方策を企画・実行することが大切になっている。福

今年度の成果と展望

障害者の活躍・作品発表の場として、全国公募「Tシャツデザイン展」「障がい者アーティストの卵発掘展」で作品を募集し、展覧会を開催した。多くの方に参加、観覧していただき、障害者芸術への理解を促進することができた。また、センターのホームページ上で展覧会を閲覧できるように工夫するとともに、SNSでの情報発信も行った結果、より多くの方々に見ていただくことが可能となった。

祉施設の行事等の実施状況をアンケート調査した結果をもとに、「美術」「舞台芸術」での発表にWEBの活用を図り、本事業の目標達成をめざしていくとともに、徳島県の障害者芸術文化活動のさらなる振興を図り、障害者の自立と社会参加を推進していく。

また、「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」では、県内外の福祉施設関係者や利用者の方々に参加していただき、多くの成果を上げることができた。舞台芸術として「みんなのはっぴょうかい」を開催し、発表会当日にはYouTubeでのライブ配信も行った。今後も、WEBの活用を積極的に進めていきたいと考えている。



左/「みんなのはっぴょうかい」(徳島県立21世紀館イベントホール)舞台風景

右/個展「片岡政美作品展」(徳島県立障がい者交流プラザプラザギャラリー)展示風景

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [絵本のひみつ-愛を届ける仕掛けとしての絵本-、10/28] [マスキングテープでクリスマス、11/13] [療法的音楽的活動を体験する-職場で音楽活動を実践するために-、11/26] [陶芸の基本を学ぼう、12/13～1/17(合計2回)] ●関係者のネットワークづくり [訪問調査、4/7～3/10(合計27回)] [企画委員会、9/12～3/9(合計2回)] ●発表の機会の確保 [片岡政美作品展、4/30～6/15] [全国公募第2回Tシャツデザイン展、7/8～8/31] [第8回「障がい者アーティストの卵」発掘展、8/31～9/4] [第8回「障がい者アーティストの卵」発掘展(受賞作品の巡回展示)受賞作品巡回展、9/17～11/27] [みんなのはっぴょうかい、3/22] ●情報収集・発信 [この素晴らしき世界 希望の園作品展、2/10～2/26]

[この素晴らしき世界 希望の園作品展 ゲストトーク、2/12] [この素晴らしき世界 希望の園作品展 展示解説、2/23] ●その他 [ビルダーカードワークショップ、10/16] [タングラムワークショップ、1/22]

支援センター運営団体

社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

1972(昭和47)年の設立以来、福祉施設の経営とともに福祉ニーズに応じた専門的なサービスを提供するほか、障がい者のスポーツ、芸術・文化活動の事務局を担う等、多彩な事業も積極的に展開している。これまで積み上げてきた信頼を財産とし、地域共生社会の実現に向け牽引役をはたしていく。また、県施設の指定管理業務等も行っている。

香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

〒761-1703 香川県高松市香川町浅野1032-6

TEL: 087-880-1559 FAX: 087-880-1559

E-mail: kagawamoves@mc.pikara.ne.jp URL: https://www.kagawamoves.com/



Pick Up! 香川県障害者芸術祭2022 ～キラリ☆と光る芸術祭～（実行委員として参加）



「香川県障害者芸術祭2022～キラリ☆と光る芸術祭」会場風景

ねらい 障害の有無にかかわらず参加できるイベントとして、作品展やワークショップ、音楽やダンス等のステージイベント等を開催した。障害者の発表の機会、鑑賞の機会を創出するとともに、県民に広く障害者の文化芸術活動の素晴らしさを伝えていくことで、共生社会の実現をめざし、障害者芸術や障害への理解の促進をねらいと

内容 「香川県障害者芸術祭2022～キラリ☆と光る芸術祭～」に実行委員として参加した。障害者が制作した作品と、高校生と特別支援学校の生徒がコラボレーションして制作した大型共同作品の作品展、障害の有無にかかわらず制作した絵画や写真をプリントしたTシャツアート

した。また、このイベントを関係機関等と連携して開催することで、新たな芸術文化活動の専門家・支援者やサポーターとのつながりを生み出し、今後の障害者の文化芸術活動を支援する、関係者のネットワークの構築を進めることができた。

展、障害者と服飾専門学校の学生が共同制作した洋服を着て一緒に参加したファッションショー、音楽やダンスのステージイベント、障害者施設等で制作した商品の物販、障害の有無にかかわらず参加できるさをり織りワークショップ、障害者が制作したさをり織り反物展示を行った。

今年度の課題と目標

実行委員として運営に関わることを通じて、芸術文化活動の専門家・支援者の発掘とサポーターの募集を行うとともに、障害者の文化芸術作品の展示場所の把握および、芸術祭応募作品の作者把握のための調査を行い、県内の障害者施設や文化芸術団体の活動の状況を把握する。また、芸術祭を開催することで、障害者の文化芸

今年度の成果と展望

芸術祭を開催したことにより、芸術文化活動の専門家・支援者やサポーターとのつながりができ、今後の障害者の文化芸術活動を支援する関係者のネットワークの構築を進めることができた。また、障害者の文化芸術作品の展示場所の把握、応募作品の作者を把握するための調査を行うことで、県内の障害者施設および文化芸術団体

術活動の発表機会や鑑賞機会を確保するとともに、情報発信を行うことで、共生社会の実現に向けて、広く障害者理解の促進に努める。支援センターのホームページを充実させることにより、障害がある人の文化芸術活動の支援と拡充に寄与する。

の活動状況の把握を進めることができた。今後、調査結果を活用して、障害者の文化芸術活動の発表機会や、研修等の開催による創造の機会の創出に努めるとともに、支援センターのホームページを充実させ、情報発信の機会を増やすことで、県内の障害者の文化芸術活動がさらに進んでいくよう支援していく。



左/「香川県障害者芸術祭2022～キラリ☆と光る芸術祭～さをり織り」展示風景

右/「ブルース・ヒューバナー氏による尺八コンサート」開催風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援事業] ●人材育成 [アートボランティア養成講座 (香川県障害者芸術祭2022実行委員として参加)、8/6] ●関係者のネットワークづくり [香川みんなのアート活動センターKAGAWAMOVES運営委員会 (合計3回)] ●発表の機会の確保 [香川県障害者芸術祭2022～キラリ☆と光る芸術祭～(実行委員会事務局として参加)、11/6～11/7] [サンポート高松でさをり織りファッションショー・ダンス・バンド演奏などのイベントを実施、11/6] [香川県障害者芸術祭2022に出展の全作品を掲載したWeb展示を実施 (オンライン)、11/16] [香川県障害者芸術祭2022～キラリ☆と光る芸術祭～巡回展、11/16～12/24] ●情

報収集・発信 [情報収集・発信 (オンライン) (合計57回)] [実態把握] [展示場所調査] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和4年度事業報告書] ●その他 [ブルース・ヒューバナー尺八コンサート、10/25]

支援センター運営団体
NPO法人音楽療法グループWALKS

ハンディのある人が参加している音楽グループ。結成は1992(平成4)年で、香川県内を始め西日本を中心に公演等の活動をしてきた。2015(平成27)年にNPO法人を取得し、生活介護の障害福祉サービス事業所を運営するなど、活動の幅を広げている。

愛媛県障がい者アートサポートセンター

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2-12-11(愛媛県身体障がい者福祉センター内)
 TEL: 089-924-2170 FAX: 089-923-3717
 E-mail: art-support@ehime-swc.or.jp
 URL: https://www.ehime-swc.or.jp/facility/art-support/index.html



Pick Up! 障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～



「えひめの舞台芸術」成果発表会にてハートフルミュージカル「みんなだーいすき」舞台風景

ねらい 歌うことが好きな人、ダンスが得意な人、声優になりたいと思っている人、ミュージカルを観てみたいけれど実際に劇場に行くのはハードルが高いと感じている人。「表現すること」に興味・関心はあるものの、障害特性等を理由に一步を踏み出せない人が気軽に参加できるワークショップを実施することにより、年齢、性別、障

内容 障害の有無、舞台芸術の経験、年齢、性別等は不問とし、6月下旬より参加者を募集し、7月にオーディションを実施した。22名の参加者が8月～12月の間に29回のワークショップを行い、12月25日(日)の成果発表会において、ハートフルミュージカル「みんなだーいすき」を披露した(午前・午後2回公演)。ミュージカルは県内の障

害の有無、特技等の多様性を認め合い、共に歌い、踊り、演じていく中で、それぞれが自分らしい表現を見つけ、楽しむことを事業のねらいとした。また、ワークショップで学んだ成果を創作作品として発表する場を設けることにより、広く社会に発信し啓発していくことをめざした。

害福祉サービス事業所に通う方の創作物語を原作とし、ワークショップの指導者が脚本・演出を担った。音楽は全て指導者によるオリジナル楽曲で、劇中歌「おばあちゃん大好き」は参加者の言葉を集めて作詞された。「多様性や愛が表現された素敵な舞台だった」「それぞれの個性が発揮されていた」等、多くの称賛が寄せられた。

今年度の課題と目標

2019(令和元)年より「障がい者芸術文化祭」を実施している。歌唱、楽器演奏等のステージ発表や商品販売、作品展示、アート体験等に取り組み、その後「商品化デザインコンペ」を独立させるなど、かたちを変えつつ発展したが、舞台芸術分野については、継続した取り組みになっていないという課題があった。そこで今年度は、

今年度の成果と展望

舞台芸術ワークショップは、一人ひとりの個性・表現を活かした素晴らしい舞台に仕上がった。ワークショップを通して、自分の表現に自信を持ったり、人との関わりを楽しんだりするなど、参加者の自己肯定感の向上が見られたことが大きな成果であった。アート展は、企業賞数の増加や企業からの作品への問合せ数が増加するなど、社会への啓発が進んだ。商品化支援は、2部門2作品が商

舞台芸術分野を独立させ、アート展と舞台芸術の二本柱とし、舞台芸術活動に興味・関心のある誰もが参加できるワークショップを継続的に開催するとともに、その成果を発表する場を設けることをめざした。そのほか、継続事業である人材育成研修や外部指導者派遣等についても、さらなる充実を図った。

品化され企業により販売された。人材育成研修では、モノづくりのワークショップが好評を博した。外部指導者派遣では、事業をきっかけに事業所独自で活動を継続したいとの感想を寄せた事業所もあった。次年度もより多くの障害のある方が芸術文化活動に取り組める環境づくりをめざしたい。



左/「えひめの舞台芸術」舞台後風景。お互いを称え合う参加者たちの達成感あふれる様子
 右/「人材の育成」ワークショップより「魅力的なモノづくり」実施の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [三浦友美氏講演会、1/24] [ひたみつる氏ワークショップ、9/27・10/5(合計2回)] [外部指導者派遣事業(個人を対象とした絵画教室)、9/28～2/1(合計4回)] [外部指導者派遣事業(五感を使って楽しむ音楽活動)、10/20～12/6(合計3回)] [外部指導者派遣事業(美術)、11/12～2/25(合計3回)] [外部指導者派遣事業(和太鼓)、11/17～12/16(合計3回)] [作品展示研修、11/25～11/26] [外部指導者派遣事業(創作音楽劇)、12/15～2/10(合計3回)] ●発表の機会の確保 [障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの障がい者アート展～、12/1～12/11] [障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～(オーディション2回、ワークショップ・リハーサル30回)、7/16～12/24(合計32回)] [障がい者芸術文化祭～愛顔ひろがる えひめの舞台芸術～ 成果発表会、12/25・上映会、

1/28・動画配信、2/17～] ●情報収集・発信 [身体障がい者福祉センター作品展示、4/1～3/31(合計8回)] ●その他 [障がい者アートデザインコンペ 参加者説明会、6/28、ワークショップ、7/12、プレゼンテーション・審査会、8/23、表彰式・成果報告会、1/27] [テクスポート今治作品展示、4/1～3/31(合計4回)]

支援センター運営団体
社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

愛媛県の100%出資により設立された公共性の高い社会福祉法人で、障がい者支援施設を始めとする7つの直営施設、4つの県営施設、3つの公益事業所を運営している。障がい者等が自立した生活を営むことができるよう、生活支援や訓練、就労・自立に向けた相談・支援や障がい者のスポーツ・芸術文化の振興等に取り組んでいる。

薬工ミュージアム 分室

〒781-0074 高知県高知市南金田28

TEL: 088-879-6800 FAX: 088-879-6800

E-mail: info@warakoh.com URL: https://www.facebook.com/薬工ミュージアム-分室障害者

芸術文化活動普及支援事業-高知県支援センター -109468574035199/?ref=page_internal



Pick Up! 舞台芸術関係者のための舞台芸術鑑賞サービス ショーケース&フォーラム2022



トークディスカッションの様子 撮影:岡村茜

ねらい 障害のある方による舞台芸術の鑑賞機会拡充に取り組む舞台芸術関係者の育成と、鑑賞機会の増加により、ワークショップや公募型演劇公演といった創作活動に対して障害のある方の参加意欲が高まること、また、創作活動における参加機会の創出に、舞台芸術関係者

内容 (一社)日本障害者舞台芸術協働機構主催事業に共催するかたちで、鑑賞サービスを体験し学ぶ2日間のプログラムを実施。1日目は、地元演劇人ユニットによる短編演劇作品を上演した。2種類の字幕と音声ガイド体験、障害のある方も一緒に舞台芸術を鑑賞し、参加でき

が取り組むことを目的とした。これらを通じ、舞台芸術が身近になるとともに、交流が相互理解や刺激を生み出し、障害の有無にかかわらず誰もが日常をおもしろがって豊かに暮らせる社会の形成をねらいとした。

るようになるための土壌づくりについて考えるトークディスカッションも行った。2日目は、障害のある方への配慮や鑑賞サービスについて学ぶ研修会を実施。障害のある方も共に生きる社会について、それぞれが考える機会となった。

今年度の課題と目標

高知県は、障害のある方による美術活動は比較的活発だが、創作目的が公募展参加に限定されがちで、発表機会が限られている。また、展示のみで販売機会がほとんどなく、展示作業の機会や美術活動を通じた交流も少ない。それらの課題に対し、展示販売に関する手法を学びながら交流し、作品販売を目的とした発表機会をつくる。併

今年度の成果と展望

鑑賞サービスを体験し学ぶ機会を設けたことにより、公共ホール主催演劇公演において、字幕表示タブレット端末貸出が行われた。また、演出家と他公共ホールから、来年度事業での鑑賞サービス提供についての相談を受け、実現に向け話をしている。障害のある方から「舞台上に立ってみたい」という声もあり、鑑賞・創作機会に参加できる環境をさらに広げながら、そこに関わる人材育成



「第2回薬工アンパンアートバザール」の展示の様子

せて、今年度はパフォーマンス部門を設け、美術/舞台芸術の枠を超えた交流も図る。舞台芸術においては、障害のある方に配慮した公演がほとんどなく、参加できる鑑賞・創作機会が少ない。そのため、鑑賞サービスを提供できる人材育成や、障害のある方への配慮を学び、創作に参加できる環境整備に取り組む。

に取り組みたい。アンデパンダン展は、障害の有無にかかわらず作家やその支援者、鑑賞者等が展示等を通じて交流し、相互に学び、刺激し合う機会となった。パフォーマンス部門も参加者・来場者に好評だった。しかし、昨年度より参加者が減少するなどの課題も見られる。継続を望む声が多数であることから、今後も改善しながら継続していきたい。



舞台芸術鑑賞サービスを学ぶ研修会の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [施設職員研修会「アート活動の目的について～やまなみ工場の事例から学ぶ～」(オンライン)、7/28(合計2回)] [クラブ活動での演技指導、11/1～2/6(合計4回)] [夜須公民館主催事業 市民参加演劇公演「花咲く港」公演協力、2/25～2/26(合計2回)] [多様性を育む美術プロジェクト「絵画ワークショップ」ワークショップ体験&ファシリテーション講座、2/28] ●人材育成 [障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE DRAMA ダンス公演「Breakthrough Journey」再演のためのクリエイション、7/24～10/30(合計10回)] [舞台芸術関係者のための舞台芸術鑑賞サービス ショーケース&フォーラム2022、11/26～11/27] [身体表現と舞台芸術の可能性を探るワークショップ「内部感覚から生まれる身体の動きを知って、表現につなげてみよう」、1/21～2/19(合計8回)] [鑑賞サポートシステムレゾネ多言語字幕タブレット勉強会、3/16～3/19(合計3回)] ●関係者のネットワークづくり [ナントナティックオンラインウエイトリフティング大会 パーベルを作って大会に参加しよう!、6/8～6/25(合計3回)] [第2回

薬工アンパンアートバザール 交流会、12/11] ●発表の機会の確保 [障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE DRAMA ダンス公演「Breakthrough Journey」再演、10/1～10/2(合計3回)] [第2回薬工アンパンアートバザール、11/18～12/25] [第2回薬工アンパンアートバザール関連イベント 全員飛び入りパフォーマンス投げ銭ライブ、12/11] [身体表現と舞台芸術の可能性を探るミニ発表会、2/19] [県内アーティストの展覧会出品協力、3/21～3/26] ●情報収集・発信 [作家・作品調査、4/2～3/10(合計18回)] [文化芸術活動に関する情報収集、4/2～3/5(合計20回)]

支援センター運営団体

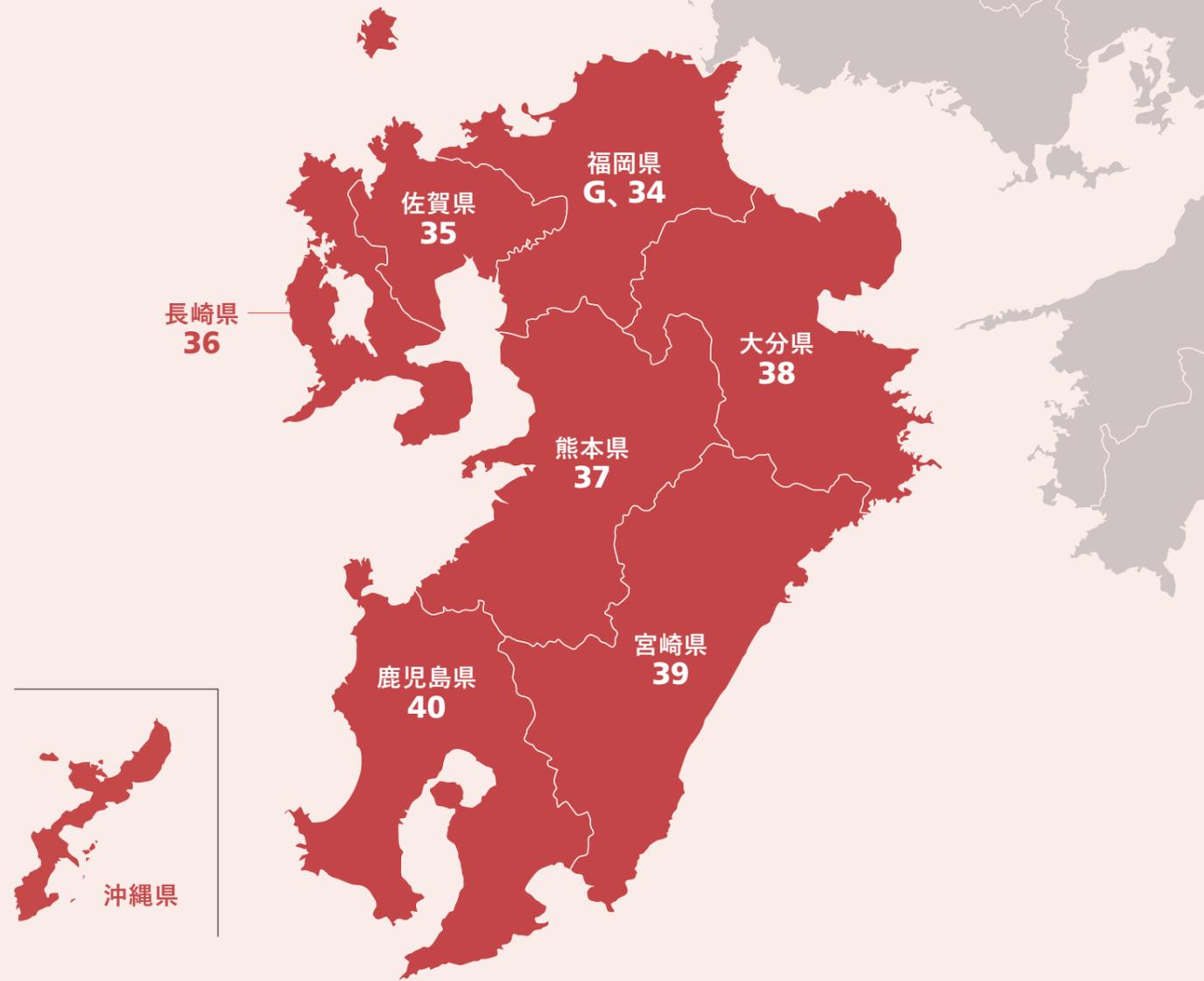
特定非営利活動法人蛸蔵

多目的施設「蛸蔵」の運営を通じ、演劇、音楽、映画、美術などの制作並びに発表の場を提供している。また、「薬工ミュージアム」を2022(令和4)年より運営。同館は、福祉とアート、地域とアートをつなぎ、誰もが多様なものとつながり、多様なものの存在を楽しむことができる、創造的かつフラットな場となることをめざしている。

九州ブロック

G 九州障害者 アートサポートセンター

広域センター運営団体：特定非営利活動法人まる



ブロック内の状況

2022（令和4）年度に鹿児島県の支援センターが新たに設立されたことで、沖縄県以外の6県に支援センターが設置された状況となった。

ブロック会議での報告やイベント視察等を行う中で気になるのが、相談件数、セミナーの参加者数、展覧会や舞台の「入場者数」を成果として捉える支援センターも少なくないことだ。予算規模や人力的な差があることや、日常の事

九州ブロック広域センター：九州障害者アートサポートセンター

業所運営も兼ねて実践されることの大変さは承知しているが、本事業がめざす幅広い文化芸術活動のさらなる促進、他分野と連携しての文化芸術にふれる機会の創出、地域における推進体制の構築を視野に入れた取り組みを行っていただく必要性を感じている。次年度は、ブロック研修で講座やイベントを実施する前の企画の組み方や開催するまでの進行・調整等について学び合う場をつくりたい。

福岡県

担当課：人づくり・県民生活部文化振興課

34 FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）

支援センター運営団体：特定非営利活動法人まる

佐賀県

担当課：文化・観光局文化課

35 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

支援センター運営団体：社会福祉法人はる

長崎県

担当課：福祉保健部障害福祉課

36 長崎県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：長崎県障害者社会参加推進センター

熊本県

担当課：健康福祉部子ども・障がい福祉局障がい者支援課

37 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

支援センター運営団体：社会福祉法人愛隣園

大分県

担当課：福祉保健部障害者社会参加推進室

38 おおいた障がい者芸術文化支援センター

支援センター運営団体：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

宮崎県

担当課：総合政策部みやざき文化振興課文化振興担当

39 宮崎県障がい者芸術文化支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人ゆくり（アートステーションどんこや）

鹿児島県

担当課：くらし保健福祉部障害福祉課障害者支援室

40 鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター（かごしまアールブリュットセンター）

支援センター運営団体：社会福祉法人ゆうかり

沖縄県

担当課：子ども生活福祉部障害福祉課

九州障害者アートサポートセンター

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号

TEL: 092-516-0677 FAX: 092-516-0677

E-mail: info@kda-support.org URL: http://kda-support.org/



Pick Up! アートサポーター養成講座「表現活動の可能性を考える2日間」



沖縄で開催したアートサポーター養成講座「表現活動の可能性を考える2日間」の1日目の講座の様子

ねらい 沖縄の支援センター設立準備会と協議しながら、沖縄県内で障害のある人たちの表現活動が継続的に進める環境を構築していくことをめざし、「アートサポーター養成講座」の企画や広報活動を行った。県内で芸

術活動に興味のある福祉、文化、教育、行政関係者を始め、当事者や家族、学生を集め、設立準備会に加わってもらいねらいがあり、今後、他分野の人材を集めて、設立準備会の層を厚くしていくことを目的に開催した。

内容 「アートサポーター養成講座」は2日間連続で開催した。1日目は、沖縄県内で障害のある人たちの表現活動を行っている、ネットワーク会議のメンバーによる事例の紹介や意見交換会のセミナーを開催し、芸術活動を行う意義や作品に対するアウトプットのノウハウを学び合った。2日目は、障害のある人たちのアートサポート

やプロデュースを先駆的に実践されている講師を招いて「創作体感&作品展示ワークショップ」を開催。受講者自らが実際に創作を行うことで体感し、障害のある人たちの個性を活かすためのサポート方法を身につけ、参加者が制作した作品を使用して、作品の展示方法について考える場をつくった。

今年度の課題と目標

今年度の課題と目標は次の5点である。①新たに設立した鹿児島県の支援センターの運営バックアップや他県支援センターとのネットワークを構築する。②沖縄県内で芸術活動に関心の高い福祉関係者や文化芸術関係者を集めて設立準備会を発足し、独自企画のセミナーを開催

する。③長崎県と熊本県の支援センターに対して、広域センターとして事業の推進をサポートする。④各支援センターと文化施設のつながりを構築し、協働事業に発展できるようにサポートする。⑤舞台芸術の活動が展開できていない地域に対してサポートする。

今年度の成果と展望

鹿児島の支援センターに対して実際に訪問し、県内のアート団体を紹介し、新たなネットワーク構築をし、今後の事業へ協力していただけることになった。沖縄県では、4団体を集めて設立準備会を発足した。セミナーを開催したことで新たに団体も加わることとなり、今後は福祉関係以外の団体にも参加してもらい、設立時準備会の層を厚くしていきたい。長崎県では初めて応用編の研修を

開催することができ、芸術活動を行っている、または関心がある団体や個人とつながることができた。今後は支援者向けの実践的なワークショップの開催を考えている。また、コロナの影響で開催を延期していた、表現ワークショップの成果発表としての舞台公演が実現でき、舞台芸術分野における表現の場の構築を今後も展開していきたいと考えている。



左/定期的に行っている表現ワークショップの様子
右/福岡で開催した舞台公演「あのさあ(仮)」の様子

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [支援者向けステップアップセミナー「障がい者アートの魅力発信を学ぶ～商品化編～」、2/13] [セミナー&相談会「障がいのある方の創作活動にまつわる権利擁護について」、2/17] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [沖縄県支援センター設立に向けたネットワーク会議(オンライン)、7/26～12/6(合計3回)] [アートサポーター養成講座「表現活動の可能性を考える2日間」、2/25・2/26] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [アートサポーター養成講座「福祉とアート」、10/27] [九州ブロック研修「知的財産権などの権利について」(オンライン)、2/3] ●発表の機会の確保 [表現ワークショップ、4/29～8/26] [舞台公演「あのさあ(仮)」、8/27～

8/28] ●その他 [[トークセッション] ツナガルアートフェスティバル FUKUOKA.(動画配信)] [[ダンス] ツナガルアートフェスティバル FUKUOKA (動画配信)]

支援センター運営団体 特定非営利活動法人まる

1997(平成9)年に無認可の福祉作業所として開設して2007(平成19)年にNPO法人化。当初から障害のある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心に進んでいる。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業等を展開している。

FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号
 TEL: 092-516-0677 FAX: 092-516-0677
 E-mail: fact@maruworks.org URL: https://fact.or.jp/



Pick Up! 現場体験ワークショップ



「現場体験ワークショップ」でのグループワークの様子

ねらい 昨年度「大野城まどかぴあ」で実施したワークショップに参加をくださったアクロス福岡の職員から依頼があり、職員40名に対して「心地よく施設を利用してもらうにはどんな配慮が必要なのか」について考える現場体験ワークショップを実施した。アクロス福岡は、30年前の建築基準法でつくられた建物で、障害のある

方や高齢の方には利用しにくい場所があり、そのバリアをコミュニケーションで解決できる配慮の方法や、アイデアで解決できるハード面の改修方法等について考えてもらった。障害のある方（車椅子利用者、知的、視覚、聴覚障害者）と一緒に施設を巡り、改善すべきポイントに気づき、今後の業務に活かしていただくことをねらいとした。

内容 前半は、グループに分かれ、車椅子利用者、聴覚、視覚に障害のある方と一緒に施設を巡り、コミュニケーションで解決できる配慮や現状の設備、サインの不備等に気づくための現場体験を行った。後半は、その気づきを今後の業務に活かしていただくための振り返りを行い、各グループで発表し、参加した職員のみなさんと共有した。最後に、参加した職員から「大切なのはできないこ

とを嘆くのではなく、現状を知りどうしたら改善できるのかを考えること。これらを解決するためには、コミュニケーションが何より大切だと勉強になった」という発言もあり、誰もが心地よく利用してもらえる施設をめざして、アクロス福岡の職員全体で意識を共有した有意義なワークショップとなった。

| 今年度の課題と目標

福岡県内の筑豊地区と筑後地区は、芸術活動を行う障害のある方は存在するが、活動を継続的に行う場や発表する場の構築が必要と考えている。そこで、新たにパンフレットの設置箇所を増やし、「新たに芸術活動をスタートする／再開する事業所が増える」「筑後・筑豊地区の相談件数が前年度より150%アップする」「各地区

で支援者向けのワークショップを開催する」という目標を掲げた。また、広域的な支援として、「県内4地区のハブ的な支援団体と連携してネットワーク会議ができる環境を構築する」「各地域で文化と福祉を融合させた催しを開催する」ことをめざした。

| 今年度の成果と展望

筑豊地区と筑後地区での支援については、筑豊地区に新しく芸術活動を行うB事業所の設立サポートを行い、2023（令和5）年度6月より設立することとなった。また、パンフレットを新たな文化施設や福祉団体など公共施設に設置したところ、相談件数が筑豊地区21件増（217%増）、筑後地区36件増（238%増）という目標を達成した。また、オリジナルの鳥を制作する支援者向けのワーク

ショップを開催し、会場近くの放課後等デイサービスから多数参加していただいた。障害のある子どもたちの創造性や感性に驚かれる場面が多く、このような活動があることを知っていただく機会となった。ネットワーク構築については、新たな文化施設とのワークショップ開催決定、筑豊地区の新事業所開設があることから、引き続き協力しながら各地域での啓蒙活動を続けていきたい。



左/「みんなのアート展」での音楽パフォーマンスの様子
 右/ツナガルアートフェスティバルFUKUOKAで実施した「イロトリ鳥ワークショップ」の様子

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31 (合計238回)] ●人材育成 [文化芸術と福祉がつながる相談会Ⅰ、10/2] [文化芸術と福祉がつながる相談会Ⅱ、12/22] [支援者向け研修、10/27] ●関係者のネットワークづくり [現場体験ワークショップ、7/13・7/19 (合計2回)] [講座「アール・ブリュットって? - 障がい者アートとの向き合い方 -」、3/7] ●発表の機会の確保 [展覧会「みんなのアート展」、4/25～5/1] [展覧会「cross over - 障害を越えて」、11/2～12/25] [イロトリ鳥ワークショップ、3/11]

支援センター運営団体
特定非営利活動法人まる

1997（平成9）年に無認可の福祉作業所として開設して2007（平成19）年にNPO法人化。当初から障がいのある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心に行っている。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業などを展開している。

佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

〒849-0917 佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬1168-1 社会福祉法人はる内
 TEL:080-2794-6195 FAX:0952-34-1024
 E-mail:info@s-brut.net URL:http://s-brut.net/



Pick Up! 創作体験ワークショップ／出張ワークショップ／スター発掘☆TV



「創作体験ワークショップ」実施風景

ねらい 県内の障害者の中には、さまざまな要因により芸術文化活動にふれることができない人や、芸術文化活動を日々の暮らしに取り込むことができていない人がまだまだ多い。障害者にとっては創作の機会となり、一緒に

に参加する支援者にとっては芸術活動サポートのヒントにつながる体験型ワークショップを、県内のさまざまな地域で開催し、障害者が芸術文化活動に取り組みやすい環境をつくっていくことをねらいとした。

内容 「創作体験ワークショップ」は、さまざまな画材等に実際にふれて、作品を制作することを通し、自宅や事業所でのアート活動で使える道具や支援のヒントを学ぶことができるワークショップである。「スター発掘☆TV」は、舞台芸術分野の発表機会創出を軸にした番組制作プロ

ジェクトである。障害の有無を問わず、さまざまな表現に取り組み、発表することができる機会創出の拠点となることをめざし、佐賀市内にあるスタジオ「アトリエ・サンク」に障害のあるパフォーマーが集まってパフォーマンス発表等を行い、YouTube番組として発信した。

今年度の課題と目標

障害者文化芸術推進法では、基本理念の一つとして、「芸術家をめざす人から日常の楽しみとして行う人まで、いかなる障害者でも、地域のさまざまな場で幼少期から生涯にわたり、多様な文化芸術活動に全国津々浦々で参加できることが重要」と定められている。県内の障害者の中には、さまざまな要因により芸術文化活動にふれ

ることができない人や、日常の暮らしの中で取り組むことができていない人がまだまだ多い。県内の様々な地域で、芸術文化活動に取り組みやすい環境をつくっていくことは課題であり、地域の多様な障害のある人の芸術文化活動へのアクセシビリティ向上を目指す。

今年度の成果と展望

支援者にとっては芸術活動サポートのヒントに、障害者にとっては創作の機会となる体験型ワークショップを、県内7市郡で14回開催した。長時間の移動が難しい障害者や、日常の暮らしの中で芸術文化活動に取り組むことが難しい障害者と支援者の参加につながった。参加者から「近くで開催されたから参加できた」という声を

いただき、今後も同様の取り組みを継続したい。そのためには、サポート体制をより整備することに加え、様々な地域に連携先を増やしていくことが重要になる。今年度の活動を通してつながりが生まれた施設・団体と連携して、障害者芸術文化活動普及支援の取り組みを支えるネットワーク形成に活用したい。



左/「ビッグアート」(主催:〇〇な障がい者の会)実施風景
 右/「第6回スター発掘プロジェクト in 佐賀」発表の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [「ビッグアート」(主催:〇〇な障がい者の会)、8/28] ●人材育成 [ゆつらアートデイ、4/16～3/18(合計11回)] [スター発掘☆TV、5/28～11/20(合計6回)] [創作体験ワークショップ(出張版)、7/26～2/9(合計4回)] [創作体験ワークショップ、9/24～11/26(合計4回)] [出張 なんでもステージ、9/27] [障がいのある方の創作活動にまつわる権利擁護について、2/17] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会の設置と運営(オンライン)、8/8～3/10(合計3回)] [「がばいアーティストたち展」を一緒に作りませんか?、9/10～1/22(合計4回)] ●発表の機会の確保 [がばいアーティストたち vol.5、1/14～1/22] [第6回スター発掘プロジェクト in 佐賀、

2/11～2/25(合計2回)] [がばいアーティストたち vol.5 巡回展 in 三瀬どんぐり村(主催:どんぐり村)、3/18～4/9] ●情報収集・発信 [SANC Web サイトリニューアル]

支援センター運営団体
社会福祉法人はる

2002(平成14)年に設立以来、福祉支援サービスの創造と展開、整備を積み上げてきた。子どもから大人まで、活動や仕事を通して、地域の方々と触れ合ったり協働したりすることで、障害のある人たちの生活が豊かになり、地域理解が深まることをめざした活動に力を入れている。

長崎県障害者芸術文化活動支援センター

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-24 総合福祉センター内

TEL: 095-842-8178 FAX: 095-849-4703

E-mail: hdcps-suishin@mbn.nifty.com URL: https://nagasaki-artsupport.com/



Pick Up! 支援者向けセミナーの開催

アート活動をさらに充実させたい事業所向けのセミナー「ステップアップセミナー
障がい者アートの魅力発信を学ぶ～展示会実践編～準備作業」で企画公募展の準備に参加

ねらい 本県では、2025（令和7）年度全国障文祭の開催を控え、障害者アートの魅力を発信する絶好の機会となっている。しかし2020（令和2）年度実施の福祉事業所向けアンケートからは、人材不足や活動の認知度の低さにより芸術文化活動に興味関心を持っていてもなかなか取り組めない現状があった。また、2021（令和3）年度実施の県内事業所への意見聴取からは、事業所の取り組

内容 アート活動をさらに充実させたい事業所向けに、事業所内の創作活動を外部に発信するための支援として、展示のノウハウや作品を引き立てるコツを学ぶ「展示会実践編セミナー」を開催した。また、これからアートに取り組みたい事業所向けには「創作体感&展示ワークショップ」を開催し、障害者アート作品の魅力を理解し、描くことつくることの意義や、その支援の大切さを体

み内容や段階によって支援者の求めるテーマが異なることが明らかになった。よって今年度は、アートで商品化事業に取り組みたい事業所、アート活動をさらに充実させたい事業所、これからアートに取り組みたい事業所の3つのテーマごとにもう一步掘り下げたセミナーを開催し、さらなる事業所活動の後押しとなることをめざした。

感してもらった。さらに、アートで商品化事業に取り組みたい事業所向けには、商品化によるアート活動支援の意義、著作権の取り扱い方法について講演会形式の「商品化編セミナー」を開催し、質疑応答の時間には講師から丁寧なアドバイスをもらい、今後の活動につなげることができた。

今年度の課題と目標

2020（令和2）年度に実施した福祉事業所向けアンケートでは、約8割が芸術文化活動に興味関心を持っている一方、実際に取り組んでいるのは約4割であり、取り組めない理由としては人材不足や活動の認知度の低さ等が挙げられていた。これを受け、事業所の取り組み内容や段階に応じたセミナーの開催と、展示会や発表会等の開催を支援する取り組みへの助成を実施し、事業所等から地域へ障がい者アートを発信する活動の後押しとなることを目標とした。また、障害のある方がアートを通じて社会に関わっていく窓口となることをめざした。

今年度の成果と展望

人材育成では、事業所の取り組み内容に合わせてテーマごとにセミナーを開催し、講師や他事業所との意見交換を通し、福祉事業所での活動活性化につなげることができた。全国障文祭開催を見すえ、事業所による発信の実現に重点を置き、継続してセミナーを行っていく。相談窓口については、広報の効果から少しずつ利用が増え、特に在宅で創作活動に取り組む方へ支援や情報を届けることができた。今後も利用促進を図るとともに、相談対応の充実に努めていく。今年度新設した「発表の機会確保事業助成事業」では、展示会等の開催により一般市民へ魅力を伝え、全国芸文祭への足掛かりとすることができた。今後は運営への助言等の支援も含めて取り組み、さらなる活用推進をめざしていく。

実施一覧

●相談支援 [相談窓口の運営、4/1～3/31] ●人材育成 [支援者向けステップアップセミナー1「障がい者アートの魅力発信を学ぶ～展示会実践編～」、9/22～10/6] [支援者向け導入セミナー「創作体感&展示ワークショップ」、1/25] [支援者向けステップアップセミナー2「障がい者アートの魅力発信を学ぶ～商品化編～」、2/13] ●発表の機会の確保 [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「アールブリュット・フェスティバル2022」、9/23～9/25] [「発表の機会確保事業助成金」活用事業「福祉施設と協働での映像制作および上映会」、1/27～1/28(合計2回)] [ウェブサイトでの作品紹介、4/1～3/31] ●情報収集・発信 [ウェブサイト情報発信、4/1～3/31] ●事業評価及び成果報告のとまりまとめ [事業報告ニュースの発行、3/13]

上/発表の機会確保事業助成金を活用して開催した「アールブリュット・フェスティバル2022」
下/利用者の絵が起用された「平和コンサートin長与」のポスター

支援センター運営団体

長崎県障害者社会参加推進センター

視覚・聴覚・内部の各協会と市町協会からなる県身体障害者福祉協会連合会に事務局を置き、県手をつなぐ育成会、県精神障害者家族連合会、県精神障害者団体連合会、県知的障がい者福祉協会、県精神障がい者福祉協会といった県下の障害福祉団体と連携しながら、障害者の社会参加を進めるための事業に取り組んでいる。

障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

〒861-0551 熊本県山鹿市津留2022

TEL: 0968-43-2771 FAX: 0968-43-2793

E-mail: ailinkan@magma.jp URL: http://www.aileans.com/art/



Pick Up! 常設展示会場の活用



常設展示会場ギャラリーウォールでのワークショップ風景

ねらい これまで年に1回、県立美術館で開催する大きな展覧会と、依頼のある会場で展示する移動美術館、昨年度開設した常設展示ができる「ギャラリーウォール」の運営に取り組んできた。ギャラリーウォールの展示は、障害のある人の作品に限定せず、地域作家の作品も展示することで新たなネットワーク構築が始まっている。

内容 地域活動支援センター、基幹相談支援センターが併設された常設展示会場「ギャラリーウォール」の利用方法を改善した。ひと月を前半、後半と分けることでスケジュールが組みやすくなり、見通しを持った展示を行うことができた。また、障害のある人々等の陶芸展の期

今年度は、同会場を利用したワークショップや、地域の祭りに合わせたコラボ展示を開催した。アートにふれること、障害のある人々への理解を深めること、地域の活性化を図ることを目標とした。ショッピングモール内にある、地域活動支援センターの強みを活かした同会場の可能性を広げ、事業を展開した。

間に合わせて、地元の小学生を対象に粘土体験ワークショップを開催。さらに、地域の祭りの期間に合わせて、同会場で灯笼Tシャツ展を開催するなど、多様な利用法が展開できた。展示による効果作家と作品の発信に留めず、地域共生につながる事業を行っている。

今年度の課題と目標

熊本県立美術館で継続開催している「生の芸術 Art Brut 展覧会」は、ネットワークの広がりとともに、社会的認知が広まってきている。その中では、作品保存の難しさもあって、選出作家を中心に売買や二次利用等への意識が芽生える一方、市場では作品購入やグッズ等へのニーズが生まれている。中間支援団体として、それら双

方をつなぐ役割を担うため、作家の利益になる知識や技術の習得・支援方法が求められ、課題となっている。展示やワークショップ、研修等を通して、①芸術活動支援実践者がこれらの知識や技術を習得していくこと、②障害者芸術文化活動による人々の気づきから、障害のある人々等が生きやすい社会になることを目標とした。

今年度の成果と展望

今年度は、他団体主催事業に協力する機会が多く、県内で主体的に芸術活動支援を行う団体が増え、本支援センターの認知の広まりが感じられた。2つの地域イベントで展示をした際は、県外の方も含め約6,000名が見に来られた。昨年度実施した、全盲の方を講師とした陶芸ワークショップを開催したいとの申し出を地元新聞社

から受け、準備、進行等の協力を行ったほか、県教職員の研修会や難病の会、閉校となる地元小学校から要請を受け展示協力した。また、展示備品の貸出やコラボTシャツの要望を受け、作家との調整を行い実現した。このように、熊本県における障害のある人々の芸術活動に対する評価の広がりを見ることができた。



熊本日日新聞社のワークショップに協力。全盲のおばあちゃんを講師に呼ぶ



県外からも多数来場される地域興しイベントでの展示風景

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、6/1～3/31] ●人材育成 [作品撮影のコツと記録に関する勉強会、6/18] [作品売買・二次利用・作品保存に関する勉強会、6/24] [支援者体験ワークショップ、11/16～11/27(合計11回)] ●関係者のネットワークづくり [子ども陶芸粘土体験、5/28] [熊本日日新聞 目隠しワークショップ協力、12/17] [AO-KUMA BRUT 協力、2/23～3/19] ●発表の機会の確保 [ギャラリーウォール レプリカ展、4/1～4/30] [ギャラリーウォール デイケア陶芸展、5/1～5/31] [移動美術館 街道浪漫、5/29～5/19] [ギャラリーウォール レプリカ展、6/1～6/15] [ギャラリーウォール ゆうあい園 さりを織展、6/16～6/30] [ギャラリーウォール 山鹿灯笼Tシャツ展、7/1～7/15] [ギャラリーウォール 品川英樹 写真展、7/16～7/31] [ギャラリーウォール 星子悦郎水彩画展、8/1～8/31] [ギャラリーウォール 愛隣館びびあ作品展、9/8～10/15] [ギャラリーウォール 清本すみ子 四季の花と少女展、10/16～10/31] [移動美術館 山鹿人権フェスティバル、10/22～] [移動美術館 難病友の会(きずなの会)、10/28～10/30] [移動美

術館 やまがアートin鶴城、10/29～11/3] [移動美術館 熊本県庁、11/7～11/11] [生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.8、11/16～11/27] [ギャラリーウォール ゆうあい園 さりを織展、12/1～12/15] [ギャラリーウォール レプリカ展、1/4～1/15] [ギャラリーウォール 中山正一郎 木工作品展、1/16～1/31] [ギャラリーウォール 布の絵コレクション展、2/1～3/31] [移動美術館 三岳小学校、3/1～3/3] [移動美術館 八代市役所、3/6～3/16]

支援センター運営団体 社会福祉法人愛隣園

1950(昭和25)年創設の社会福祉法人愛隣園は、児童養護施設、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設と在宅サービス16事業を行う法人である。障害者支援施設愛隣館は、熊本県全域で多分野連携による障害者の芸術活動支援ネットワークを築くため、2014(平成26)年市民団体アール・ブリュット パートナース熊本の創立を図り、事務局を担っている。

おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029 大分県大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター内

TEL: 097-533-4505 FAX: 097-533-4013

E-mail: artbrut-oita@emo.or.jp URL: https://artbrut-oita.com/



Pick Up! オープンアトリエ地域開催(日田市・佐伯市・豊後大野市)



オープンアトリエ(ダンス/佐伯市)実施風景

ねらい 「オープンアトリエ地域開催」は、障害のある人が自分の暮らす地域で気軽にアート活動に参加できる機会を持つことをめざして、地域の行政機関や文化施設と連携し、活動の場を設ける事業である。美術やダンス、

内容 文化施設やホールと連携し、障害のある人もない人も参加可能なワークショップを計10回開催した。夏休み期間である8月には、夏の思い出を粘土でつくる「夏フィギュア作り」や、さまざまな素材の感触を触って楽しみ、お気に入りの素材を選びボックスに詰めていく「お気に入りのフレーム作り」を実施した。音楽活動では、楽器を使っ

音楽等、さまざまなジャンルの体験を選べる場として、県内外の芸術家を講師に招聘し、障害のある人とない人がともに地域で活動を楽しんでもらうことをめざしている。

で自由に演奏する取り組みを行い、身体表現では、自分の動きたい動きをそれぞれ参加者に伝え、参加者が一体となり一つの舞台をつくり上げる活動を行った。また、市や文化施設と連携したことで、広報も隅々まで行き届き、障害の有無にかかわらずいろいろな人の参加が実現し、相互理解の場となった。

今年度の課題と目標

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していたアウトリーチ等の一部が中止や延期になった。セミナーもオンライン開催の方法を取ったことから、対面開催の機会は例年より少なかった。県内における支援センターの認知がまだまだ充分ではないことを考慮して、今年度は、大分市以外のさまざまな地域でも対面開催が

今年度の成果と展望

大分市での絵画教室や舞台ワークショップに加え、大分市以外の地域でもアート・ダンス・音楽ワークショップを実施したことで、これまで交通手段などの問題で、当センターに関われなかった方と一緒に活動できる機会が増えた。今後もアウトリーチ回数を増やしたり、地域開催

できるように力を入れた。「オープンアトリエ地域開催」「アウトリーチ」「アートを感じるワークショップ」等、県内各地の文化施設や学校でワークショップを実施した。それぞれの地域で芸術文化活動を提供するとともに、各市町村にも協力していただき、地域に根付くイベントにすることを目標にした。

を各市町村と連携したりするなど、大分県下さまざまな地域での事業展開により、「おおいた障がい者芸術文化支援センター」の役割を多くの人に認知していただき、気軽に連絡・相談ができる場所をめざしてセンターの機能強化を図っていききたい。



左/アウトリーチ(美術/大分市)実施風景
右/アウトリーチ(音楽/玖珠町)実施風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計306回)] ●人材育成 [私の考えるバトンの受け取りと渡すタイミング～バトンとは?～、9/25] [たんぼぼの家による音と踊りのワークショップ-ガムランの響きを楽しみながら-、3/4] ●発表の機会の確保 [ギャラリーMAPO、5/3～3/31(合計6回)] [おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展 vol.4 Junction art、11/9～11/20] [創作演劇&ダンスワークショップ in OPAM「こころ、こころ、ころがって」、11/10～11/13(合計5回)] ●情報収集・発信 [情報発信(オンライン)、4/1～3/31(合計52回)] [調査発掘、5/2～2/24(合計5回)] ●その他 [オープンアトリエ in コトブキヤ駅南、6/12～2/12(合計8回)] [アウトリーチ、7/15～2/17(合計12回)] [オープン

アトリエ地域開催(ひた・さいき・豊後大野)、8/6～12/4(合計10回)] [鑑賞支援付き日本舞踊「鶯宿梅」、10/16(合計2回)] [アートを感じるワークショップ、11/11・12/1(合計2回)]

支援センター運営団体

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

大分県立総合文化センターおよび大分県立美術館を拠点として、県民の幅広い欲求に応えられる多様な文化事業やスポーツの振興に関する事業を実施するとともに、県民と外国人の相互理解と友好親善の増進に努め、もって潤いのある県民生活の創造と健やかで個性ある地域づくりに寄与することを目的として、さまざまな事業を行っている。

宮崎県障がい者芸術文化支援センター

〒880-0825 宮崎県宮崎市東大宮4-23-1

TEL: 0985-27-2823 FAX: 0985-89-6000

E-mail: donkoya@jl.moo.jp URL: https://donkoya.moo.jp/artistic-culture_center/



Pick Up! ちょっと、おじゃましますっ!事業所訪問2022



生活介護(入所)施設の陶芸班メンバーの活動の様子

ねらい 障害者芸術文化活動の裾野の拡大と、支援センターの認知度の向上につながるため、事業所訪問・実態調査を勢力的に行った。宮崎県の北、西、南、中央にある生活介護、訓練系、地域活動支援センターを主に訪問

内容 2022(令和4)年2月に、障害福祉サービス事業所に対して行った芸術文化活動に関するアンケートの結果を受けて、県北、県西、県南、県央にある生活介護・日中一時・入所施設・地域活動支援センター等の障害福祉サービス事業所へ、年間を通して伺った。その事業所の現状と課題を調査し、障害のある人と支援員が安心して芸術文化活動ができるよう、問題や不安の解決に向け

調査し、アンケート調査からは見えない現状と課題を支援員と利用者から伺い、相談支援につなげることをねらいとした。

て相談支援へとつなげた。訪問する際には、これまでの活動報告書や支援センターのリーフレットを活用し、宮崎県だけでなく全国的な障害者芸術文化活動の取り組みも普及した。宮崎の障害者芸術に関する表現や、発表の機会につながる公募展、ワークショップの情報発信も併せて行った。

| 今年度の課題と目標

「国文祭・芸文祭2020」後より、個人や障害福祉サービス事業所における芸術文化活動への関心度が高まったが、まだ一部に限られていることや、当支援センターの認知度が低い現状がある。事業種別を問わず、障害のある人の芸術文化活動の環境整備、継続的な相談支援や当支援センターの認知度向上が課題である。そこで、以下3点を目標とした。①認知度の向上：当支援セン

| 今年度の成果と展望

事業所を21ヶ所訪問したことは、障害者芸術文化活動の裾野の拡大と、支援センターの認知度向上につながった。現状と課題の調査から、今後の支援につなげていく。また、「障がい者の作品鑑賞について考える会」委員協力のもと、「対話型アート鑑賞ガイド」を作成し、鑑賞会を実践的に2回行った。ガイドの中身をアップデートしながら、誰でも活用できるように事業継続していく。さらに、

ターが障害者芸術文化活動に関する窓口として認知される。②情報発信の強化：芸術文化活動に対して、障害のある人や支援者の意欲向上につながる情報を提供する。ふだん関わりのない宮崎県民に障害者アートの魅力を伝える。③裾野の拡大：障害のある人の作品発表の楽しみや目標につながる機会を提供する。

新たな取り組みとして「アートなかま」を募集した。障害者芸術文化活動普及のサポートとなる、実践的な人材育成につながることを期待する。「こころ」のふれあうフェスタ作品展」や、障害者アートの魅力を伝えた古民家での展覧会とアーティストによるワークショップは、お互いに無理のない社会参加(共生)につながると考える。



左/「民家園作品展」会場の庭で自分の表現を通して交流するアーティスト

右/「対話型アート鑑賞」実施風景。手の感触と対話を通してイメージを膨らます視覚障害者

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] [創作支援の提供(ワークショップ開催)、6/4(合計4回)] [コロナ禍の鑑賞の機会創出、7/20] ●相談支援・情報収集発信 [ちょっと、おじゃましますっ!事業所訪問2022、5/11～1/20(合計21回)] ●人材育成 [「作品展のうらがわ見よう」セミナー、9/14] [「はじめまして、いっしょに鑑賞しませんか?」セミナー(鑑賞ツアー)、9/16～11/1(合計2回)] [アートなかま募集!] ●関係者のネットワークづくり [明星視覚支援学校を見学しよう、6/16] [「障がい者の作品鑑賞について考える会」委員との会議、7/14～12/16(合計2回)] ●発表の機会の確保 [アートトレーラーが連れて来たぞっ!!まちなかアート化@あいあい、5/1～3/31(合計4回)] [「こころ」のふれあうフェスタ2022作品展、9/15～9/19] [アートトレー

ラーが連れて来たぞっ!!まちなかアート化@みやはく、1/27～1/30] [木を削るアーティスト鈴木健太さんと木を削ってみようワークショップ、1/28] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [ちょっと、おじゃましますっ。宮崎県障がい者芸術文化支援センターです!2022]

支援センター運営団体

社会福祉法人 ゆくり(アートステーションどんこや)

身体に障がいのある人々が集まり、1994(平成6)年に「障害者芸術村」という名称でスタートした。多様な福祉サービスを、利用者の意向を尊重して総合的に提供できるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に活動している。

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター (かごしまアールブリュットセンター)

〒890-0014 鹿児島市草牟田1丁目8-7 地域生活支援拠点ゆうかり内

TEL: 080-8379-7852 FAX: 099-813-7175

E-mail: kac@yuukari-s.jp URL: https://yuukari-s.jp/kac/



Pick Up! ハートピア アートマルシェ



「アートマルシェ」会場内での鑑賞の様子

ねらい 2022（令和4）年7月に鹿児島県の障害者芸術文化活動支援センターとして、かごしまアールブリュットセンターを設置し、障害者の芸術文化活動への支援を開始した。

開設初年度の取り組みとして、障害のある方の芸術文化作品の発表の場「アートマルシェ」を開催した。作品鑑賞やデジタルアート体験等による県民との交流を通して、

内容 ハートピアかごしま（鹿児島県障害者自立交流センター）にて開催された「あったか交流フェスタ」に合わせ、作家45人・作品65点を多目的ホールに展示した。3日間の開催期間であったが、500名を超える多くの方に来場いただき、作品を発信する場となった。

障害のある方の芸術文化活動を発信するとともに、県民の理解促進や共生社会の実現をめざした。

作品を出展した作家にとって、発信・共有の機会となること、また、作品の鑑賞に来た人にとって作品との出会いにより生じた気持ちの変化が今後の生活や活動における何かのきっかけとなることを願い、「アートマルシェ」を企画した。

展示を進める中で、作家や事業所等を始め地域の方々など、さまざまなつながりを持つことができた。作品紹介の展示や音声ガイド等の準備、触って楽しめる体験型作品や音楽作品など、展示の工夫が足りなかったことが今後の課題となった。

今年度の課題と目標

今年度より、鹿児島において障害者芸術文化活動支援センターを開所することができた。老若男女問わず、障害の有無にかかわらず、みんなが一緒に楽しんだり、感動したり、というプラットフォームになることをめざしている。芸術文化活動を支える人材が連携・協力し、多角的な面から支援の在り方が考えられるよう、芸術文化活動

に理解のある専門家や行政職員、教育関係者による「ネットワークづくり検討会」により、顔の見える関係性での情報交換を行う。また、障害者の活躍の場を広げるため、地域のさまざまな人々との交流が促進されるよう工夫した展覧会を開催することで、障害者の表現活動の発表機会を創出する。

今年度の成果と展望

センターとしての相談窓口設置により、9ヶ月で139件の相談が寄せられた。

障害者本人・家族・事業所等からの作品発表に関する相談が最も多く、著作権や就労に関連した相談には、外部専門家（弁護士、学芸員）による対応を行った。展覧会「ハートピアマルシェ」、つばめロード（鹿児島中央駅前地下通路）での作品展示を開催し、障害の有無にかかわらず、

多くの来場者に障害者芸術に触れてもらうことができた。また、ネットワークづくり検討会により、芸術文化活動に力を入れている法人等の情報を共有し、サポートの在り方等について情報交換することができた。今年度実施した相談支援や人材育成、関係者のネットワーク等をさらに充実していく必要がある。



左／地域の皆様や障害福祉関連事業所のスタッフとアートウォール共作時の様子
右／「バリアフリー演劇鑑賞会」開演前の舞台上、体験型の舞台装置等を説明する様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、7月～3月] [専門家相談、9/24～3/25 (合計6回)] [デジタルアート体験、オリジナル缶バッジ制作ほか、9/24] [音楽活動(「歌のつどい」)、1/29] ●人材育成 [チョークアート体験、2/25 (合計2回)] ●関係者のネットワークづくり [バリアフリー演劇鑑賞会、11/5] [ネットワークづくり検討会、11/7・3/22 (合計2回)] ●発表の機会の確保 [バリアフリー演劇鑑賞会 × 作品展示、11/5] [つばめロード 作品展、11/26～12/10] [ハートピア アートマルシェ、12/2～12/4]

支援センター運営団体 社会福祉法人ゆうかり

知的障害のある方々の施設「ゆうかり学園」において、20年ほど前から絵画クラブを創設し、定期的に利用者の創作活動を支援している。また、フランス・パリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ展」を始め、オランダ、スイスの企画展へも参加もしている。2022（令和4）年より、鹿児島県障害者芸術文化活動支援センターの運営を担っている。



連携事務局の取り組み

連携事務局

E-mail : welfare@arts-npo.org URL : https://arts.mhlw.go.jp/



支援センター、広域センターを横断的にサポートする事務局として、連携事務局が設置されている。令和4年度

は、特定非営利活動法人アートNPOリンク（美術分野）、株式会社 precog（舞台芸術分野）が協働で運営した。

今年度の課題と目標

全国7ブロック全てに広域センターが設置され、39都道府県に40の支援センターが設置された。しかし本事業への認知不足という課題は依然残されている。また、各支援センターの人材の経験値や地域内のステークホルダーとの連携状況の差異により、均一化した情報やノウハウの提供による補足が難しい。特に舞台芸術分野の活動での活動事例やノウハウの情報収集と共有が課題となっている。

全国的には、令和3（2021）年5月の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の改正を受け、本事業

業においても合理的配慮に関する普及、啓発、情報やノウハウの提供が今まで以上に必要とされている。

事業の成果については地域ごとに課題が多様なため、評価指標にもばらつきが見られる。本事業を総合的に評価できる指標を持ち、成果を可視化することが求められている。

以上により、今年度は「支援センターによる多様な芸術文化活動の支援の推進」と「本事業の成果を可視化し、認知を増やす」ということを目標に活動を行った。

今年度の成果と展望

各事業を通して、支援センターに対し多様な芸術文化活動を知る機会を多く設けることで、支援の幅を広げることにも努めた。また、支援センター間での情報交換、意見交換を積極的に行い、他のセンターの状況に触れる機会を増やすことで、センター運営に必要な知見やノウハウを得る機会を充実させた。本事業の成果の可視化にあたっては、ウェブサイトの改修、および事業紹介パンフレット等を制作し普及啓発に努めた。

平成29（2017）年度より開始された本事業は、実施の都道府県は着実に増えているものの、運営年数や予算、地

域の文化資源にかたよがりがあり、ブロック内のセンター同士では解決が難しく、ブロックを超えた情報交換や意見交換の場づくりが必要である。

また、障害福祉、芸術文化の両分野にまたがる本事業は両分野の知見を必要とするものの、文化施設や芸術団体等との関わりは不足している。

令和5～9（2023～2027）年度は、障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画の第2期にあたる期間でもある。本事業のさらなる周知を進め、都道府県における計画の策定にもつなげていきたい。

広域センターミーティング

広域センターを対象にしたオンラインミーティングを開催した。各ブロックでの近況報告や、特徴的な活動の紹介、情報不足やノウハウ不足の補完、事業の連携や協働の促進など、双方向・多方向の全国ネットワークの構築を目指した。

第1回 広域センターミーティング

日時：2022年7月20日（水）15～17時

参加者：22人

内容：今年度の事業計画の共有

[参加者] 広域センター、連携事務局、厚生労働省
[開催形態] オンライン会議ツールを使用

第2回 広域センターミーティング

日時：2023年2月13日（月）15～17時

参加者：22人

内容：今年度の報告、第3回全国連絡会議にむけての調整

情報交換ミーティング

支援センター、広域センター、事業実施自治体を対象に、地域を越えた情報交換の場として開催した。令和4年度推進事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」と連携し、センター運営に関する情報交換を行った。

[レポート]

ミーティングの冒頭、特定非営利活動法人ドネルモより「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」についての説明と支援センターへのアンケートの結果報告があった。「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」の説明では「障害者芸術文化活動支援センター設置・運営マニュアル」は完成から5年が経過し、芸術文化活動の分野や支援センターを取り巻く環境の変化を踏まえたマニュアルの更新が必要になったこと、支援センターは地域によって組織体制や予算規模に差があるものの、地域特性を活かし一定の質を提供できる中

間支援体制が求められているといったことが挙げられた。その後、4つのグループに分かれ支援センター同士の交流・情報交換を行った。グルーブトークでは「支援センターごとに予算の差がかなり大きく驚いた」といった感想や「長年活動してきたスタッフの引き継ぎの方法等もマニュアルに盛り込んでもらえたらありがたい」といった要望も出た。コロナ禍では、他地域の支援センターとの情報交換の機会が少なかったこともあり、積極的に交流している様子が見受けられた。

事業概要	
1. 広域センター等に対する支援	●広域センターミーティング（年2回） ●情報交換ミーティング（年1回）
2. 全国連絡会議の実施	●全国連絡会議（年3回）
3. 全国の情報収集・発信	●舞台芸術のモデルプログラムの調査研究、発信 ●事業紹介パンフレットの制作 ●ウェブサイトの改修
4. 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等	●ウェブサイトにおける特集記事の企画、制作、発信 ●メディアタイアップ、デジタル広告 ●報告書作成 ●SNSの運用
5. 障害者団体、芸術団体等との連携	●障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワークとの情報交換 ●横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）との連携によるシンポジウム開催

全国連絡会議

支援センター、広域センター、都道府県担当者が集まり、事業実施に係る連絡事項や留意事項を伝達、確認した。また、事業の実施に必要な基礎知識や専門的知見を全体で共有する講義・研修プログラムを企画、開催した。当日の欠席者に対しては、記録動画を公開した。

第1回

日時：2022年5月26日(木) 15～17時

開催形態：オンライン会議ツールを使用

当日参加者：90人、視聴回数：57回

- 障害者芸術文化活動普及支援事業について(厚生労働省)
- 令和4年度年間事業計画について(連携事務局)
- 令和3年度調査研究報告について
「全国の障害者による文化芸術活動の現状分析に関する研究」について(株式会社ニッセイ基礎研究所)
「障害福祉分野の行政職員等を対象とした障害者による文化芸術活動に関する研修ツールの研究」(特定非営利活動法人ドネルモ)

[レポート]

今年度始めの全国連絡会議では、令和3(2021)年度に取り組んだ「全国の障害者による文化芸術活動の現状分析に関する研究」について株式会社ニッセイ基礎研究所から報告があった。そのなかで、本事業の実施団体が相談支援や人材育成といった軸となる事業以外に、ほかの団体と連携しながら活動を広げていることなどが挙げられた。組織や予算などが大きい団体ほど、ほかの施策等と連鎖し相乗効果が生まれている。そのほかの課題としては、文化施設との連携、障害者の芸術文化活動における「芸術上の価値」の考え方の整理と言語化などが挙げられた。事業の結果(アウトプット)や成果(アウトカム)については、論理的

第2回

日時：2022年12月9日(金) 10時30分～16時

開催形態：対面(後日YouTube配信)

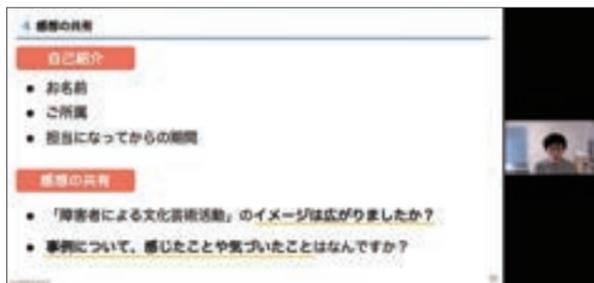
会場：横浜情報文化センター 情文ホール

当日参加者：51人

視聴回数：53回、本事業関係者以外の視聴回数：303回

第2回全国連絡会議「シンポジウム「障害者による芸術文化活動のこれから」の様子

[参加者] 支援センター、広域センター、連携事務局、事業実施自治体、厚生労働省



第1回全国連絡会議の様子

なつなりの整理や確認をするためにも長期的な測定が必要になるという見解が示された。特定非営利活動法人ドネルモからは「障害福祉分野の行政職員等を対象とした障害者による文化芸術活動に関する研修ツールの研究」の報告があった。昨年度、本研究では障害者による文化芸術活動に初めて携わる方に向けて、関係者の理解や認識の向上をはかるため、ハンドブックと講師向け資料、ハンドブックの要点を抜粋したスライドの3点が制作された。講師向け資料は、支援センター職員が講師となって研修やセミナーを行う場合のガイドとなるものである。今回は本ツールを使って模擬研修を体験した。



[午前]

- 「第2期障害者文化芸術活動推進基本計画」検討状況に関する経過報告(厚生労働省)
- 厚生労働省令和4年度推進事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」の経過報告(特定非営利活動法人ドネルモ)
- 支援センター・広域センターによる情報交換・交流会

[レポート]

第2回全国連絡会議は、3年ぶりに対面での開催となった。午前中は「第2期障害者文化芸術活動推進基本計画」および「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」の検討状況に関する経過報告があった。その後、幾つかのグループに分かれ、情報交換・交流会を行った。

午後からのシンポジウム「障害者による芸術文化活動のこれから」はYPAM(横浜国際舞台芸術ミーティング)と連携し、一般参加者も交えて開催された。前半は各ゲストの事例紹介、後半はディスカッションという流れで進められた。

恵志美奈子さんから、演劇を用いたコミュニティプログラムや地域連携プログラムの紹介があった。「地域の物語」では、「介助」や「生と性」といったテーマで集まった者同士が対話を重ね、演劇の創作を通してオールインクルーシブな場をつくっていた。ほかにも、障害当事者にインタビューし聞き書きという手法を使った演劇や、社会福祉協議会等と協働した事業について伺った。

鈴木勸滋さんと新井英夫さんは、2011年から行われている生活介護事業所カブカブでのダンスワークショップについて紹介があった。新井さんは「大体決めて、あとは適当」をキャッチフレーズに、参加者自らが「ちょうどいい」を選べるよう進行するそうだ。参加者のこだわりや悩みごと等を表現し互いに共有する、それが日常の下支えになるという。また、現在新井さんは車椅子を使用されており、できないが増えると気持ちが小さくなるが、ワークショップに参加することで生きるエネルギーが充電されると話して

[午後]

- シンポジウム「障害者による芸術文化活動のこれから」
ゲスト：恵志美奈子(世田谷パブリックシアター劇場部学芸員)
鈴木勸滋(生活介護事業所カブカブ所長)
新井英夫(体奏家・ダンスアーティスト)
山上庄子(Palabra株式会社代表取締役)
進行：大澤寅雄(連携事務局/NPO法人アートNPOリンク)

おられ、その場がスタッフや利用者、アーティストの垣根を超えたものになっていると感じた。

山上庄子さんは「文化芸術を誰もが楽しめるひらかれたもの」というミッションのもと行われている、Palabra株式会社の取り組みについて報告があった。映画の字幕・音声ガイドを制作する際は「モニター検討会」を実施し、映画の制作者、当事者モニター、字幕・音声ガイド制作者の三者が集まり、最終的なブラッシュアップを行う。字幕・音声ガイドの感想が最初に出るのではなく、作品の感想が出てくるような字幕、音声ガイドを目指して制作を進めている。そのほか、近年では「UD Cast」という字幕・音声ガイドを自動再生するアプリケーションのサポートセンター業務や、演劇を上演する際の予約方法や場内アナウンスといった周辺の合理的配慮のコンサルティングも行っている。

後半のディスカッションでは、鈴木さんが「カブカブのワークショップでは、障害の有無にかかわらず誰もが感じる生きづらさを緩めること、従来の人間関係を組み直すことを意図的に行っている」と話し、それはどの事例にも共通することだった。また、プロジェクトや事業において、地域や関係者、参加者との関係を深め継続していくための工夫については、恵志さん、山上さんがともに「自分の専門性を意識すること」と述べていた。それぞれの専門性を足場に、活動の広がりをつくっていることが伺えた。障害者による芸術文化活動が大きく広がっていくことを期待しシンポジウムは終了した。

第3回

日時：2023年3月22日（水）13～15時

開催形態：オンライン（zoom、youtubeライブ）

当日参加者：79人、視聴回数：47回

- 「第2期障害者文化芸術活動推進基本計画」に関する報告（厚生労働省）
- 厚生労働省令和4年度推進事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」に関する報告（特定非営利活動法人ドネルモ）
- 令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業に関する報告

発表の機会の確保について

【南東北・北関東ブロック】

とちぎアートサポートセンターTAM（栃木県）

南東北・北関東ブロック広域センター

【中国・四国ブロック】

島根県障がい者文化芸術活動支援センター

アートベースしまねいろ（島根県）

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle（パスレル）

【南関東・甲信ブロック】

ザワメキサポートセンター

（長野県障がい者芸術文化活動支援センター）（長野県）

南関東・甲信障害者アートサポートセンター

【レポート】

第3回全国連絡会議は、各ブロックから広域センター、支援センターの担当者が登壇し、「発表の機会の確保」と「関係者のネットワークづくり」の2つのテーマに分かれ「令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業に関する報告」を行った。

「発表の機会の確保」では、南東北・北関東ブロックのとちぎアートサポートセンターTAMの発表から始まり、「Viewing展」が支援者たちの人材育成の場としても機能していることを挙げ、展覧会運営を経験した支援者が発表の場を各地でつくり、障害者の芸術文化活動を知る機会を広げてほしいと話していた。

四国・中国ブロックの島根県障がい者文化芸術活動支援センターからは、「島根県障害者アート作品展」について発表があった。作品展を通して出展者やその方が所属する事業所と顔が見える関係を育むことができ、作品展以外のことでも相談される機会が増えたそうだ。

南関東・甲信ブロックのザワメキサポートセンター 長野県障がい者芸術文化活動支援センターは、「ざわめきアート展」での審査過程において、一次審査後に作家に取材に行っている。作家との関係性を大事にしているという話が印象に残った。

後半のテーマ「関係者のネットワークづくり」では、東海・北陸ブ



第3回全国連絡会議の様子

関係者のネットワークづくりについて

【東海・北陸ブロック】

文化・芸術活動支援センターかける（石川県）

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

【近畿ブロック】

ひょうご障害者芸術文化活動支援センター（兵庫県）

障害とアートの相談室

【北海道・北東北ブロック】

青森アール・ブリュットサポートセンター（青森県）

アールブリュット推進センター Gently

【九州ブロック】

宮崎県障がい者芸術文化支援センター（宮崎県）

九州障害者アートサポートセンター

ロックの文化・芸術活動支援センターかける（石川県）から、作品をデザインした缶バッジを販売する自主製品開発プロジェクト「かけるのガチャ」において、福祉事業所の支援員に販売に至るまで伴走することで信頼関係が構築されていくことを話されていた。

近畿ブロックのひょうご障害者芸術文化活動支援センターは、昨年度好評だったオンラインセミナーを、今年度は講師が施設や事業所に出向く出前講座として実施した。コロナの影響で2施設しか訪問できなかったが、施設の雰囲気を感じ、作品を見ながらざっくばらんに意見交換ができ、ネットワークの足がかりになる可能性を感じたとのことだった。

北海道・北東北ブロックの青森アール・ブリュットサポートセンターは「支援者養成巡回プログラム」のなかで、令和2（2020）年度から巡回コンサルティングを行っている。事業所に講師が赴き、創作活動に関する研修やアドバイス等を受ける。参加した事業所の職員からは作品の捉え方や作家個人への向き合い方が変わったという感想があったそうだ。

九州ブロックの宮崎県障がい者芸術文化支援センターからは、視覚障害者に鑑賞のサポートが必要ではないかという思いから、美術館学芸員や特別支援学校の先生などと協力しガイドブックの作

成や鑑賞ツアーを実施し、担当者の疑問や思いからネットワークが広がる事例を発表いただいた。

前半では公募展での審査についての意見交換があり、福祉関係者以外に様々な分野の専門家が関わることで多様な評価が生まれることを期待する一方、競争、比較する世界に誘っていないかと葛藤しながらも、本人の意志に寄り添っていきたいという意見があり、さらには出展後の作家との向き合い方についても言及があった。

舞台芸術のモデルプログラムの調査研究、発信

全国各地で実施されている舞台芸術の取り組みについて調査研究を行い、記事企画を行った。言葉と写真だけでは伝えるのが難しいことから、動画を交えウェブサイトにて発信した。

近年、舞台芸術の活動は「創作」や「発表」を前提にせ

後半ではどのブロックも、展覧会やセミナー等の事業を実施したときにネットワークが生まれていると感じた。また、限られた体制・予算で運営している支援センターほど、ネットワークが必要不可欠であることも分かった。

短い発表時間ではあったが、広域ブロックからは今年度の事業報告や課題の共有、支援センターからは設置までの経緯や課題、今後の目標等も発表いただいた。

特集記事：あるく、たたく、しゃべるから広がる身体表現

【あるく】不思議と物語がついてくる

NPO法人リベルテ（長野県『花とひらく』）

NPO法人スウィング（京都府『ゴミコロリ』）

【たたく】音から伝わる気持ちに音で返答していく

医療法人薪水浦河ひがし町診療

（北海道『ひがし町パーカッションアンサンブル』）

社会福祉法人育護会浅間学園（長野県『原始人の会話』）

【しゃべる】雑談に新たな枠組みを持ち込んでみる

特定非営利法人木々の会むくどりの家

（神奈川県『むくどりのモロモロ』）

地域活動ホーム サポートセンター 連（神奈川県『れんらじお』）

たんぼぼの家 アートセンター HANA

（奈良県『息のキャッチボール』）



特集記事：あるく、たたく、しゃべるから広がる身体表現

URL：<https://arts.mhlw.go.jp/spc/13339.html>

事業紹介パンフレットの制作

本事業を紹介するパンフレットを、音声読み上げ機能用のUni-Voiceコードを埋め込み制作。広域・支援センター等へ配布し、地域の関係団体・障害当事者や支援者等への周知に活用した。パンフレットはウェブサイトにも掲載し、各支援センター等が利用できるようにした。

【仕様】A4判8ページ/カラー/7000部

【送付先・件数】広域センター・支援センター・

行政・各種イベント会場等



令和4年度
事業紹介パンフレット

ウェブサイトの改修

本事業ウェブサイトは、活動の最新情報や障害者芸術文化活動のノウハウ、これまでのアーカイブ機能を併せ持つ情報価値の高い設計が求められている。また、ターゲットが本事業を担う広域・支援センターから、障害当事者、福祉施設職員、アーティストなど多岐にわたる。今

年度、情報設計の検証を行ったところ、いくつか課題が出てきたため、改修を行った。



URL: <https://arts.mhlw.go.jp/>

改修内容

- ① グローバルナビゲーションのタイトル改修
- ② トップページの情報再編、レイアウト変更、インデックスの新設
- ③ 「取組コラム&事例集」ページの再編成、レイアウト、インデックスの変更
- ④ サイト全体のワーディングの見直し、編集
- ⑤ 動画を積極的に活用したコンテンツの拡充
- ⑥ 令和4年度厚生労働省推進事業「障害者芸術文化活動支援センターの効果的な運営に関する研究」との連携
- ⑦ その他

特集ページ

今年度は6つの支援センターにインタビューし、以下の通り公表した。

[全国] 普及支援事業紹介「表現することで生きづらさを解消し、自立や社会参加へ。障がいのある人とアートとの出会いをサポートする支援センターとは？」

[福島県] はじまりの美術館「自分たちで考え、作家や鑑賞者と関わりながらで上がる展示会は、担当者も驚くほどいろいろな膨らみがある」

[北海道] アールブリュット推進センター Gently「支援センターの歩みを振り返り、より個性を生かし、モチベーションを高める活動を支えていく」

[佐賀県] 佐賀県障がい者芸術活動支援センター SANC「ネットワークを活用しながら、裾野を広げる役割を改めて認識」

[静岡県] 静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと「まずは知ることから」芸術文化をきっかけに、障害のある人のこと、障害について考えていただける事業に取り組んでいく」

[山梨県] YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター「攻めの相談支援で「縫い針のように」つなぐ新たなネットワークを構築」

[京都府] art space co-jin「厳選した作家を長期間にわたってアーカイブしていくわけ」



「取組コラム&事例集」ページ

広報企画 メディアタイアップ・SNS・デジタル広告

- ハフポストで、本事業の設立背景や全国的な活動内容を紹介する記事を掲載した。昨年に引き続き、20～50代のビジネスパーソンや学生・院生を中心として社会課題解決を目指す個人や法人に向けて記事を企画、発信し、本事業ウェブサイト上の支援センターの活動紹介記事にリンクすることで、本事業関係者以外の読者の本事業ウェブサイトへの流入が増加した。
- Facebookの投稿数は84件、累計フォロワー数は1,036人（男性606、女性430）となり、「リアクション」（いいね!、コメント、シェアなどのリアクション数）も7,763となった。支援センターや本事業の活動に対して認知が広がっていること、共感を得ていることが分かった。
- SNS広告では、本事業の趣旨・目的に合わせて訴求ポイントを抽出し、それにマッチしたキーワードを60種類

用意。世代や居住地を問わず広く一般層への普及を試みた。結果、「発表」「差別」というワードがそれぞれ数十万を越えるインプレッションを獲得してトップとなり、続いて「偏見」「障害」「福祉」というワードが数万を越えるインプレッションを獲得。「アート」や「障害者芸術」よりも、「差別」や「発表」というキーワードは社会課題を想起させるためか興味関心層への訴求効果が高いことが分かった。

インプレッション（広告をみた人の数）
4,717,092（目標対比289%）
リーチ数（クリックして閲覧した回数）
14,079（目標対比172%）

連携事務局運営団体について

特定非営利活動法人 アートNPOリンク（美術分野）

〒220-0004
神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル地下1階
TEL: 045-325-0414 FAX: 045-325-0414
E-mail: info@arts-npo.org
URL: <https://arts-npo.org/>



アートNPOが多様な価値を創造し、社会を動かす力を持つ社会的な存在であるとの認識のもとに、この力を広く社会にアピールするための中間支援組織。市民自治の理念にもとづき、アートと社会の橋渡しを通して、幅広く領域をこえたNPOと連携し豊かな市民社会を創出する役割を担う。社会に向けて提言、他のセクターとのパートナーシップ、情報収集・発信・研究調査、地域密着型のミニフォーラム開催等を行っている。

株式会社 precog （舞台芸術分野）

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂1-24-15
TEL: 03-6825-1223 FAX: 03-6421-2744
E-mail: info@precog-jp.net
URL: <https://precog-jp.net/>



アートプロジェクトの企画・運営を行う制作会社。活動テーマを“横断と翻訳”とし、近年は“アクセシビリティ”（アクセスのしやすさ）と“インクルージョン”（包摂）にも力を入れ、プロジェクトの同時代性や新たな事業展開を追求し続ける。アーティストやクリエイター、そしてさまざまな分野の専門家と協働し、芸術体験と観客を鑑賞で繋ぐだけでなく、国際交流・福祉・地域活性・教育普及など多角的なアプローチによって「新しい価値」を生み出し、“表現”の未来をつくる。

数値で見る実績

[対象センター] 47ヶ所 (支援センター: 40ヶ所、広域センター: 7ヶ所)

[対象期間] 事業開始日～2023年3月31日

相談件数

障害のある当事者や支援者、家族等から寄せられた芸術文化活動に関する相談件数は、以下の通りである。センターが相談対応した。近年は文化施設や自治体、企業からの相談が増加している。美術分野はすべてのセンター、舞台芸術分野は35のセ

年度	相談件数
2022(令和4)年度	4,102件 (美術分野 2,762件 / 舞台芸術分野 441件 / その他 899件)
2021(令和3)年度	4,183件 (美術分野 2,414件 / 舞台芸術分野 475件 / その他 1,294件)
2020(令和2)年度	3,175件 (美術分野 2,033件 / 舞台芸術分野 325件 / その他 817件)
2019(令和元)年度	4,941件 (美術分野 4,193件 / 舞台芸術分野 370件 / その他 378件)
2018(平成30)年度	3,892件 (美術分野 3,495件 / 舞台芸術分野 397件)
2017(平成29)年度	3,644件 (美術分野 2,853件 / 舞台芸術分野 791件)

※2019年度までは回数による報告も含む

研修会の件数

支援に必要な知識や技術、著作権、権利保護等の講座や、展覧会の制作を通じて展示の知識やノウハウを学ぶ実践研修等を38のセンターが行った。オンラインのハイブリッド形式、対面での研修会を申込者に後日配信といった方法でのオンライン研修は、25のセンターが行った。うち、オンライン会議ツールを利用した研修や対面とオ

年度	実施回数	参加者数
2022(令和4)年度	210回 (うち、オンライン99回)	5,115人 (うち、オンライン3,485人)
2021(令和3)年度	253回 (うち、オンライン187回)	8,950人 (うち、オンライン7,888人)
2020(令和2)年度	175回 (うち、オンライン108回)	10,539人 (うち、オンライン9,315人)
2019(令和元)年度	197回	4,501人
2018(平成30)年度	162回	4,173人
2017(平成29)年度	175回	3,601人

展覧会などの美術企画

展覧会や創作ワークショップ等の美術分野の企画を、42のセンターが開催した。ウェブサイトでの作家・作品紹介や無観客展覧会の動画配信、オンライン会議ツールを利用した美術活動を体験するワークショップ等のオンライン企画に、29のセンターが取り組んだ。

年度	出展もしくはワークショップに参加した障害のある人	来場者数
2022(令和4)年度	6,799人 (うち、オンライン1,135人)	11万8,390人 (うち、オンライン33,626人)
2021(令和3)年度	7,176人 (うち、オンライン1,782人)	11万6,691人 (うち、オンライン23,451人)
2020(令和2)年度	4,944人 (うち、オンライン448人)	4万8,464人 (うち、オンライン6,927人)
2019(令和元)年度	2,852人	17万3,468人
2018(平成30)年度	1,621人	10万8,979人
2017(平成29)年度	1,122人	4万8,604人

公演などの舞台芸術企画

舞台公演や身体表現のワークショップ等の舞台芸術分野の企画を、30のセンターが開催した。自宅・施設等からオンライン会議ツールで出演・参加、事前に撮影した映像や会場でのパフォーマンスを配信するなどのオンライン企画に、11のセンターが取り組んだ。

年度	出展もしくはワークショップに参加した障害のある人	来場者数
2022(令和4)年度	956人 (うち、オンライン553人)	18,263人 (うち、オンライン10,057人)
2021(令和3)年度	653人 (うち、オンライン398人)	13,493人 (うち、オンライン7,210人)
2020(令和2)年度	1,065人 (うち、オンライン410人)	9,257人 (うち、オンライン7,350人)
2019(令和元)年度	1,218人	5,645人
2018(平成30)年度	622人	5,799人
2017(平成29)年度	904人	7,472人

情報発信

テレビ、新聞等のメディアへの掲載、ウェブサイトやSNS等に関する情報発信の取り組みである。42のセンターのウェブサイトで、本事業に関する記事が3,278件投稿された。新聞や雑誌、テレビ、ラジオ等に本事業が取り上げられた件数は462件であった。コロナ禍ではどのセンターもウェブサイト等での発信に力を入れていたが、徐々に行動制限が緩和され、対面で行う企画の実施に注力している様子が見受けられる。

年度	ウェブサイト 投稿数	ウェブサイト アクセス数	メディア掲載・報道数
2022(令和4)年度	3,278件	81万1,120件	462件
2021(令和3)年度	3,535件	160万6,647件	446件
2020(令和2)年度	2,756件	107万2,695件	393件
2019(令和元)年度	2,392件	94万8,993件	332件
2018(平成30)年度	1,560件	37万9,073件	313件
2017(平成29)年度	582件	17万3,941件	161件

※SNSの投稿数を含めているセンターあり。

※SNSのアクセス数を含めているセンターあり。

令和4年度
障害者芸術文化活動普及支援事業 報告書

2023年3月31日

企画・発行

令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業 連携事務局
<https://arts.mhlw.go.jp/>

特定非営利活動法人アートNPOリンク（美術分野）

〒220-0004

神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル 地下1階

E-mail : info@arts-npo.org TEL : 045-325-0414

株式会社precog（舞台芸術分野）

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂1-24-15

E-mail : info@precog-jp.net TEL : 03-6825-1223

連携事務局

大澤 寅雄、小川 智紀

田中 真実、川那辺 香乃

（特定非営利活動法人アートNPOリンク）

中村 茜、金森 香

大久保 玲子、和久井 碧、今井浩一

（株式会社precog）

デザイン

岡本健+

編集

大谷 薫子、北沢 理美

印刷・製本

共進印刷

厚生労働省
「令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業」の
補助を受けて作成しました。

